

平成26年度 国立女性教育会館

主催事業等実施報告書



NATIONAL WOMEN'S EDUCATION CENTER

調査研究

男女共同参画に関する専門的・実践的な調査及び研究の実施

研修

男女共同参画を推進するリーダーの資質向上・ネットワーク化を目指した各種研修の実施

情報

男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する情報及び資料を収集・整理し、提供

基幹的な指導者の
資質・能力向上

喫緊の課題に
係るプログラムの
開発・普及

調査研究とその成果や
資料・情報の提供

男女共同参画社会の
形成の促進
女性のエンパワ
メント

国際貢献・
連携協力の推進

利用者への
男女共同参画に
関する理解の促進

国内関係機関・団体等
との連携協力の推進

教育・学習支援

教育・学習プログラムの開発・提供から、男女共同参画を推進する組織や担当者を対象とした事業実施や組織運営等へのサポート

国際連携

ナショナルセンターとして、海外の機関との連携体制を構築・強化

国立女性教育会館作成資料

<出版物>

「出版物」はホームページの「出版物・作成資料」(<http://www.nwec.jp/jp/publish/>) からダウンロードできます。



第59回国連婦人の地位委員会 (CSW) 早わかり

第59回CSWでの議論について理解を深めていただくための資料を作成しました。2014年3月に作成した「国連婦人の地位委員会 (CSW) 早わかり」の内容を一部改稿し、第59回CSWの概要をはじめ、「CSWとは」「パネル・ディスカッション」「サイド・イベント」など、CSWについての理解を深めていただくための資料 (早わかり) です。



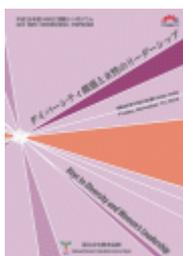
実践ガイドブック 大学における男女共同参画の推進

平成25年度から26年度に実施した「大学等における男女共同参画に関する調査研究」の成果をまとめました。大学の男女共同参画やマネジメントにかかわるあらゆる立場の者が、取組をすすめるうえで役立つ情報や事例をまとめています。



2014 NWEC リーダーセミナーレポート

国立女性教育会館では、ICTが拓く女性のエンパワーメントをテーマとした国際研修、「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」を『デジタル時代におけるジェンダーとICT』が刊行されました。



平成26年度NWEC国際シンポジウム 資料集

【テーマ：ダイバーシティ推進と女性のリーダーシップ】平成26年11月21日に実施した「NWEC国際シンポジウム」の報告資料集です。



女性研究者支援のためのシステムの構築と政策提言のための研究—日中韓の比較から— 報告書

「女性研究者支援のためのシステムの構築と政策提言のための研究—日中韓の比較から— (科学研究費助成事業)」の報告書です。本研究は、女性研究者比率の伸張が見られる韓国、科学工学系博士取得者数が増加している中国とを比較研究することにより、共通する課題を明らかにするとともに、韓国、中国の女性研究者支援のシステムの考察を目的とした、平成24年度から26年度の3年間にわたって行なった研究の成果です (平成27年3月刊行)。



NWEC 実践研究

第5号では、「大学における男女共同参画の推進」をテーマとして取り上げ、女性のエンパワーメント、男女共同参画の推進に関する研究報告、女性関連施設や女性団体の実践活動を掲載しています。また、NWECの事業や研究報告を紹介しています。

はじめに

独立行政法人 国立女性教育会館は、我が国唯一の女性教育のナショナルセンターとして、女性教育指導者や女性教育関係者に対する研修、女性教育に関する専門的な調査及び研究を行うことにより、女性教育の振興を図り、もって男女共同参画社会の形成の促進に資することを目的としています。

平成26年度はその目的を達成するために、「研修」「調査研究」「情報」「国際関係」「教育・支援」の5つの柱を有機的に連携させつつ事業を実施しました。

研修事業では、男女共同参画推進機関や大学、企業等における女性の活躍促進をめざした研修のほか、新たに、研修・学習事業の企画・実施経験を有する者を対象とした「学習オーガナイザー養成研修」を、試行的に実施しました。

調査研究事業では、調査研究の成果として『実践ガイドブック 大学における男女共同参画の推進』を作成し、大学の男女共同参画推進やマネジメントにかかわる立場の者にとって役立つ手引き書としました。

このたび、これらの事業の成果をまとめ、『平成26年度国立女性教育会館主催事業等実施報告書』を作成しました。調査研究事業等の報告書と併せ、皆様に活用いただければ幸いです。

平成27年11月

独立行政法人 国立女性教育会館
理事長 内海 房子

目 次

I	研修事業	
1	女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修	6
2	ダイバーシティ推進リーダー会議	14
3	女子中高生夏の学校 2014～科学・技術・人との出会い～	18
4	男女共同参画推進フォーラム	33
5	企業を成長に導く女性活躍促進セミナー	39
6	大学等における男女共同参画推進セミナー	48
7	女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）＋（実技コース）	55
8	女性関連施設相談員研修	59
9	女子大学生キャリア形成セミナー	65
II	調査研究事業	
10	大学等における男女共同参画に関する調査研究	72
11	男女共同参画統計に関する調査研究	74
12	女性関連施設に関する調査研究	76
13	若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究	78
III	情報事業	
14	情報資料の収集・整理・提供（大学・企業関係資料の充実）	82
15	女性情報ポータル及びデータベースの整備充実	84
16	図書のパッケージ貸出	85
17	女性アーカイブ機能の充実と全国の女性アーカイブとのネットワークの強化	87
IV	国際連携事業	
18	アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー	90
19	NWEC 国際シンポジウム	93
20	課題別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」	95
V	教育・学習支援事業	
21	大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進	104
22	学習オーガナイザー養成研修	111
VI	ボランティアの受入れ・支援	
23	NWEC ボランティアの活動支援	118
	<参考資料>	
	独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画（平成 26 年度）	124

平成26年度国立女性教育会館主催事業等実施日一覧(実施日順)

事業名	実施日	分類	ページ
女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修	H26.5.21～23	I	6
ダイバーシティ推進リーダー会議	H26.6.12～13	I	14
女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～	H26.8.7～9	I	18
男女共同参画推進フォーラム	H26.8.29～31	I	33
アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー	H26.9.28～10.4	IV	90
企業を成長に導く女性活躍促進セミナー(第1回)	H26.10.17～18	I	39
課題別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」	H26.10.20～31	IV	95
NWEC国際シンポジウム	H26.11.21	IV	93
大学等における男女共同参画推進セミナー	H26.12.4～5	I	48
女性情報アーキビスト養成研修(基礎コース)+(実技コース)	H26.12.10～12	I	55
学習オーガナイザー養成研修	H27.1.14～16	V	111
女性関連施設相談員研修	H27.2.4～6	I	59
女子大学生キャリア形成セミナー	H27.2.21～22	I	65
企業を成長に導く女性活躍促進セミナー(第2回)	H27.3.19	I	43

分類

- I 研修事業
- II 調査研究事業
- III 情報事業
- IV 国際連携事業
- V 教育・学習支援事業
- VI ボランティアの受入れ・支援

I 研修事業

- 1 女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修
- 2 ダイバーシティ推進リーダー会議
- 3 女子中高生夏の学校 2014～科学・技術・人との出会い～
- 4 男女共同参画推進フォーラム
- 5 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー
- 6 大学等における男女共同参画推進セミナー
- 7 女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）＋（実技コース）
- 8 女性関連施設相談員研修
- 9 女子大学生キャリア形成セミナー

1 女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修

- 1 趣 旨 男女共同参画の目指すところは一人ひとりが尊重され、男女があらゆる分野に参画することができる社会である。この研修では、地域における男女共同参画社会の推進に関わる基幹的指導者（リーダー）を対象に、女性活躍の促進の動きを踏まえ、男女共同参画社会実現の方策を考えることを目的とする。
- 2 主 題 「女性活躍の推進と男女共同参画」
- 3 特 徴 ・男女共同参画の視点を持ち、実態把握・課題分析を行い、実践に結びつける
・男女共同参画の中核となるリーダーの、関係力・連携力の向上を図る
・実践事例を重視し、課題解決につなげる
・研修の成果を地域に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ生かす
- 4 主 催 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 5 共 催 NPO法人全国女性会館協議会（女性関連施設管理職コースにおける共催）
- 6 会 場 NWE C
- 7 期 日 平成26年5月21日（水）～5月23日（金） 2泊3日
- 8 対 象 （1）女性関連施設管理職コース
公私立女性会館・女性センター、男女共同参画センター等、男女共同参画社会の形成に向けた拠点としての施設の管理職
（2）地方公共団体職員コース
都道府県・市区町村の男女共同参画推進責任者
（3）団体リーダーコース
地域で男女共同参画を推進する団体等のリーダー
- 9 参 加 者 女性関連施設管理職コース 64名（定員50名）
地方公共団体職員コース 41名（定員35名）
団体リーダーコース 33名（定員35名）

10 都道府県別参加者数

都道府県	人 数								
北海道	5	埼玉県	12	岐阜県	1	鳥取県	1	佐賀県	1
青森県	1	千葉県	8	静岡県	3	島根県	1	長崎県	1
岩手県	3	東京都	18	愛知県	5	岡山県	3	熊本県	5
宮城県	3	神奈川県	4	三重県	2	広島県	2	大分県	
秋田県	1	山梨県	1	滋賀県	2	山口県	3	宮崎県	
山形県	1	新潟県	6	京都府	1	徳島県		鹿児島県	
福島県	3	長野県	3	大阪府	7	香川県		沖縄県	
茨城県	7	富山県	2	兵庫県	3	愛媛県	2	無回答他	
栃木県	4	石川県	1	奈良県		高知県	1	合 計	138
群馬県	3	福井県		和歌山県	1	福岡県	7		

11 プログラムデザイン

別紙添付

12 プログラムの構成・得られた成果

<管>…女性関連施設管理職コース、<地>…地方公共団体職員コース、<団>…団体リーダーコース

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
5月21日 11:00～11:50	(※希望者のみ参加) プレ・ワークショップ「女性活躍の推進と男女共同参画」 主に初任者を対象として、日本における男女共同参画推進の歴史的背景など基礎知識を学ぶ。	講師： 千装 将志 (NWE C事業課専門職員)	男女共同参画の基本的知識について最新の統計データ等を用い、分かりやすく説明することで、以後の各講義に対する理解を深めることができた。
13:15～13:30	(1) 開会 ①主催者あいさつ ②共催者あいさつ	①内海 房子 (NWE C理事長) ②桜井 陽子 (全国女性会館協議会理事長)	
13:30～13:35	(2) プログラムの趣旨説明	引間 紀江 (NWE C事業課専門職員)	
13:40～15:00	(3) 報告「男女共同参画社会形成に向けた今日の政策課題」 男女共同参画や女性活躍の促進に向けた施策についての説明と今後の方向性について理解を深める。	報告者： 湯澤 麻起子 (内閣府男女共同参画局推進課課長補佐) 藤江 陽子 (文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課課長) 河村 のり子 (厚生労働省雇用均等・児童家庭局雇用均等政策課課長補佐)	内閣府より「女性の活躍促進」に関する施策の全体像について、文部科学省より「女性の活躍促進」における若年者や再就職希望者に対する学びの支援について、厚生労働省より「女性の活躍促進」における女性のライフステージに対応した活躍支援、仕事と子育て等を両立できる環境の整備について説明があった。参加者は自組織に戻って活用できる国の具体的な施策の最新情報を得た。
15:15～15:45	(4) 報告「男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援」 NWE Cで実施した調査研究の成果をもとに、報告する。	飯島 絵理 (NWE C研究国際室客員研究員) 渡辺 美穂 (NWE C研究国際室研究員)	調査研究の成果として発行した若者を対象とした学習プログラムの企画・実施での活用を想定したハンドブックを参加者に配布し、調査結果の統計データと具体的な取組事例の紹介を行ったことで、センター等で実際に活用できる情報を提供できた。
	(5) 討議「課題把握のためのディスカッション」 地域で女性の活躍を推進するための取組について、それぞれの立場から課題を把握し、明確化・共有化を図る。	報告者： 松下 光恵 (特定非営利活動法人男女共同参画フォーラムしずおか副代表理事) 寺本 恵子 (松江市市民部男女共同参画課課長) 吉田 秀子	女性関連施設、地方公共団体、団体・NPOの三者の立場から、実際の事例と課題についての報告が行われた。それぞれの活動事例を紹介するとともに、社会的変化を踏まえて、地域課題の把握、組織や体制の基盤強化、連携の強化、事業の再構築などをどのように進める

		(特定非営利活動法人 働きたいおんなたちの ネットワーク理事長) コーディネーター: 西山 恵美子 (NWE C客員研究員)	かなどの課題が示された。コー ディネーターのまとめにより、 参加者はコース別ワークショ ップに向けての課題整理の機 会となった。
19:00~20:30	(6) 情報交換会 (*希望者のみ 参加) 全国からの参加者と交流し、今後 の活動に役立てる。		参加者同士の情報交換や悩 みの共有の場となり、2日目以 降のグループワークに向けて の情報交換の機会となった。
5月22日 8:30~8:55	(7) 報告「第58回CSW(国 連婦人の地位委員会)参加報告」 (*希望者のみ参加) 平成26年3月にニューヨークの国 連本部で開催された、第58回CS Wでの議論や採択文書について報 告する。	報告者: 越智 方美 (NWE C研究国際室 専門職員) 島田 悦子 (NWE C総務課専門 官)	CSWの概要、一般討論での 議題の傾向、日本からの提出決 議案である「自然災害とジェン ダー」の採択内容、合意結論な どの解説と報告を受け、国際的 な動向について最新情報を得 ることができた。
9:00~10:30	(8) 講演「経済における女性活 躍の促進~女性関連施設等に期待 すること~」 現在進められている国の「女性活 躍の促進」の全体像について知り、 各地域で女性の活躍・男女共同 参画を推進するための方策について 考える。	講師: 岩田 喜美枝 (公益財団法人21世紀 職業財団会長)	女性活躍の推進が必要な理 由として、人材の多様性と完全 活用により企業の経営力向上 につながることを指摘。統計デ ータを基にした経済分野から の視点による解説と、今後行 うべき支援の方向性に関する提 言があった。
10:45~11:55	(9) 講義「女性の活躍を進める ために~家事労働ハラスメントの 視点から」 「家事労働と仕事の両立」や「非正 規雇用増大」などの諸課題にどう 向かい合い、施策や事業、研修に 結びつけるか。女性の活躍をすす めるためのヒントを得る。	講 師: 竹信 三恵子 (和光大学現代人間学 部現代社会学科教授)	女性非正規社員の賃金は男 性社員の半分であることや、家 事労働に対する評価の低さな どの社会的背景を指摘。さらに 介護や保育などの福祉労働に おける働き手の現状と課題を 踏まえ、女性の活躍推進は女性 に特有の労働問題の解決とセ ットで考えなければならない との指摘があった。
13:20~17:00	(10) コース別ワークショップ I 「男女共同参画の視点に立った女 性活躍推進の課題と方策」 グループワーク等を行い、女性の 活躍推進における課題を把握し、 方策を探る。 <女性関連施設管理職コース> テーマ「“女性の活躍促進”下にお ける女性関連施設の就業支援の 新たな展開1」 “女性の活躍促進”に関する国か らの施策情報を読み解き、男女共 同参画の推進を使命としてきた女 性関連施設における就業支援事業	発題者: 瀬山 紀子 (埼玉県男女共同参画 推進センター事業コー ディネーター) 納米 恵美子 (公益財団法人横浜市 男女共同参画推進協会)	<管>発題者からの話題提供 を受け、自施設で実施している 事業や課題について個別ワー クシートにまとめた後、小グル ープにより模造紙とふせんを 用いてその課題を整理・共有し た。参加者にとっては個別また は全体の課題を具体的かつ多

	<p>の新たな展開を探る。</p> <p><地方公共団体職員コース> テーマ「女性の活躍を推進するために」 推進計画や推進体制での庁内連携や、政策・方針決定過程への女性の参画の拡大、女性リーダー育成等を紹介し、女性活躍の推進を考える。</p> <p><団体リーダーコース> テーマ「地域ニーズに沿った事業展開」 生活困難を抱える女性の自立支援、起業や就労支援・新たな雇用創出に取り組む事例報告から、課題を把握し、ニーズに沿った事業展開を考える。</p>	<p>事業本部長) 松下 光恵 (特定非営利活動法人男女共同参画フォーラムしずおか副代表理事) 村山 由香里 (福岡県男女共同参画センター館長) ファシリテーター: 小山内 世喜子 (青森県男女共同参画センター副館長) 坂田 静香 (大田区立男女平等推進センター所長) 報告者: 寺本 恵子 (松江市市民部男女共同参画課課長) 草間 康晴 (長野県県民文化部人権・男女共同参画課企画幹兼課長補佐兼男女共同参画係長) ファシリテーター: 荒巻 千枝子 (千葉県環境生活部県民生活・文化課副主幹) 報告者: 田中 美幸 (NPOおきなわ共育ファンド) 吉田 秀子 (特定非営利活動法人働きたいおんたちのネットワーク理事長) ファシリテーター: 森野 和子 (株式会社ライフキャリアデザイン・アソシエイツ代表取締役)</p>	<p>面的に捉える機会となったとともに、それぞれ参加者同士の取組についての意見交換の場ともなった。</p> <p><地>事例報告を受け、それぞれの地域課題とともに各自治体共通の課題について認識することができた。小グループでは事例報告を基に、参加者自身の課題も共有した。都道府県、市町村など近い立場でのグループ分けとしたことで、より深い悩みや意見を聞くことができ、参加者同士の情報交換の促進にもつながった。</p> <p><団>改めて自分の組織・活動を振り返り、現在抱えている悩みについてグループで共有した。その後の事例報告により、自組織の課題に引きつけた気づきを得ることができた。また様々なワークショップにより、手法についても体験的に学ぶことができた。</p>
17:10~17:40	(11) 情報提供「NWEC情報機能について」	森 未知 (NWEC情報課専門職員)	女性教育情報センター概要、Winet(ウィネット)などを紹介し、参加者が職場に戻っても活用できる資料検索の方法について情報を得た。
19:00~20:30	(12) 自由交流(*希望者のみ参加) 参加者がテーマごとに有志で集		テーブルごとにテーマを決め、自由に参加しお互いに意見や情報を交換した。各コースを

	い、情報交換や交流を行う。		交えた交流の場にもなった。
5月23日 9:00～11:30	<p>(13) コース別ワークショップⅡ 「男女共同参画の視点で課題を解決する事業」 男女共同参画の視点で課題を解決する事業のあり方について、コース別に検討しヒントを得る。</p> <p><管>テーマ「“女性の活躍促進”下における女性関連施設の就業支援の新たな展開2」 ワークショップⅠで話し合われた方向性をもとに、具体的な事業構築につなげる。</p> <p><地> テーマ「地域課題を解決する事業とは」</p> <p><団>テーマ「地域課題を解決する事業とは」</p>	<p>ファシリテーター： 小山内 世喜子 (青森県男女共同参画センター副館長) 坂田 静香(大田区立男女平等推進センター所長)</p> <p>報告者： 安富 憲一 (姫路市男女共同参画推進課係長)</p> <p>ファシリテーター： 荒巻 千枝子 (千葉県環境生活部県民生活・文化課副主幹)</p> <p>報告者： 星野 直子 (NPO法人Cosmos代表)</p> <p>ファシリテーター： 森野 和子 (株式会社ライフキャリアデザイン・アソシエイツ代表取締役)</p>	<p><管>前日に整理された課題を生かし、グループごとに事業案を作成した。参加者は男女共同参画の視点からの就業支援事業について体験的に理解を深め、業務に活用できるヒントを得ることができた。</p> <p><地>事例報告を受け、地域課題を解決する事業とは何か、また地域の現状・課題の把握、新たな対象(男性、若者、子ども等)へのアプローチについて話し合いを進め、参加者同士それぞれの課題に引きつけ議論を深めることができた。</p> <p><団>事例報告を参考に、ワークショップⅠで抽出された課題について解決方法を探ることができた。また今後の実践について意見交換することで、この研修の成果を持ち帰りどう生かすか、具体的な行動として「見える化」することができた。</p>
11:45～12:35	<p>(14) 全体会「地域で男女共同参画を推進するために」 各コースのワークショップで話し合われた報告を元に、男女共同参画の推進について、連携・協働の視点から討議を行う。</p>	<p>報告者： 小山内 世喜子 (青森県男女共同参画センター副館長) 荒巻 千枝子 (千葉県環境生活部県民生活・文化課副主幹) 森野 和子 (株式会社ライフキャリアデザイン・アソシエイツ代表取締役)</p> <p>コーディネーター： 西山 恵美子 (NWE C客員研究員)</p>	<p>コース別ワークショップでの討議内容について、各コースのファシリテーター及び参加者から報告と発表があった。全体で共有することにより、他のコース(立場)の様子を知ることができ、課題と今後の対応に対する共通認識を持つ一助となり、男女共同参画について理解が深まったと同時に、課題解決への具体的な取組の実行に向けて気運が高まった。</p>
	(15) ふりかえり アンケート記入		

12:40	(16) 閉会 閉会あいさつ	櫻田 今日子 (NWE C事業課長)	
-------	-------------------	-----------------------	--

1.3 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

- ・共催者であるNPO法人全国女性会館協議会と協働でプログラムを企画した。
- ・「女性活躍推進」について、国の施策と個別の事例、理念と実践、行政と民間など、様々な切り口から多面的にとらえられるようにした。
- ・国の最新施策の報告について、各府省からの報告時間をしっかりと確保した。
- ・全体に共通に必要な知識や情報は「講義」と「情報提供」により提供した。「コース別ワークショップ」では3コースに分かれ、それぞれの所属や立場に沿った課題についてワークショップ形式で実践的に学び、「課題把握のディスカッション」と「全体会」では、三者の立場の違いと共通課題を踏まえ、連携・協働関係を意識できるようにするなど、3日間の流れとねらいに沿って、どのような手法が効果的であるかを想定してプログラムを構成した。

1.4 プログラム全体で得られた知見

- (1) 男女共同参画推進の基礎知識の理解・課題把握をし、地域ニーズに即した課題の解決のための組織のあり方、連携方法などにつながるヒント等を得ることができた。
- (2) 「女性活躍推進」に関する講義では、岩田氏の「女性管理職を増やす」という視点、竹信氏の「格差・貧困」という視点と、テーマに対するプラスマイナスの両面からの議論であり、現在のムーブメントを多角的に把握する上で役立つプログラムであった。

1.5 プログラムの成果

- (1) 参加者の全体の満足度について
93.8% (非常に満足51.9%、満足41.9%)
- (2) 参加者のプログラムの有用度について
99.2% (非常に有用64.6%、有用34.6%)

1.6 今後の課題及び展望

- ・施策説明は内閣府、文部科学省、厚生労働省の3省庁によって行われたが、研修のテーマによっては、さらに多様な省庁からの説明を求めたい。
- ・参加者の地域バランスについて、平成25年度に比べて関東地区以外の参加が11.1%増となり、全国から幅広い参加となった。
- ・実施時期を、男女共同参画週間や地方議会の開催時期と重なる6月から5月へと変更した。女性関連施設管理職コース、地方公共団体職員コースは参加者が増えており、両コースの参加者にとってはより参加しやすくなったと考えられる。特に地方公共団体職員コースの参加者は初任者が多く、業務に必要な男女共同参画の視点や基礎的知識について年度当初に学ぶことができ、また担当者同士のネットワークづくりになるなどの研修成果のさらなる活用にもつながるため、時期の変更は適当であったと考えられる。
- ・女性関連施設、地方公共団体、民間団体・女性グループを地域における男女共同参画を推進する主体と位置づけ、その基幹的リーダーが一堂に会し、研修の場をもつことの意義は非常に大きい。しかし近年はNPO法人などの民間団体が女性関連施設の指定管理者となり管理職コースに参加するなど、各コースの主体の参加がクロスオーバーしている様子も見受けられる。次年度以降はこうした変化や第4期男女共同参画基本計画の方針を見据えて、研修の枠組を整える必要がある。



課題把握のディスカッション



講演「経済における女性活躍の促進」



コース別ワークショップ
地方自治体職員コースの様子



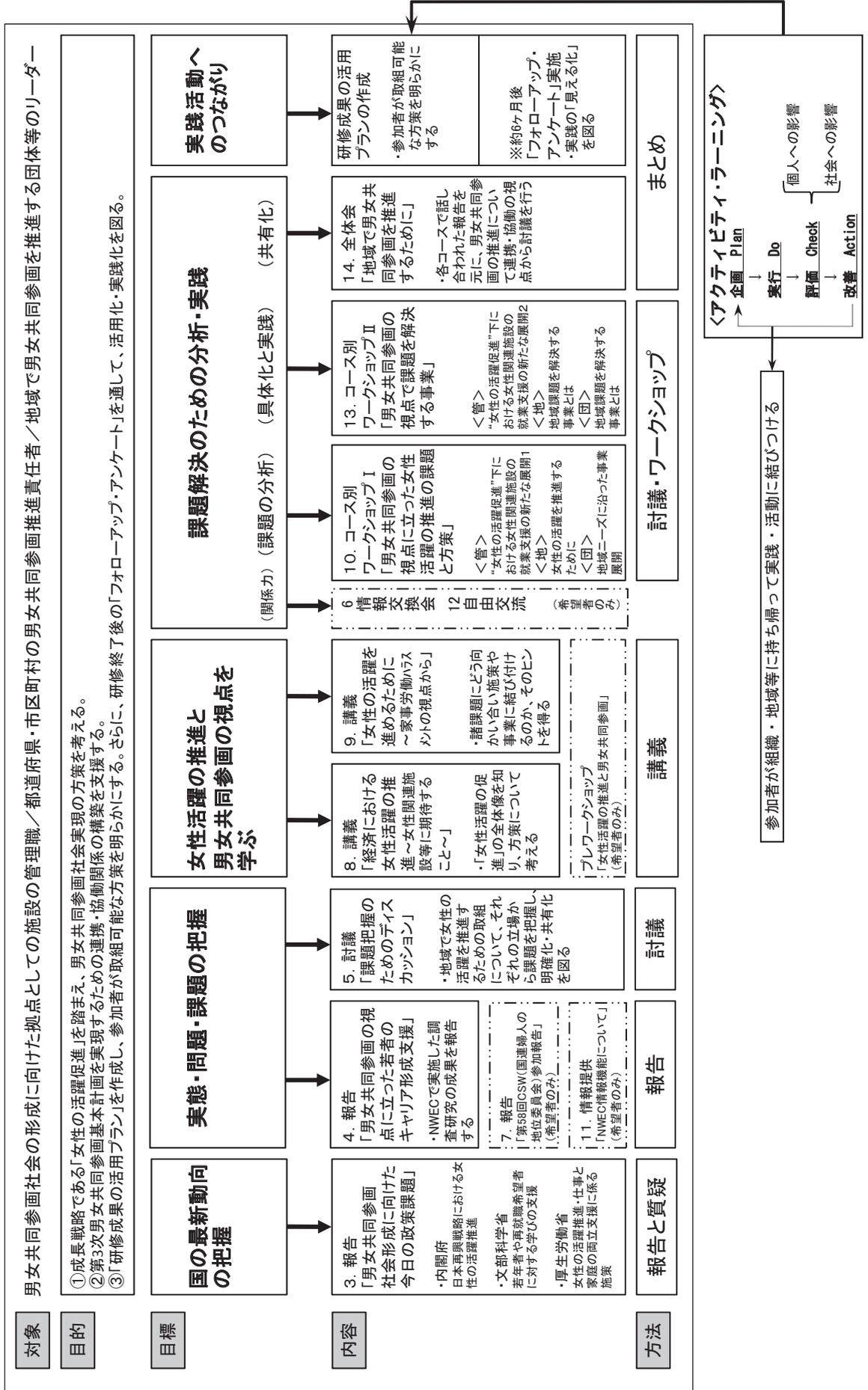
全体会

平成26年度「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」プログラムデザイン

【プログラムのねらい】

- ・男女共同参画の視点を持ち、実態把握・課題分析を行い、実践力に結びつける。
- ・男女共同参画の中核となるリーダーの関係力・連携力の向上を図る。(グループ・ワーク、交流の重視)
- ・実践事例を重視し、課題解決につなげる。
- ・研修の成果を地域に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ活かす。

テーマ:「女性活躍の推進と男女共同参画」



2 ダイバーシティ推進リーダー会議

- 1 趣 旨 企業における女性の活躍推進を図り、男女共同参画社会の形成に資するため、企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）を推進するリーダーを対象に実施する。
事例発表により、女性の活躍推進のために何をすべきかを考え、ディスカッションにより参加者一人一人が課題に向き合い解決の方向を探る。さらに、情報交流会において参加者同士による情報交換やネットワークづくりの場を提供する。
- 2 主 催 独立行政法人国立女性教育会館（NWEC）
- 3 会 場 NWEC
- 4 期 日 平成26年6月12日（木）～6月13日（金）1泊2日
- 5 対 象 企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進リーダー
- 6 参 加 者 26名

7 都道府県別参加者数

都道府県	人数								
北海道		埼玉県	1	岐阜県	1	鳥取県		佐賀県	
青森県		千葉県	1	静岡県		島根県		長崎県	
岩手県		東京都	17	愛知県	1	岡山県		熊本県	
宮城県		神奈川県	1	三重県		広島県		大分県	
秋田県		山梨県		滋賀県		山口県		宮崎県	
山形県		新潟県		京都府		徳島県		鹿児島県	
福島県		長野県		大阪府	2	香川県		沖縄県	
茨城県		富山県		兵庫県		愛媛県	1	無回答他	
栃木県		石川県		奈良県		高知県		合 計	26
群馬県		福井県		和歌山県		福岡県	1		

8 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
6月12日 13:00～13:05	(1) 開会 主催者あいさつ	内海 房子（NWEC 理事長）	
13:05～15:30	(2) 事例発表及びパネルディスカッション 「女性活躍促進の取組」 女性活躍促進を実施している企業からの事例を踏まえて、女性が活躍するためには、どうしたらよいかを学ぶ。	事例① 株式会社リクルートホールディングス 発表者：花形 照美（ソーシャルエンタープライズ推進室長） 事例② 株式会社三菱東京UFJ銀行 発表者：高橋 浩子（人事部ダイバーシティ推進室長） 事例③ 株式会社日立製作所	リクルートHDからは、経営理念に基づいたダイバーシティの実践取組について、東京三菱UFJ銀行では単なる両立支援でなく早期復職など女性支援の取組の紹介、日立製作所からは、男性主力の社風の中で女性活躍促進は、男性・管理職への意識改革、取組の「見える化」などについての発表があった。 3社ともにダイバーシティを「経営戦略」に位置づけて

		<p>発表者：神宮 純緒 （人財統括本部ダイバーシティ推進センタ 部長代理） コーディネーター： 内海 房子（NWEC 理事長）</p>	<p>おり、企業による取組が両立支援だけでなく、活躍支援も進めていくフェーズに来ていることが知見として得られた。</p>
16:00～18:00	<p>（3）ディスカッションⅠ グループに分かれて、参加者同士の背景や問題意識を共有するとともに、どうしたら女性の活躍が促進するのか等についてディスカッションを行う。 ・4グループで討論</p>	<p>コーディネーター： 堀本麻由子（NWEC 事業課客員研究員） ファシリテーター： 早川 枝里（NWEC 事業課客員研究員） 洲脇みどり（NWEC 事業課客員研究員） 引間 紀江（NWEC 事業課専門職員） 千装 将志（NWEC 事業課専門職員）</p>	<p>自己紹介に一人10分と時間をかけることで、各自が所属する企業の取組や課題について、お互いに十分理解することができた。また、各参加者が共通の課題に気づくことができた。</p>
18:00～19:30	<p>（4）情報交流会 （希望者のみ参加） 事例発表者をはじめ、他企業からの出席者とのネットワークを構築する。 ※立食形式夕食を兼ねる</p>		<p>リラックスした雰囲気の中で、参加者同士による情報交換やネットワークづくりができた。</p>
6月13日 9:00～10:00	<p>（5）情報提供 統計データを基に女性の活躍と男女共同参画の現状を把握する。</p>	<p>講師：中野 洋恵（NWEC 研究国際室室長）</p>	<p>国際的なデータを用いて最新の情報を知るとともに他の国々との比較をしながら日本の現状を詳しく知ることができた。</p>
10:10～12:00	<p>（6）ディスカッションⅡ ダイバーシティ推進リーダーがリーダーシップをとる際に必要となるコミュニケーション能力を高めるための手法「アクションラーニング」について理解し、体験する。 ・4グループで討論</p>	<p>コーディネーター： 堀本麻由子（NWEC 事業課客員研究員） ファシリテーター： 早川 枝里（NWEC 事業課客員研究員） 洲脇みどり（NWEC 事業課客員研究員） 引間 紀江（NWEC 事業課専門職員） 千装 将志（NWEC 事業課専門職員）</p>	<p>「アクションラーニング」について理解を深め、会議の際に短時間で結論を出せる手法としての有用性を知ることができた。 実際にグループに分かれ「アクションラーニング」を体験して進め方を体得できた。</p>
13:00～14:50	<p>（7）ディスカッションⅢ 「アクションラーニング」を用いて企業においてダイバーシティを推進する際に課題となる問題とその解決策についてディスカッションを行う。 ・4グループで討論</p>	<p>コーディネーター： 堀本麻由子（NWEC 事業課客員研究員） ファシリテーター： 早川 枝里（NWEC 事業課客員研究員） 洲脇みどり（NWEC 事業課客員研究員）</p>	<p>「アクションラーニング」の手法を活用し、参加者一人一人が各企業の課題に向き合い、課題解決の方策を探った。ダイバーシティを推進していく上での悩み、課題を共有できた。</p>

		引間 紀江 (NWEC 事業課専門職員) 千装 将志 (NWEC 事業課専門職員)	
14:50~15:00	(8) 閉会・アンケート記入	内海 房子 (NWEC 理事長)	

9 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

女性の活躍促進の政府の成長戦略としてあげられる中、経営戦略の重要な課題として「ダイバーシティ推進」に取り組む企業が増えつつある。しかし、その具体的な進め方や実際の取組を知らないまま方策を模索している担当リーダーが数多く存在することが前回のアンケート結果等から分かった。これらを踏まえ、日本の現状と世界の動向を知り、その必要性と理解を深め、先進企業の事例やパネルディスカッションから具体的な方策や取組について自社に持ち帰り、すぐに実践につながれることを狙いとした研修プログラムを作成した。

また、ダイバーシティ推進の現場で多忙な中、多くの会議を進める参加者にとって、効率的な会議の手法を知ることは興味深い。ワークショップでは短時間により大きな成果を生み出すことを目的として「アクションラーニング」の手法を採用した。参加者は多様な視点からの問いかけによって、自然に考えを広げたり深めたりすることができ、今まで気づかなかった課題や思い込みを発見し、問題解決につなげることができる。さらに、「アクションラーニング」の手法は、各参加者が自社に持ち帰り、課題把握やマネジメントで活用できるメリットもある。

さらに、他企業での具体的な取組について、情報を得る機会の少ない担当者同士のネットワーク構築を狙い、情報交流会やグループワーク等のプログラムを盛り込んだ。

10 プログラム全体で得られた知見

企業における先進事例発表は、株式会社リクルートホールディングス、株式会社東京三菱UFJ銀行、株式会社日立製作所をお願いした。

リクルートホールディングスでは、ダイバーシティ推進は社会貢献のミッションであると捉え、「両立支援」「活躍支援」の両面でグループ会社全体で取り組んでいる。ダイバーシティ推進に関する情報を広報誌やメーリングニュースで広く周知し、女性経営者育成研修「Women's leadership Program」により女性の経営人材育成に力を入れ、女性管理職の裾野を広げる取組をしている。

東京三菱UFJ銀行は、経営戦略としてダイバーシティを位置づけ、トップからのメッセージとして全社的に取り組んでいる。女性活躍推進を第1フェーズ「辞めずに働き続ける支援」から第2フェーズ「早期復職活躍支援」と転換し、早期復職して時短を利用せずフルで働く女性を明確にバックアップする制度を作るなど積極的な女性活躍支援とキャリア形成支援に取り組んでいる。

日立製作所は重工業という分野でもあり、女性の活躍がなかなか進まない状況であったが、グループがグローバルに展開していることもあり、ダイバーシティこそが事業の強みであると考えて進めてきた。多様な「人財」が活躍するには柔軟な働き方ができる環境が必要であり、ダイバーシティ推進の試金石として女性「人財」の活用を強化しており、働き方の見直しや男性・管理職の意識改革と両立支援、リケジョ育成などに取り組んでいる。

これらの企業における事例は、女性活躍促進への取組の先進事例として、また、女性の活躍を創出していくうえで何が求められるかについて示唆に富んでおり、参加者に自社に持ち帰り取り組むヒントを与える。

参加者は、先進企業の事例発表における具体的な取組の事例から、自社に適した取組について、ダイバーシティを進める上でのヒントとして得ることができた。また、NWECからの情報提供では世界の動向と日本の現状を比較しながら、今後の流れを把握することができた。ディスカッションを通してダイバーシティを推進するために各企業内での課題や方向性を見出すことができ、効果的な会議の手法「アクションラーニング」の知識の取得と体験をすることができた。また、情報交流会において参加者同士による情報交換やネットワークづくりができた。

1.1 プログラムの成果

- (1) 参加者の全体の満足度について
100.0% (非常に満足80.0%、満足20.0%)
- (2) 参加者のプログラムの有用度について
100.0% (非常に有用70.0%、有用30.0%)

1.2 今後の課題及び展望

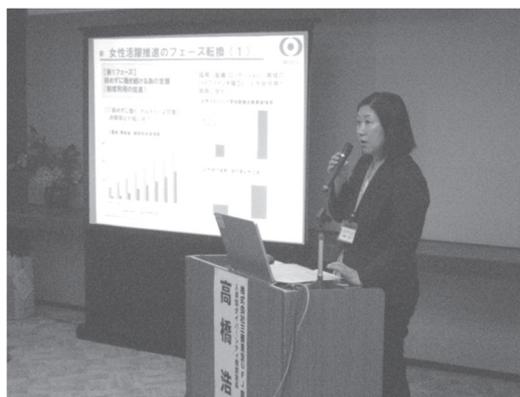
ダイバーシティ推進リーダー会議は、今回2回目の開催である。企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進リーダーを対象に定員を30名と絞り、参加者同志の深い信頼関係とネットワークづくりを狙った。女性の活躍が社内でなかなか進まない現状にもかかわらず、熱意を持ち続けて取組を継続する企業内のダイバーシティ推進担当者を支援すること、そのためにそれぞれの会社が抱えている課題を共有し、解決へのヒントを得られることを狙いとしたプログラム作成を継続していく。研修後のアンケートでは有用度や満足度が非常に高く、今後も効果的な事業の周知・広報を工夫することや、研修内容へのニーズを研究しプログラムに反映させること、また企業の統括団体や各種研修機関等との協力関係を構築することで、成長・発展が期待できる。

このリーダー会議に参加いただいた方が、ともに本音を語り、ヒントを出し合い、会社を超えて支え合う関係性構築につながることを期待している。



事例発表「女性活躍促進の取組」

- ① 株式会社リクルートホールディングス
発表者：ソーシャルエンタープライズ
推進室長 花形 照美 氏



事例発表「女性活躍促進の取組」

- ② 株式会社三菱東京UFJ銀行
発表者：ダイバーシティ推進室長
高橋 浩子 氏



事例発表「女性活躍促進の取組」

- ③ 株式会社日立製作所
発表者：人財統括本部ダイバーシティ推進センタ
部長代理 神宮 純緒



アクションラーニングを用いたディスカッション

3 女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～

- 1 趣 旨 女子中高生が「科学・技術にふれる」、科学・技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながる」、科学・技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」ための機会として「女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～」を開催する。
このプログラムは、2泊3日の合宿研修を通じて、女子中高生と研究者・技術者、大学生・大学院生等が少人数を単位に親密に交流し、理系進路選択の魅力を伝えるものである。
また、女子中高生の進路選択について、身近な支援者である保護者や教員向けのプログラムもそれぞれ設定している。子どもの将来像が描けるよう、よきアドバイスができるように理系進路選択についての理解を深める。
- 2 主 催 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 3 後 援 男女共同参画学協会連絡会
- 4 会 場 NWE C
- 5 期 日 平成26年8月7日（木）～8月9日（土） 2泊3日
- 6 対 象 科学・技術の分野に興味・関心のある女子
（中学校3年生、高校1～3年生、高等専門学校1～3年生） 100名
保護者・教員等 50名
- 7 参加者 女子中高生 112名
保護者・教員 29名 計 141名

8 都道府県参加者数

都道府県	人数								
北海道	2	埼玉県	5	岐阜県	1	鳥取県		佐賀県	1
青森県	2	千葉県	7	静岡県	12	島根県		長崎県	1
岩手県		東京都	19	愛知県	5	岡山県	2	熊本県	4
宮城県	5	神奈川県	3	三重県	2	広島県	4	大分県	
秋田県	3	山梨県	2	滋賀県		山口県	4	宮崎県	3
山形県	3	新潟県		京都府		徳島県		鹿児島県	3
福島県	10	長野県	3	大阪府		香川県	4	沖縄県	1
茨城県	6	富山県	1	兵庫県	3	愛媛県	3	無回答他	
栃木県	9	石川県		奈良県		高知県	1	合 計	141
群馬県	4	福井県		和歌山県		福岡県	3		

9 プログラムデザイン

別紙添付

10 プログラムの構成・得られた成果

【女子中高生用】

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
8月7日 13:00～13:30	(1) 開校式 ①開会宣言 ②挨拶 ③オリエンテーション	湯浅富久子(実行委員長・日本物理学会) 内海 房子(NWEC理事長) 古澤 亜紀(茨城県立水戸農業高等学校教諭)	
13:30～14:00	(2) サイエンスアンバサダー I 「自分の将来について考えよう」 夏学への参加にあたり、合宿研修のオリエンテーションやグループ内での自己紹介、学生T A (ティーチングアシスタント) の講話などから、合宿研修の狙いや目的を理解するとともに、主体的に研修に参加する気持ちを高める。	鳥養 映子(山梨大学教授・日本物理学会) 中村菜々美(東京薬科大学大学院生命科学研究所)	3日間の合宿研修のはじめにあたり、その概要及び各プログラムへの取組方、合宿研修終了後のアンバサダーとしての活動等について説明を行った。特に、参加にあたっての心構え等について、参加者と年齢の近い学生企画委員が説明することにより、参加者である女子中高生にとっては身近に感じることができた。
14:15～15:45	(3) キャリア講演 過去の夏学卒業生でもあり、学生T Aや夏学の企画運営に長く携わった女性や女子中高生にとって知名度のある企業で働く2人の女性から、現在の生活や仕事のことなど、理系進路の魅力について話を聞き、将来理系で学ぶこと、働くことの意義や多様な理系の進路について理解を深める。	松村 聡子(独立行政法人国立青少年教育振興機構・国立那須甲子青少年自然の家事業推進係) 風間 頼子(株式会社日立製作所中央研究所・情報システム研究センター社会情報システム研究部主任研究員)	理系の進路を選択し、理系の現場(職場)で活躍している女性による講演と質疑応答を行った。講師は、夏学の経験者と女子中高生にとって知名度のある企業(日立製作所)に勤務する女性とした。仕事内容の紹介だけでなく、理系の道を目指した理由や仕事以外の話など幅広い話とし、女子中高生にとって、将来に対する考え方の視野を広げる機会となった。
16:15～17:45	(4) 学生企画 「サイエンスバトル! ?」 グループで協力し合い、学生スタッフが出題する課題やクイズに答えるスタンプラリーに挑戦しながら、グループの親交を深める。		学生T Aが用意した7つのブースを回って、体力、思考力、想像力、チームワークの良さなどを試す理系に関する課題やクイズにグループで協力して答えるゲームを学生T Aの企画により行った。各グループは異なる地域、学年の参加者で構成されており、3日間の合宿研修を共にするグループ内の仲間意識を醸成し、班付きの学生T Aとも親しくなる場となった。

19:15~20:45	<p>(5) 学生企画 「i future～理系人生を体験しよう～」 理系大学に進学した場合を想定した疑似体験を通じて、自分自身の将来をゲーム感覚で具体的に考えられるようにする。</p>		<p>理系大学に進学した女性なら誰もが直面するような日々の悩みや疑問について、二者択一の問いに答えながらゴールを目指す体験型プログラムを学生T Aの企画により行った。ゴールは選んだ道のりによって異なるタイプが複数用意されており、自分と同じ選択をしたロールモデルとなる学生T Aと参加者の女子中高生をマッチングする場となった。</p>
21:00~22:00	<p>(6) 天体観望会 (希望者のみ参加) 自然豊かなNWE Cの夏の夜空を天体望遠鏡で観察する。</p>	<p>田代 信(埼玉大学理工学研究科教授・日本天文学会) 大朝由美子(埼玉大学教育学部准教授・日本天文学会) 恩田 香織(株式会社日立製作所) 石橋 遙子 青木翔太郎 (埼玉大学大学院院生) 馬場優芽乃 平塚雄一郎 佐藤 耕平 (埼玉大学学生)</p>	<p>NWE Cの自然豊かな立地条件を活用したプログラムとして、天文学を研究している天文学者や学生による天体観望会を行った。短時間ではあるが、初めて天体望遠鏡に触れ、天体を観察したことは、女子中高生にとって天文学への興味関心を高めるとともに、貴重な体験となった。</p>
	<p>(7) 国際交流「英語相談所」 (希望者のみ参加) 翌日の国際交流の時間に向けて、英語で話すことの不安を払拭するため、女子中高生の相談に留学生T Aが応じる。</p>	<p>留学生T A 鳥養 映子 中山 敦子 山本 文子 湯浅富久子 (日本物理学会)</p>	<p>希望者のみではあるが、参加した女子中高生にとって、安心して翌日の国際交流の時間に臨める時間となった。</p>
8月8日 9:00~11:30	<p>(8) サイエンスアドベンチャーI「ミニ科学者になろう」 理系の各分野における研究者・技術者と交流しながら、実験・実習にじっくりと取り組む。進路を理系にするか文系にするか迷っている生徒向けの不思議体験コースと専門性の高いチャレンジコースの2種類の実験を行う。</p>	<p>A 荒谷 美智 宮本 霧子 中山 榮子 (日本女性科学者の会) B 御手洗 容子 戸田 佳明 山下 孝子 (日本金属学会) (日本鉄鋼協会) C 土屋 賢一 中野 雅之 (東京工業高等専門学校)</p>	

	<p>○実験・実習 (A～H：不思議体験コース) (I～P：チャレンジコース)</p> <p>A 宇宙の星から学ぶエネルギー (Part3) 福島から広がる科学の世界</p> <p>B 金属の不思議</p> <p>C バナナのDNA抽出実験と水をきれいにする実験</p> <p>D 夢・化学-21 楽しく、面白い化学実験を体験しましょう！</p> <p>E 身近な川の水環境を調べよう</p> <p>F 身近に生きる生物たちの生態</p> <p>G 荒川を探検しよう！</p> <p>H 地球惑星科学へようこそ ～Dr. ナダレンジャーの自然災害のサイエンスショー～</p> <p>I LEDを光らせる</p> <p>J 電子回路を組み立てよう！ LEDと光ファイバーで友達にメロディーを送ろう！</p> <p>K コンピュータで探るバイオ分子の世界</p> <p>L 線虫を使って知る遺伝子のしくみ</p> <p>M 病気を科学しようー遺伝暗号に隠された秘密</p> <p>N 作って・見て・測って知る、地球と宇宙の「波」のふしぎ</p> <p>O 結び目のゲームを作って遊ぼう</p> <p>P 見えない数?! 複素数の世界で絵を描こう！</p>	<p>大山 満希 岡崎 里美 徳永 晶子 (実験TA)</p> <p>D 山崎 友紀 田村 定義 (日本化学会)</p> <p>大石 奈実 笠井 大郁 松井 暢皓 小田切マコ洋平 (実験TA)</p> <p>E 猪又 明子 小川かほる 針谷さゆり 酒井 美月 (日本水環境学会)</p> <p>吾妻 咲季 滝本麻理奈 (実験TA)</p> <p>F 鈴木 智之 角田 智詞 (日本生態学会)</p> <p>G 南雲 直子 羽田 麻美 (日本地形学連合)</p> <p>谷地 繭 (実験TA)</p> <p>H 納口 恭明 小口 千明 (日本地球惑星科学連合)</p> <p>菅原 咲季 池辺 佳代 高木 悠花 (実験TA)</p> <p>I 長谷川 修司 (日本物理学会)</p> <p>草野 佑理 松浦 早希 (実験TA)</p> <p>J 中田よしみ 中島 正明 吉田 明子 千木良美由紀 大西紗矢佳 (日立技術士会)</p> <p>K 西方 公郎 (日本分子生物学会)</p> <p>L 築瀬 澄乃</p>	
--	--	--	--

		<p>(日本分子生物学会)</p> <p>M 横倉 隆和 (日本分子生物学会)</p> <p>N 内野 宏俊 北原 理弘 幸野 淑子 佐々木 悠朝 田所 裕康 (地球電磁気・地球惑星圏学会)</p> <p>O 清水 理佳 (日本数学会) 森下奈保子 (実験T A)</p> <p>P 藤村 雅代 (日本数学会) 清水 一那 (実験T A)</p>	
13:00~15:40	<p>(9) サイエンスアドベンチャーⅢ「研究者・技術者と話そう」</p> <p>女子中高生に理系進路選択の魅力を伝えるため、次の①~③のブースを設け、様々な人々との交流を行う。様々な分野、世代の人と交流することで、理系進路選択への不安や悩みなどの解決に近づける場とする。</p> <p>①ポスター展示・キャリア相談 展示ブースを設置して、協力学会、企業や大学等、様々な立場の研究者・技術者によるポスター展示や演示実験を行い、理系の世界で活躍する人たちや最先端の技術に触れる機会とする。また、研究者・技術者や女子大学生・大学院生などが女子中高生の理系進路選択に関する相談に応じ、女子中高生の進路に関する不安や悩み等の解決や理系進路選択について明確な考えを持てる機会とする。</p> <p>②国際交流 海外から日本に来ている留学生や科学・技術者に学校生活や日本での生活、研究内容や母国に帰ってからの夢などについて、英語を使ってインタビュー</p>	<p>○ポスター展示・キャリア相談出展者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本生物物理学会 2 日本蛋白質科学会 3 日本発生生物学会 4 日本化学会 5 日本天文学会 6 地球電磁気・地球惑星圏学会 7 「分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク」女性部会 (WiT) 8 独立行政法人国立高等専門学校機構 9 J-Win 第4期技術系分科会 10 日立技術士会「チーム・技魔女」 11 土木学会 12 電気学会 13 日本地形学連合 14 日本地球惑星科学連合 15 ナノテクノロジービジネス推進協議会 16 日本分子生物学会 17 日本海洋学会教育問題研究会 18 日本女性科学者の会 	<p>○ポスター展示・キャリア相談</p> <p>36の協力学会等が展示ブースを設置し、様々な立場の研究者・技術者によるポスター展示や演示実験を行うとともに、参加者からの進路に関する相談を受けた。様々な分野の研究者・技術者から最先端の技術についての説明を受けることや、理系の進路に関する悩みや疑問に答えてもらうことで、女子中高生の理系進路選択に対する関心を高め、明確な考えを持てる機会となった。</p> <p>○国際交流 海外から日本に来て科学・技術について学ぶ留学生T Aと、学校生活や研究内容、母国に帰ってからの夢などについて、英語でインタビューするなどして</p>

	<p>する。女子中高生のコミュニケーション能力や語学力の向上に活かす機会とする。</p> <p>③夏学卒業生 Home Coming Day 過去の「夏の学校」卒業生が会場に集まり、参加者である女子中高生に対して理系進路に関する相談活動を行う。女子中高生が理系への進路に対して明確な考えが持てるようにする機会とする。</p>	<p>19 日本繁殖生物学会 20 日本女性技術者フォーラム(JWEF) 21 日本バイオイメージング学会 22 日本技術士会 男女共同参画推進委員会 23 女性技術士の会 24 地盤工学会 25 日本火災学会 26 日本金属学会 27 日本鉄鋼協会 28 日本原子力学会 29 WIN-Japan 30 日本数学会 31 応用物理学会 32 日本物理学会 33 日本木材学会 34 土木技術者女性の会 35 関東学院大学 土木系女子学生の会 36 日本電磁波エネルギー応用学会(JEMEA)</p>	<p>交流を図った。参加者にとっては、海外の同世代の人たちと会話するという貴重な体験となったとともに、英語をはじめ、語学力や言葉による表現力を高める必要があるという意識を持つきっかけとなった。</p> <p>○夏学卒業生 Home Coming Day 過去の「夏の学校」を経験し、大学等で現在理系の道に進んだ卒業生が会場に集まり、参加者である女子中高生に対して理系進路に関する相談を受けた。卒業生にとっては懐かしい場所で集う機会となり、参加者の女子中高生にとっては、先輩のアドバイスから、理系進路に対するより明確な考えを持てる機会となった。</p>
16:10~17:40	<p>(10) 学生企画「Gate Way」 女子中高生が理系の進路についてさらに深く知るとともに、進路選択における悩みを相談できるように様々な分野や年代の人々と話し合い、アドバイスを受ける時間とする。</p>		<p>参加者の女子中高生と研究者・技術者、学生TAとの交流をさらに深め、理系進路選択の魅力を伝えるための時間を学生の企画により設定した。様々な分野、年代の人々との交流により、参加者の女子中高生の進路に対する視野を広げる機会となった。</p>
18:00~19:00	<p>(11) 交流会 合宿研修最終日を前に、参加者同士、講師や実行委員、女子大学生・大学院生との交流を、夕食をとりながら深める。</p>		<p>夕食を兼ねた交流会を立食形式で開催した。他のグループとの交流はもちろん、講師や学生TAとの交流など、参加者同士の交流の輪がさらに広がった。</p>
19:15~20:45	<p>(12) 学生企画 「キャリア・プランニング」 参加者である女子中高生と研究者・技術者、学生TA等とのこれまでの交流を踏まえ、各グループでの自分たちの具体的な進路についての話し合いや研究者・技術者へのインタビューなどを通じて、オリジナルの「マ</p>		<p>これまでの合宿研修で学んだことや考えたことを踏まえ、自分たちの将来について話し合い、考える時間を学生TAの企画により設定した。5年後、10年後の自分の将来を表にまとめることで、より具体的な進路をイメージすることができた。</p>

21:00~22:00	<p>インドマップ」を完成させる。</p> <p>(13) 研究者・技術者やT Aへのキャリア・進学懇談会 (希望者のみ参加)</p> <p>女子中高生の理系進路選択支援に向けて、研究者・技術者や学生T A等とさらに話をしたいという参加者のため、進学や就職などをはじめ、将来の進路に関する懇談会を行う。</p>		<p>これまでのプログラムでは質問できなかったこと、新たな疑問や進路の相談などに対応するため、希望者による自由な形での懇談会を行った。研究者や学生T Aと個人的に直接話をすることで、理系への進路の現実や自分の考えの甘さに気づき、改めて将来について考え、夢の実現に向けての意欲を持つ機会となった。</p>
	<p>(14) 国際交流 「もっと話そう英語」 (希望者のみ参加)</p> <p>国際交流の時間だけでは英語を話すことが物足りなかった女子中高生のために、留学生T Aが会話や質問に応じる。</p>	<p>留学生T A 中山 敦子 山本 文子 湯浅富久子 (日本物理学会)</p>	<p>国際交流の時間だけでは英語を話すことが物足りないと思う女子中高生のために、留学生T Aが会話や質問に答える時間を設けた。希望者のみの参加であったが、語学や海外の様子に関心のある女子中高生にとっては有益な時間となった。</p>
8月9日 9:00~11:00	<p>(15) 一体型実験 科学的に視野を広げる経験を参加者全員で共有できるような実験を行う。参加者一同が同じテーマのもと、製作から完成までの過程を経験し、一体感を味わう。</p>	<p>森 義仁 お茶の水女子大学理学部教授(日本化学会) 柏原 賢二 東京大学大学院広域システム科学系助教(日本数学会)</p>	<p>科学的に視野を広げる経験を大人数で共有するため、「人間コンピュータ」というテーマで実験を行った。2進法など、コンピュータのしくみを理解するとともに、参加者全員で行う一体感を味わうことができた。</p>
11:15~12:00	<p>(16) 学生企画 「夏学振り返りと表彰式」 参加者が一堂に会し、3日間の振り返りを学生スタッフの企画により行う。</p>		<p>台風の接近により、参加者の安全な帰宅を確保するため、このプログラムから後を中止し、夏学を終了した。この時間での賞品や任命式で渡す任命書は、後日個別に郵送した。</p>
12:00~12:45	<p>(17) サイエンスアンバサダー 任命式・閉校式 全日程に参加した女子中高生全員をサイエンスアンバサダーとして任命する。任命された女子中高生は、自分の学校や地域に戻った後、アンバサダーとして夏学の体験や魅力などを伝える。</p>	<p>任命： 湯浅富久子(日本物理学会)</p>	

【保護者・教員用】

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
8月7日 13:00～13:30	(1) 開校式 ①開会宣言 ②挨拶 ③オリエンテーション	湯浅富久子(実行委員長・日本物理学会) 内海 房子(NWEC理事長) 古澤 亜紀(茨城県立水戸農業高等学校教諭)	
13:30～14:00	(2) サイエンスアンバサダー I 「自分の将来について考えよう」 夏学への参加にあたり、合宿研修のオリエンテーションやグループ内での自己紹介、学生TA(ティーチングアシスタント)の講話などから、合宿研修の狙いや目的を理解するとともに、主体的に研修に参加する気持ちを高める。	鳥養 映子(山梨大学教授・日本物理学会) 中村菜々美(東京薬科大学大学院生命科学研究科)	3日間の合宿研修のはじめにあたり、概要及び各プログラムへの取組方、合宿研修終了後のアンバサダーとしての活動等について説明を行った。これにより、参加者(保護者・教員)は、3日間の合宿研修の意義や目的、過ごし方について理解することができた。
14:15～15:45	(3) キャリア講演 過去の夏学卒業生でもあり、学生TAや夏学の企画運営に長く携わった女性や女子中高生にとって知名度のある企業で働く2人の女性から、現在の生活や仕事のことなど、理系進路の魅力について話を聞き、将来理系で学ぶこと、働くことの意義や多様な理系の進路について理解を深める。	松村 聡子(独立行政法人国立青少年教育振興機構・国立那須甲子青少年自然の家事業推進係) 風間 頼子(株式会社日立製作所中央研究所・情報システム研究センター社会情報システム研究部主任研究員)	理系の進路を選択し、理系の現場(職場)で活躍している女性による講演と質疑応答を行った。講師は、夏学の経験者と女子中高生にとって知名度のある企業(日立製作所)に勤務する女性とした。仕事内容の紹介だけでなく、理系の道を目指した理由や仕事以外の話など幅広い話となった。特に保護者にとっては、子どもの将来について具体的に理解できる内容であった。
16:15～17:45	(4) 夏の学校を知る 今までの夏学の様子をスライドやDVDの視聴並びに講師の説明により、3日間の研修の流れや意義を理解する。	森 義仁(お茶の水女子大学理学部教授・日本化学会) 古澤 亜紀(茨城県立水戸農業高等学校教諭)	保護者や教員の参加者を対象として、夏の学校の概要を理解してもらうため、これまでの様子を記録したスライドやDVDの視聴並びに講師による説明、参加者同士のグループワークを行った。2泊3日の合宿研修の概要とともに、世界と日本の理系女子の現状について知る機会となった。
19:15～20:45	(5) サイエンスカフェ I 「日本学術会議、学会、大学、企業等の研究者・技術者との座談会」	松尾由賀利(法政大学理工学部教授・日本学術会議連携会員)	保護者や教員自身が理系の楽しさを知るとともに、女子中高生の理系進路選択を後押しできるよう、講義の後、座談会を行った。

	<p>学会、大学、企業等で活躍する研究者・技術者との対話やグループ討議などを通じて、理系の分野での女性の活躍や今後の期待に対する現状等を知るとともに、女子中高生への支援の在り方について考える。</p>	<p>森岡由紀子(N E C・応用物理学会)</p> <p>永合由美子(東京大学工学部広報室・JWEF)</p> <p>位野木 万理(工学院大学・JWEF)</p> <p>為近 恵美(N T Tアドバンステクノロジー株式会社)</p>	<p>保護者、教員それぞれの立場や考えを理解し合える場となった。</p>
21:00~22:00	<p>(6) 天体観望会 (希望者のみ参加) 自然豊かなNWE Cの夏の夜空を天体望遠鏡で観察する。</p>	<p>田代 信(埼玉大学理工学研究科教授・日本天文学会)</p> <p>大朝由美子(埼玉大学教育学部准教授・日本天文学会)</p> <p>恩田 香織(株式会社日立製作所)</p> <p>石橋 遙子 青木翔太郎 (埼玉大学大学院院生)</p> <p>馬場優芽乃 平塚雄一郎 佐藤 耕平 (埼玉大学学生)</p>	<p>NWE Cの自然豊かな立地条件を活用したプログラムとして、天文学を研究している天文学者や学生による天体観望会を行った。短時間ではあるが、初めて天体望遠鏡に触れ、天体を観察したことは、参加者にとって天文学への興味関心を高めるとともに、貴重な体験となった。</p>
8月8日 9:00~11:30	<p>(7) 実験・実習の参加・見学 参加者である女子中高生が取り組んでいるサイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」の実験や実習を実際に見学、参加することで研修に取り組む女子中高生の姿を見たり、理系進路選択を応援する意識を高めたりする。</p>		<p>女子中高生の理系進路選択を応援する意識を高めるため、女子中高生が行う実験・実習に保護者や教員が参加・見学できる時間を今回より設定した。特に参加した保護者や教員にとっては、貴重な体験をすることができた。</p>
13:00~15:40	<p>(8) サイエンスカフェⅡ 「ポスター展示・キャリア相談」 女子中高生の理系進路選択支援に向けて、男女共同参画学協会連絡会や企業、大学等のポスターブ</p>		<p>○ポスター展示・キャリア相談 36の協力学会等が展示ブースを設置し、様々な立場の研究者・技術者によるポスター展示や演示実験を行うとともに参加者からの</p>

	<p>ースを回り、最先端の科学技術について知る機会とする。また、理系の進路について相談することで我が子や生徒の進路に関する不安や悩み等の解決に近づける場とする。</p>		<p>進路に関する相談を受けた。様々な分野の研究者・技術者による最先端の技術についての説明や、理系進路に関する疑問に対する回答などから、理系進路選択についてよく知る機会となった。</p>
16:10~17:40	<p>(9) サイエンスカフェⅢ</p> <p>【保護者】 「研究者・技術者、大学生、新社会人との座談会」 女性の科学・技術者、学生T A、新社会人との座談会を通じて、理系進路選択の現状やその魅力について知る機会とする。</p> <p>【教員】 「中学、高校、大学の教員の連携」 女子中高生が理系の進路についてさらに深く知るとともに、進路選択における悩みを相談できるように様々な分野や年代の人々と話し合い、アドバイスを受ける時間とする。</p>	<p>【保護者】 田口 美咲(株式会社テプコシステムズ・日本原子力学会) 藤田 直幸(奈良工業高等専門学校・電気学会) 岡村 美好(山梨大学大学院准教授・土木学会) 大澤 悠(埼玉県滑川町立滑川中学校教諭) 学生T A数名</p> <p>【教員】 森 義仁(お茶の水女子大学理学部教授・日本化学会) 田中 若代(日本女子大学附属中学校・高等学校前校長) 長妻 令子(神奈川県立生田高等学校教諭) 古澤 亜紀(茨城県立水戸農業高等学校教諭)</p>	<p>【保護者】 女子中高生の理系への進路を保護者がイメージできるように、現役の理系女子大学生が自身の高校生活、受験での体験、現在の大学生活、将来の希望について、また女性研究者・技術者が出産・育児と仕事との両立などについて話した後、保護者との座談会を行った。保護者にとって理系進路選択の現状やその魅力を知るとともに、理系進路を考える子どもの後押しをしたいと思います会となった。</p> <p>【教員】 中学、高校、大学の教員による連携促進のため、これまでの合宿研修で実施された実験・実習等を振り返り、参加者同士のグループワークを行った。様々な現場での経験を通して行われたディスカッションなど、各校種の教員同士による情報交換が行われる機会となった。</p>
18:00~19:00	<p>(10) 交流会 合宿研修最終日を前に、参加者同士、講師や実行委員、女子大学生・大学院生との交流を、夕食をとりながら深める。</p>		<p>夕食を兼ねた交流会を立食形式で開催した。保護者や教員との交流はもちろん、講師や学生T Aとの交流など、参加者同士の交流の輪がさらに広がった。</p>

19:15～20:45	<p>(11) サイエンスカフェⅣ 「保護者・教員と留学生との国際交流」 海外からの留学生と保護者・教員が交流する場を設け、それぞれの国の生活、文化、科学・技術など、諸外国の状況について理解を深めるとともに、我が国の現状について再確認する機会とする。</p>	<p>留学生T A 荻谷 麻子 (元洗足学園中学校高等学校教諭) 中山 敦子 山本 文子 (日本物理学会) 小口 千明 (日本地球惑星科学連合・日本地形学連合)</p>	<p>海外からの留学生によるそれぞれの国の状況や、現在の我が国における進路指導・キャリア教育についての話を聞くことにより、諸外国の文化や科学技術の状況、我が国における理系進路の状況などについて再認識するための時間を設けた。参加者にとっては、我が国と世界との状況の違いについて知る機会となり、有用な時間となった。</p>
21:00～22:00	<p>(12) 研究者・技術者やT Aへのキャリア・進学懇談会 (希望者のみ参加) 女子中高生の理系進路選択支援に向けて、研究者・技術者や学生T A等とさらに話をしたいという参加者のため、進学や就職などをはじめ、将来の進路に関する懇談会を行う。</p>		<p>これまでのプログラムでは質問できなかったこと、新たな疑問や進路の相談などに対応するため、希望者による自由な形での懇談会を行った。保護者や教員も多くの研究者や学生T Aと個人的に直接対話することを通じて、どのように女子中高生の理系進路選択に対する支援を進めるか考えることができた。</p>
8月9日 9:00～10:00	<p>(13) 夏の学校を振り返る 【保護者】 女子中高生の長期的なライフプランニングや男女共同参画について積極的に考える機会として、女子中高生の理系進路選択などについて、忌憚のない意見交換をし、3日間の研修を振り返る。 【教員】 3日間の合宿研修を踏まえ、それぞれの学校に戻った時にこの合宿研修の経験をどう活かすかについて考える機会として、教員同士のディスカッション等を行う。</p>	<p>【保護者】 中光 理恵(NWEC事業課専門職員) 【教員】 古澤 亜紀(茨城県立水戸農業高等学校教諭) 田中 若代(日本女子大学附属中学校・高等学校前校長) 長妻 令子(神奈川県立生田高等学校教諭)</p>	<p>【保護者】 保護者が女子中高生の長期的なライフプランニングや男女共同参画について積極的に考える機会とするため、女子中高生の理系進路選択に関する保護者同士の意見交換を行った。3日間の保護者としての研修を振り返るとともに、保護者同士の忌憚のない意見が交わされる時間となった。 【教員】 3日間の研修を踏まえ、それぞれの学校に戻った時にこの経験をどう活かすかについて考える機会として、教員同士の各グループによる意見交換とその成果の共有を行った。同業者同士ゆっくりと意見交換をはじめ交流が図られる時間となった。</p>

10:00～11:00	(14) 一体型実験の参加・見学 科学的に視野を広げる経験を参加者全員で共有できるような実験に保護者や教員も参加や見学を行う。		参加者の女子中高生が行う「人間コンピュータ」というテーマでの実験を見学。研修最終日までプログラムに意欲的に取り組む我が子や生徒の姿を見ることができた。
11:15～12:00	(15) 学生企画 「夏学振り返りと表彰式」 参加者が一堂に会し、3日間の振り返りを学生スタッフの企画により行う。		台風の接近により、参加者の安全な帰宅を確保するため、このプログラムから後を中止し、夏学を終了した。この時間での賞品や任命式で渡す任命書は、後日個別に郵送した。
12:00～12:45	(16) サイエンスアンバサダー 任命式・閉校式 全日程に参加した女子中高生全員をサイエンスアンバサダーとして任命する。任命された女子中高生は、自分の学校や地域に戻った後、アンバサダーとして夏学の体験や魅力などを伝える。	任命： 湯浅富久子(日本物理学会)	

1.1 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

- ・10回目の開催にあたり、学生企画を中心にプログラムの充実に向けた改善を図った。特に、好評であった学生企画「才媛双六（さいえんすごろく）」については、理系大学に進学した場合を想定した疑似体験を通じて、自分自身の将来をゲーム感覚で具体的に考えられるようにする「i future～理系人生を体験しよう～」に発展・進化させた。
- ・キャリア講演の講師は、夏学卒業生でもあり、学生企画委員として企画・運営に長く携わった方、女子中高生にとって知名度のある企業（日立製作所）で働く女性にお願いした。
- ・女子中高生向けの学生企画「サイエンスバトル!？」や保護者・教育向けの「夏の学校を知る」を前回より早い時間に設定することで、早い段階で参加者同士の交流が図れるようにした。
- ・サイエンスアドベンチャーI「ミニ科学者になろう」での実験・実習の内容は、進路を理系にするか文系にするか選択を迷っている女子中高生にも対応できるよう、科学への興味関心を高める「不思議体験コース」と、より専門性の高い「チャレンジコース」の2種類を、前回と同様に用意した。
- ・女子中高生がプログラムに取り組む様子がわかるよう、サイエンスアドベンチャーI「ミニ科学者になろう」や「一体型実験」など、保護者・教員向けに実験・実習の参加・見学の時間を設けた。
- ・留学生TAを増員し、女子中高生だけでなく、保護者・教員との交流の時間を設けるなど、国際交流プログラムの充実を図った。
- ・参加者である女子中高生に年齢や感覚に近い学生による企画を積極的に取り入れた。
- ・2泊3日の合宿研修終了後も、研修の普及と支援の継続、研修の効果の確認という観点から、参加者によるアンバサダー活動、講師等によるメンター活動、ロールモデル集の作成と配付、フォローアップ調査や進路調査を行うこととした。

1.2 プログラム全体で得られた知見

- ・今回で10回目の開催となるが、企画委員をはじめとする人的な部分も含め、過去の研修成果とともに、これまでの継続によるノウハウの積み上げを生かし、さらに充実した内容となった。
- ・すでに理系を目指すことを決めている女子中高生とともに、今回から、進路を理系にするか文系にするか迷っている女子中高生にも、実験・実習や学生企画などを通じて理系の進路選択の魅力を伝えられる内容としたが、引き続き高い満足度、有用度を得られた。

- ・各プログラムを通じて、全国からの参加者がロールモデルとなる女性研究者・技術者や女子大学生・大学院生と交流することにより、理系の女性によるネットワーク形成の機会となった。
- ・参加者の「大学生になってTAとしてまた戻ってきたい」という感想にあらわれているとおり、参加者(女子中高生)→学生TA(理系女子大学生)→学生企画委員(理系女子大学生・大学院生)→企画委員(女性科学・技術者、教員等)というキャリア形成につながる。

1.3 プログラムの成果

- (1) 参加者の全体の満足度について
 - 中高生 98.0% (非常に満足80.0%、満足18.0%)
 - 保護者100.0% (非常に満足100.0%)
 - 教員100.0% (非常に満足62.5%、満足37.5%)
- (2) 参加者のプログラムの有用度について
 - 中高生 93.7% (非常に有用62.3%、有用31.4%)
 - 保護者 96.4% (非常に有用47.8%、有用48.6%)
 - 教員 93.1% (非常に有用35.1%、有用58.0%)

1.4 今後の課題及び展望

- ・募集期間中、中学1～2年生の参加はできないのかという問い合わせが数件あった。開催時においては、高校3年生はすでに進路が確定している場合が多いと思われるとともに、実際の参加者も5人程度であることから、募集の対象学年を今後検討していく必要がある。
- ・今回より参加申込書に参加に当たっての文章を書かせた。参加申込者の激減につながると危惧したが、参加者決定の参考にすることをうたったこともあり、より高い意識を持って申し込んできた中高生が多かったと思われる。次回も継続して行いたい。
- ・参加者決定について、確保できる学生TAの数や負担等を考えると「1班5～6人×20班」以内の人数が適正であるとする。次回以降も最大120人程度の人数となるように参加者を決定する。
- ・参加者のアンケートを見ると、概ね良好な感想が見られた。しかし、3日目の「一体型実験」については、「難しく、よく分からなかった」という意見が見られた。今回初めての試みであったため、題材、展開等について担当者を中心に実行委員会で再度検討し、改善を加える。
- ・実験・実習は前回の12コースから16コースに増えた。参加者にとっては選択肢が増え、少人数で実施できるというメリットがあったが、施設的には研修棟で実施できるぎりぎりの数であった。使用希望が重複していたパソコン教室での実習については、大妻嵐山中学校・高等学校の協力により実施することができたが、次回以降は実験・実習のコース数を制限しての募集が必要と考える。また、1学会(団体)で複数申し込んでいるところもあるため、ひとつに絞って申し込んでもらう必要がある。
- ・ポスター展示の参加団体は、ブースの設営ができる広さと現在ある展示パネルの数から見て、限界の36団体であった。これも募集の際には、先着36団体までと明示する必要がある。また、各ブースで配布してよいものについても明示する。
- ・台風が接近していたため、最終日のプログラム(夏学振り返りと表彰式、サイエンスアンバサダー任命式・閉校式)を取りやめ、公共交通機関が動いているうちにできるだけ早く帰宅させる対応を取った。家庭と連絡を取り、帰宅できる状況にあるか確認の上、解散とした。東京駅(新幹線)と羽田空港(飛行機)に企画委員が付き添い、出発(羽田空港は到着)まで見届けた。次回以降も様々な想定に基づくリスク管理が必要であるとする。
- ・合宿プログラム終了後のアンバサダー活動、メンター活動をさらに充実させる。
- ・参加者→学生TA→学生企画委員→企画委員というキャリア形成をさらに充実させる。
- ・男女共同参画学協会連絡会をはじめ、各学会との連携をさらに強化する。
- ・参加者募集に関して、より多くの人に広報が行き届くよう、方法を工夫する。
- ・プログラムの充実に伴い、事務量も増えている。開催中の事務局の設置、寄附金の取扱いをはじめとする事務業務の工夫と効率化を進める必要がある。



開校式で開会宣言をする湯浅富久子実行委員長
(高エネルギー加速器研究機構・日本物理学会)



キャリア講演



「i future~理系人生を体験しよう~」
に取り組む参加者



実験・実習 (ブロッコリーから DNA を取り出す)



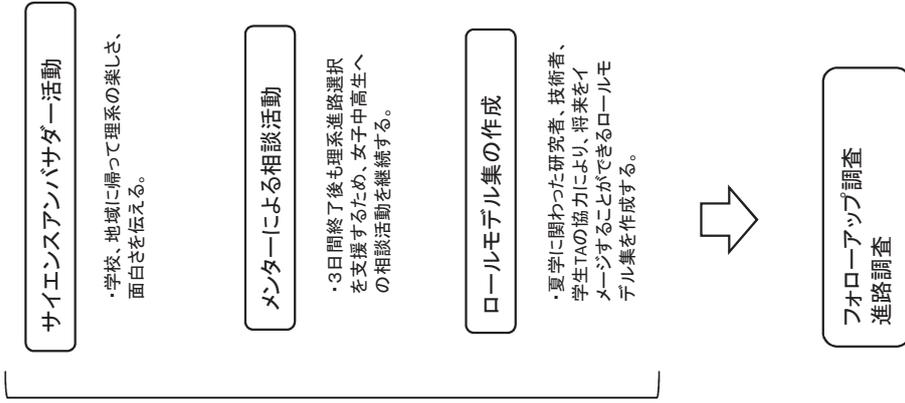
ポスター展示・キャリア相談

「女子中高生夏の学校・科学・技術・人との出会い～」プログラムデザイン

夏学3日間

1 日目	<p>サイエンスアンバサダー I</p> <p>・自分の将来について他の参加者と話し合う。</p> <p>キャリア講演</p> <p>・理系で活躍する女性の姿を知る。</p> <p>【学生企画】サイエンスバトル！?</p> <p>・クイズ・ゲーム形式で、理系分野に親しむ。</p> <p>【学生企画】i future</p> <p>・理系の人生をゲームで疑似体験する。</p>
内容	<p>夏学参加の心構えを学び、参加者同士で話し合う。</p> <p>理系分野で活躍する女性の真実を知る。</p> <p>グループ、学生TA、スタッフ等と親交を深めながら、理系分野に親しむ。</p>
2 日目	<p>サイエンスアドベンチャー I ミニ科学者になろう</p> <p>・科学・技術への興味関心を高めるため、実際に実験・実習を体験する。</p> <p>サイエンスアドベンチャー II 科学・技術者と話そう</p> <p>・研究者・技術者、夏学OG、学生スタッフ等によるブースを設け交流し、進路相談など行う。 ①研究者・技術者のキャリア相談、ポスターセッション ②大学生・院生のキャリアセッション ③海外からの留学生や科学技術者との国際交流 ④夏学卒業生のキャリアセッション</p> <p>【学生企画】Gate Way</p> <p>・様々な分野、年代の人々と話し合い、理系の進路や自分自身の進路選択について、深く知り、考える。</p> <p>【学生企画】キャリア・プランニング</p> <p>・グループでキャリアに話し合い、オリジナルのmind mapを作成する。</p>
内容	<p>理系分野を体験する。</p> <p>理系分野のキャリアについて相談する。</p> <p>自分自身のキャリアについて考える。</p>
3 日目	<p>一体感型実験</p> <p>・科学的な視野を広げる体験を全員で共有する。</p> <p>【学生企画】夏学振り返りと表彰式</p> <p>・3日間の活動を振り返る。</p> <p>サイエンスアンバサダー</p> <p>・地域に帰って理系の楽しさを伝えるサイエンスアンバサダーに任命する。</p> <p>フォローアップ調査 進路調査</p> <p>・夏学で得たことが、その後の学校生活に役立っているか、進路選択に影響があったかを調査する。</p>
内容	<p>理系分野を体験する。</p> <p>夏学を振り返るとともに、理系分野について考え、また、アンバサダーの役割を認識する。</p>

夏学3日間以降



4 男女共同参画推進フォーラム

- 1 趣 旨 男女共同参画を推進する行政担当者、女性団体やNPOのリーダー及び大学や企業において組織内のダイバーシティ、女性の活躍を推進する担当者等が一堂に会し、課題の共有と課題解決のための方策を探る研修を実施する。同時に、組織分野を超え、連携・協働して男女共同参画を推進するためのネットワーク形成を図る。
- 2 主 題 「ひとりひとりの活躍が社会を創る」
- 3 主 催 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 4 会 場 NWE C
- 5 期 日 平成26年8月29日（金）～8月31日（日）2泊3日
- 6 対 象 男女共同参画に関心のある方（行政、企業、大学、NPO等の組織において男女共同参画の推進に携わる方、ならびに女性団体、女性／男女共同参画センター職員を含む）
- 7 参加者 1,165名（定員1,000名）

8 都道府県別参加者数

都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	33	埼玉県	267	岐阜県	1	鳥取県	1	佐賀県	7
青森県	3	千葉県	74	静岡県	17	島根県	1	長崎県	3
岩手県	6	東京都	258	愛知県	11	岡山県	6	熊本県	
宮城県	13	神奈川県	21	三重県	8	広島県	2	大分県	3
秋田県	7	山梨県	59	滋賀県	5	山口県	4	宮崎県	
山形県	2	新潟県	17	京都府	2	徳島県	1	鹿児島県	3
福島県	9	長野県	34	大阪府	23	香川県	1	沖縄県	5
茨城県	47	富山県		兵庫県	6	愛媛県	1	無回答他	53
栃木県	81	石川県	7	奈良県		高知県	1	合 計	1,165
群馬県	52	福井県	4	和歌山県		福岡県	6		

9 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
8月29日 13:00～13:10	(1)開会 主催者あいさつ		
13:15～15:15	(2)女性リーダー会議「女性リーダーが社会をどう変えるか」 企業、行政、NPO団体など、様々な分野で活躍している女性リーダーにご登壇いただき、これからの女性リーダーのあり方や、様々な分野での女性の活躍を推進していく上での現状、課題などについて、パネルディスカッション形式での議論を深める。	パネリスト： 宗片恵美子（特定非営利活動法人イコールネット仙台代表理事） 伊藤 麻美（日本電鍍工業株式会社代表取締役） 清原 慶子（三鷹市長） コーディネーター： 麓 幸子（日経BPヒ	NPO、企業、行政をはじめ様々な分野で女性の活躍を推進していく上での現状や課題が明らかにされただけでなく、これからの女性リーダーには、willと責任を買って出る勇氣が必要であることがパネルディスカッションでの議論を深める中で示された。

		ット総合研究所長・執行役員)	
15:45~17:45	(3) ワークショップ1 募集ワークショップ (12件)		
8月30日 10:00~12:00	(4) ワークショップ2 NWE C提供ワークショップ(1件) 「第58回国連婦人の地位委員会(CSW) 報告会」	報告者: 田中 正子 (JAWW (日本女性監視機構) 代表) 織田 由紀子 (特定非営利活動法北九州サスティナビリティ研究所 研究員) 島田 悦子 (NWE C 総務課専門官) コーディネーター兼報告者: 越智 方美 (NWE C 研究国際室専門職員)	C S W参加者による委員会期間中に採択された合意結論や一般討論で話し合われた内容、日本のNGOが日本政府と共催で開催した災害とジェンダーに関するサイド・イベントについての報告に加え、2015年が北京会議の開催から20周年目にあたる北京+20に向けての国際社会の動向について、参加者で共有する機会となった。
	募集ワークショップ (11件)		
13:15~14:45	(5) 特別講演「女性の活躍促進と社会の活性化」 少子高齢化という社会構造の大きな変化が進み、既存の価値観や社会システムの見直しがせまられるなか、成長の原動力として、女性の活躍への期待が高まっている。厚生労働省の村木厚子事務次官による、男女共同参画社会の実現に向けて、女性の活躍を促進し、活力のある社会を創出していく上で、何が求められているのかの講演を企画した。	講師: 村木 厚子 (厚生労働事務次官)	少子高齢化の現状、女性の結婚・出産と就業率の関係、ワーク・ライフ・バランスの推進など国の現状と政策をふまえ、自身の経験談も交えながら、活力のある社会を創出していく上で、女性の活躍を促進していくことの重要性が示された。
15:30~17:30	(6) ワークショップ3 NWE C提供ワークショップ (1件) 「地域における男女共同参画の推進—実践事例に学ぶ—」	報告者: 伴辺 久子 (苫小牧男女平等参画推進協議会事務局 局長) 桑田 悦子 (“きらめき Ritto” 実行委員会) 小坂橋まさ子 (“きらめき Ritto” 実行委員会) 杉村 洋子 (一般社団法人大学女性協会岡山支部) 大倉 美恵 (一般社団法人大学女性協会岡山支	「苫小牧男女共同参画推進協議会」の行政との協働による事業の展開、「“きらめき Ritto” 実行委員会」が取り組む地域課題の解決に向けた活動、「一般社団法人大学女性協会岡山支部」の高齢化・固定化していく組織の活性化を目指した取組などの報告とフロアの参加者によるグループ討議を行い、参加者が自身の活動のヒントを得る機会となった。

		部) コメンテーター： 高橋 雅子 (男女共同 参画学習協議会協働代 表) 竹中 佳子 (男女共同 参画学習協議会) 真邊 和美 (男女共同 参画学習協議会) コーディネーター： 久門 正子 (男女共同 参画学習協議会) 進行： 小林千枝子 (NWE C 調整主幹)	
	募集ワークショップ (11 件)		
18:30~20:00	(7) 懇親会		
8月31日 10:00~12:00	(8) ワークショップ 4 募集ワークショップ (10 件)		

10 募集ワークショップ一覧 (テーマ・実施団体名・都道府県)

別添参照

11 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

- ・男女共同参画社会の実現には、一握りのトップリーダーの活躍だけではなく、社会を構成している一人一人が、それぞれの持ち場、領域で自分の持っている能力・個性を發揮していくことが求められている。女性の活躍を推進していくということは、ごく一部の女性だけのためのものではないというメッセージを今年度のテーマ「ひとりひとりの活躍が社会を創る」に込めた。
- ・昨年度に引き続き、午後の時間帯に、女性リーダー会議 (1 日目)、特別講演 (2 日目) と 2 本の主催プログラムを実施した。
- ・会館提供ワークショップは、募集による一般ワークショップの実施と重なるコマが少なくなるように 2 本に絞り込んだ。
- ・一昨年度までは「募集ワークショップ」という枠で、ワークショップと展示の両方を募集していたが、展示ワークショップは例年応募も少なく、毎年同じ団体の応募が多かった。昨年度から「ワークショップ」と「ポスター展示」の 2 種類で一般募集を行った結果、「ポスター展示」には初めて参加する団体の応募が増えた。こうした昨年の結果を踏まえ、今年度もさらに新たな応募団体の掘り起こしを目指し、引き続き「ワークショップ」と「ポスター展示」の 2 種類で募集を行った。今年度実施団体のうち、44 件中 12 件の募集ワークショップ、6 件中 3 件のポスター展示が初めての応募団体であり、初めてのワークショップ応募団体 12 件のうち 3 件が、防災と男女共同参画をテーマにしたワークショップである。また、長崎県で活動する女性グループは、地元の町役場のホームページでワークショップの募集を知り応募に至ったとのことであり、全国の自治体への広報の効果が、地方で活動しているグループの初めてのフォーラム参加につながった。
- ・アンケートを「女性リーダー会議」「特別講演」「男女共同参画推進フォーラム」の 3 種類に分けて、開催資料に挟み込んだ。アンケート項目はいずれも簡単なものにして回答しやすいように工夫した。特に、「女性リーダー会議」「特別講演」のアンケートは、それぞれのプログラム終了時に会場の講堂 (600 席) での回収の声かけを徹底した。この結果、「女性リーダー会議」は 252 件、

「特別講演」は401件のアンケートを回収することができた。

- ・情報課が主体となり、女性アーカイブセンターの企画展示「映画と歩む～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～」の連動企画として、1日目の夜に、松井久子監督の「レオニー」上映と松井監督のトークを併せたプログラムを提供することによって、3日間にわたるフォーラムのプログラムの多様性を持たせた。

1.2 プログラム全体で得られた知見

「第3次男女共同参画基本計画」に示されている施策を参考に設定した7つのテーマ（①女性のキャリア形成支援、②企業における女性の活躍推進、③大学における女性の活躍推進、④男性にとっての男女共同参画、⑤安全・安心と男女共同参画、⑥男女共同参画の地域づくり、⑦男女共同参画センターの役割）に沿ってワークショップや女性リーダー会議、特別講演を行い、最新の情報提供や参加者同士の交流推進に努めた。

全国から応募のあった募集ワークショップ及びポスター展示の実施は、運営団体にとって、他団体の実践者や研究者などから貴重な意見を聞き、視野を広めるとともに新たなネットワークのきっかけを得る場となった。

1.3 プログラムの成果

(1) 参加者の全体の満足度について

94.8%（とてもよかった56.6%、よかった38.2%）

(2) 参加者のプログラムの満足度について

「女性リーダー会議」94.6%（とてもよかった64.6%、よかった30.0%）

「特別講演」97.4%（とてもよかった78.8%、よかった18.6%）

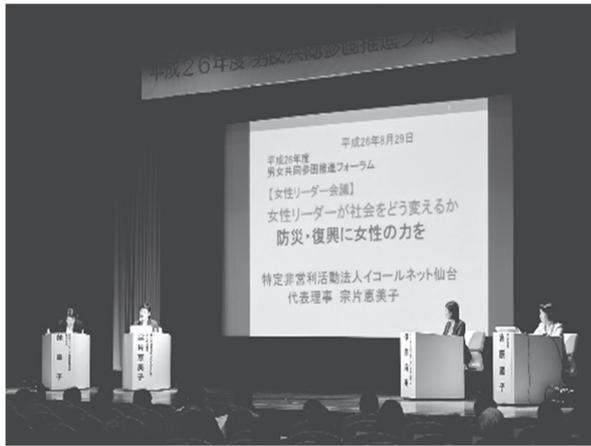
(3) ワorkshop運営者へのフォローアップ調査

(4) ポスター展示運営者へのフォローアップ調査

1.4 今後の課題及び展望

今年度も全国各地から3日間で1,165名と多くの参加者を得ることができた。特に、2日目の村木厚子氏(厚生労働事務次官)による特別講演は、600席の講堂が満席となり大盛況であった。今後も社会的知名度の高い講師によるプログラムを盛り込むことで、多くの参加者を惹きつけ、男女共同参画推進の波及効果を高めていきたい。

また、交流事業から研修事業となっても、参加者の年代層の中心を占めるのは、50代から60代以上の女性たちである。このような地域で男女共同参画の推進のために地道な活動を積み重ねている参加者たちにとって、「NWCの夏のフォーラム」に参加することこそが、日頃の活動の原動力となっていると思われる。引き続き、企業関係者や大学関係者など新しい層の掘り起こしを続けることと併せて、長年の参加者たちの「フォーラム」への期待に応えるプログラムを今後も提供していく必要がある。



女性リーダー会議の様子



女性リーダー会議登壇者と内海理事長



村木厚子氏による特別講演



村木厚子氏と内海理事長

平成26年度「男女共同参画推進フォーラム」ワークショップ・ポスター展示一覽

会場	日時	ワークショップ(1) 8月29日(金) 15:45~17:45			ワークショップ(2) 8月30日(土) 10:00~12:00			ワークショップ(3) 8月30日(土) 15:30~17:30			
		ワークショップタイトル	運営団体・グループ名	No	ワークショップタイトル	運営団体・グループ名	No	ワークショップタイトル	運営団体・グループ名	No	
1階	マルチメディア	101	山台版防災ワークショップ「みんなのための避難所作り」	運営団体・グループ名 せんだい防災プロジェクトチーム	12	ワールド・カフェで話そう！大規模災害時、どう動く？どう働く？	(公財)せんだい男女共同参画財団	31	男女共同参画センター 防災・復興全国キャンペーン2014 大規模災害時における男女共同参画センター等の役割と相互支援システム構築に向けて	NPO法人全国女性会館協議会	8
		109	与謝野晶子の「君死にたまふこと憂れ」の詩を今聞ふ！！	与謝野晶子を読む会	11	「日本を変えた10人の女性音楽家」	MUSIC TRAVEL	14	女性と人権全国ネットワークの紹介・報告 インターネットによる情報収集・情報発信するためのIT講座	女性と人権全国ネットワーク	38
		110	女性差別撤廃条約と日本一連への報告	日本女性差別撤廃条約NGOネットワーク	22	第58回国連婦人の地位委員会(CSW)報告会	会館提供ワークショップ	N1	地域における男女共同参画の推進—実証事例に学ぶ—	会館提供ワークショップ	N2
		201	図書館員、情報担当等をエンパワーするための女性セクター情報司書・図書館員のキャリアをひらくプロジェクト「日本の夢から」	図書館員のキャリア研究フォーラム	44	個人の成長と企業価値向上を結びつけるダイバーシティの本質と働き方ダイバーシティ先進企業の事例から学ぶ～ 「インカムで生きる」生きづらさを超えて 生活、労働、ベージンクインカムから考える	(NVEC客員研究員) 瀧崎 みどり uneの会	42	上野千鶴子さん講演中止・撤廃問題を考える＝その時住民はどうか動いたか！＝	特定非営利活動法人みんなのまち草の根ネットの会	18
		206	「ただの主婦から、ただならぬ主婦軍団へ！！」サロントークからコミュニティビジネスへの挑戦	みんなのでわい	37	男性への男女共同参画の処方箋	男も育児時間！連絡会	6	高齢者等が地域で自立した生活が送れる社会の実現をめざして～地域を支える仕事「健康らくらく講座」の取組～	特定非営利活動法人みんなのまち草の根ネットの会	34
		207	行列ができる講座の企画と思わず手に取るチラシのつくり方	講座企画塾 吉田清彦	4	めざせ！202030。一政策決定の場にもっと女性をー	全国フェミニスト議員連盟	30	安全・安心と男女共同参画～「北京+20」に向けて	JAWWW(日本女性監視機構)	16
		208	「お茶太女性ビジネスリーダー」育成施設「福音塾」が目指すもの	お茶の次女子大学 リーダーシップ養成教育研究センター	9	映画「レッドマリヤ」の上院と働く女にも考える対話ワークショップ	映画「レッドマリヤ」の上映と働く女にも考える対話ワークショップ	3	プレハブ・ネットワーキング	劇団プレイバックーズ	2
		大会議室	男女共同参画社会における子ども、子育てーー地域の役割ーー	女性と子どもの未来研究会	15	市民と行政のパートナーシップー伊丹市男女共同参画推進市民オンパードの活動ー	伊丹市男女共同参画推進市民オンパード	39			
		3階	302	女性の介護職と就業継続	均等待遇アクション21	13					
		3階	306	NPOの可能性とジェンダー平等推進	NPO法人SEAN(シーン)	17	大学生とともに取り組む学習支援&シングルマルガザー支援	静岡市女性会館(NPO法人男女共同参画フォーラムしずおか)	40	東京からの発信 「差別ができた！文京区と多摩市に」～「できないが」ができる川に変わって～	東京男女平等参画ネットワーク
審判院		田辺一穂の死は野たれ死にしたいんだ	女性講談 鶴英の会	29	男女共同参画センターーサバイバル大作戦！	特定非営利活動法人リソース・エンパワメントネットワークREN	24	私の体は誰のモノ？～英語と歌で考える「男女共同参画とリプロダクティブ・ヘルス/ライフ」	つるがしま落語会	1	

会場	日時	ワークショップ(4) 8月31日(日) 10:00~12:00			ポスター展示 本館ロビー							
		ワークショップタイトル	運営団体・グループ名	No	ポスター展示タイトル	運営団体・グループ名	No	8月20日(金) 15:45~17:45	8月30日(土) 10:00~12:00	8月30日(土) 15:30~17:30	8月31日(日) 10:00~12:00	
1階	マルチメディア	101	見えてきた多文化社会	(一社)国際女性教育振興会埼玉県支部	27	DVIは身近な問題 「日本女性の労働 どう変わる？どう変える？」	NPO法人女性のスペース「ね」	P1				
		109	「三池流の女たち、その50年の歩みを抱きしめた究極のアーキテクト 熊倉博子監督を囲んで」	NWECアーキテクトの会	26	子育てを切り口とした男女共同参画推進活動「ハバ」と赤ちゃんとのベビータンク」	一般社団法人日本ベビータンク協会	P2				
		110	「満洲」仕事と子育て・介護・お墓・アラクカルト	川越・参画座	5	鳥取大学における女性研究者研究活動支援事業の取り組み	鳥取大学男女共同参画推進室	P4				
		201	防災とまちづくり、そして男女共同参画	NPO法人四日市男女共同参画研究所	10	全国の生簡における男女共同参画の取り組み	日本生活協同組合連合会	P5				
		206	テーマ解析に基づいた男女共同参画のススメ	政策コンサルティング 小林 敦子	21	男女共同参画の視点からの復興	復興庁男女共同参画班	P6				
		207	女性のキャリアを「社会活動キャリア」の視点からとらえて学習する。男女共同参画をすすめるために実践すること。	フェミニスト・キャリアアクションの会	41							
		208	フェミニスト・キャリアアクションの提案 ～中年期以降の女性のキャリア再形成支援プログラム～	フェミニスト・キャリアアクションの会 W研究会	23							
		大会議室		女性が活躍できる日本にーネットワークで実現しようー	クオータ制を推進する会	35						
		3階	301	源氏物語に学ぶ男女共同参画 式部の思いこそ原点	源氏の会	43						
		3階	306	性暴力的な差別の流通・権威化と、女性の尊厳、安全・安心を考える	芸術化といえは阿でも許されるの会 橋本	25						

◆実技研修前通路：情報交換コーナー
参加者の皆さまが、ご所属団体のパンフレットやチラシなどの資料や書籍などを自由に交換・販売するコーナーを設置しますのでご利用ください。資料の運搬、陳列、金銭の取扱いなどは、各自の責任でお願いします。

5 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー

I 平成26年度 第1回「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」

1 趣 旨 企業における女性の活躍推進を図り、男女共同参画社会の形成に資するため、企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進者、管理職、リーダーを対象に実施する。

事例発表、講演及びパネルディスカッションでは、ダイバーシティ推進企業の経営者や人事部門の責任者、ワークライフバランスの専門家を講師に迎え、女性活躍促進のためには、どのような職場の風土改革やマネジメントが必要なのかを学ぶ。

さらに、グループワークでは参加者の直面する疑問や課題に向き合い解決の方向を探り、情報交流会において参加者同士による情報交換やネットワークづくりの場を提供する。

2 主 催 独立行政法人国立女性教育会館（NWEC）

3 共 催 経済産業省

4 会 場 1日目（10月17日）放送大学東京文京学習センター
2日目（10月18日）NWEC

5 期 日 平成26年10月17日（金）～10月18日（土）1泊2日

6 対 象 企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進者、管理職及びリーダー

7 参加者 67名

8 都道府県別参加者数

都道府県	人数								
北海道		埼玉県	8	岐阜県		鳥取県		佐賀県	
青森県	1	千葉県	2	静岡県	1	島根県		長崎県	
岩手県		東京都	4	愛知県	1	岡山県		熊本県	
宮城県	1	神奈川県	4	三重県		広島県		大分県	
秋田県		山梨県	1	滋賀県		山口県		宮崎県	
山形県		新潟県	2	京都府		徳島県		鹿児島県	
福島県	1	長野県		大阪府	1	香川県		沖縄県	
茨城県		富山県		兵庫県	2	愛媛県		無回答他	
栃木県		石川県	1	奈良県		高知県		合 計	67
群馬県		福井県		和歌山県		福岡県			

9 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
10月17日 13:00～13:30	(1) 開会 主催者あいさつ 施策説明	内海 房子（NWEC 理事長） 関 万里（経済産業省 経済産業政策局経済 社会政策係長）	

13:30～14:30	<p>(2) ダイバーシティ先進企業からの事例発表</p> <p>ダイバーシティ先進企業の取組から、女性の活躍を促進する職場風土や人材マネジメントのヒントを探る。</p>	<p>講師： 泉川 玲香（イケア・ジャパン株式会社取締役人事本部長） 松橋 卓司（株式会社メトロール代表取締役社長）</p>	<p>イケアからはライフパズルという考え方、会社の理念を共有すること、3つの骨子「多様な人材の受容と活用」「長期的な関係構築の保障」「平等な機会創出」から働く人を大切にしている様々な取組の紹介、メトロールからは6割を超える女性従業員に対して床暖房や全員参加できる親睦会など、工夫して働きやすい環境を整えている取組、従業員からのアイデアを積極的に取り入れて業績が向上したことなどの紹介があった。</p> <p>どちらの会社もフラットな組織、多様な人材活用、社員が主体的に働ける仕組みと会社の理念を共有しているというところに共通点が見い出された。</p>
14:30～15:15	<p>(3) 講演 「職場の風土改革に必要なマネジメントとは」</p> <p>女性の活躍促進を実施している企業からの事例を踏まえ、女性の活躍を促進するための課題や、女性活躍を創出していく上で、何が求められるかについて、専門家の立場からの講演。</p>	<p>講師： バク・スックチャ（アパシヨナータ Inc. 代表 ワークライフバランスコンサルタント）</p>	<p>諸外国との比較や国内での現状などグラフを使って分かりやすく解説された。</p> <p>女性の活躍促進にはこれまでの両立支援だけではなく、男性の長時間労働の是正と家庭での責任分担をさらに推し進めること、また男女ともに在宅勤務やフレックスなど柔軟な働き方を導入することが必要であるということが分かった。</p>
15:30～16:45	<p>(4) パネルディスカッション 「女性が活躍できる企業のあり方とは」</p> <p>内海理事長のコーディネートのもと、事例発表をした2社の発表者をパネリストに、ダイバーシティの専門家をコメンテーターとして、女性活躍を推進するきっかけや、女性活躍促進する上でのポイントなどについて議論する。</p>	<p>パネリスト： 泉川 玲香（イケア・ジャパン株式会社取締役人事本部長） 松橋 卓司（株式会社メトロール代表取締役社長）</p> <p>コメンテーター： バク・スックチャ（アパシヨナータ Inc. 代表 ワークライフバランスコンサルタント）</p> <p>ファシリテーター： 内海 房子（NWEC）</p>	<p>イケアからは、チェンジマネジメントをするためには誰かが一歩踏み出すこと、そのために社員の声を聞き具現化し、それらが業績アップにもつながっていることが紹介された。</p> <p>メトロールからは、女性を活用することが会社の存続にかかっていたこと、両立はもちろん、長期的に働いてもらうための工夫や福利厚生フラット化や積極的な意見の採用等の取組が風通しの良い会社風土になってきたことなど</p>

		理事長)	が紹介された。
16:45～17:00	(5) 1日目閉会行事 (1日目のみ参加者アンケート記入及び回収)		
17:00～18:30	(6) 情報交流会 (希望者のみ参加) 全国からの参加者と交流し、参加者同士の情報ネットワークづくりを行う。※立食形式夕食を兼ねる。 ※2日目参加者は専用バスにてNWE Cへ移動		リラックスした雰囲気の中で、参加者同士による情報交換やネットワークづくりができた。
10月18日 9:00～10:00	(7) NWE Cからの情報提供 統計データを用いた国際比較を通じて、女性の活躍と男女共同参画の推進を分かりやすく解説する。	講師： 中野 洋恵 (NWE C 研究国際室室長)	国内外のデータをもとに女性活躍促進の日本での現状について詳しく知り、課題把握をすることができた。
10:15～12:00	(8) グループワーク 1 グループに分かれて、リーダーシップをとる際に必要なコミュニケーション手法(アクションラーニング)について学ぶ。 アクションラーニングで、参加者同士の背景や問題意識を共有し、講演やパネルディスカッションで得たことの相互理解を深める。 ・各グループ内で1つの課題 ・4グループで討論	コーディネーター： 堀本麻由子 (NWE C 事業課客員研究員) ファシリテーター： 早川 枝里 (NWE C 事業課客員研究員) 洲脇みどり (NWE C 事業課客員研究員) 引間 紀江 (NWE C 事業課専門職員) 千装 将志 (NWE C 事業課専門職員)	自己紹介に時間をかけることで、各自が所属する企業の取組や課題について、お互いに十分理解することができた。 また、日頃聞くことのできない共通の課題に気づくことができた。「アクションラーニング」の手法を活用し、参加者一人一人が各企業の課題に向き合い、課題解決の方策を探った。
13:00～14:45	(9) グループワーク 2 引き続き、グループごとにアクションラーニングに基づいたディスカッションを行い、話し合ったことを発表して全員で共有する。 ・各グループ内で1つの課題 ・4グループで討論	コーディネーター： 堀本麻由子 (NWE C 事業課客員研究員) ファシリテーター： 早川 枝里 (NWE C 事業課客員研究員) 洲脇みどり (NWE C 事業課客員研究員) 引間 紀江 (NWE C 事業課専門職員) 千装 将志 (NWE C 事業課専門職員)	「アクションラーニング」の手法 参加者が、他のグループの課題についてもその検討成果を共有できた。
14:50～15:00	(10) 閉会 ・アンケート記入 ・閉会挨拶	内海 房子 (NWE C 理事長)	

9 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

企業における女性の活躍推進を図るため、共催である経済産業省 関 万里 経済産業政策局経済社会政策係長による施策説明に続き、企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進に取り組んでいる株式会社イケア・ジャパン 泉川 玲香 取締役人事本部長、株式会社メトロール 松橋 卓司 代表取締役社長からの最新事例の発表を企画した。

2社の事例を絡めて、ワークライフバランスの専門家として パク・スックチャ氏に講演を依頼し、世界の動向と照らし合わせながら、ダイバーシティを進めるために必要なことについて明確化し、これからの課題についての提言があった。

パネルディスカッションでは、内海理事長をコーディネーターに、事例発表者より、さらに詳しい取組について、女性活躍が推進されるようになったきっかけなどについて議論を深めた。パク氏にはコメンテーターとして、「女性が活躍できる企業のあり方とは」をテーマにした課題解決への討議を目指した。

グループワークは、効率のよい会議に必須であるアクションラーニングの手法を知り、続いて実際にアクションラーニングに基づいたディスカッションを行うプログラムを設定した。

今回は1日目を東京会場（放送大学文京学習センター）で行うことで、講演とパネルディスカッションだけでも聞きたいという参加者まで広げられるよう工夫した。また、2日目の情報提供とグループワーク参加者については東京会場から嵐山まで専用バスを用意し、スムーズに移動できるよう工夫した。

情報交流会は東京会場（放送大学文京学習センター）でプログラム終了後、ケータリングサービスを利用して行い、宿泊しなくても参加できるようにし、参加者同士の情報交換やネットワークづくりの場を提供した。

10 プログラム全体で得られた知見

先進事例から、多様な人材の活用やフラットな組織、社員のアイデアの積極的な採用、男女ともにキャリアと家庭を両立できる支援策などの具体例が提示された。続く講演では、日本において女性活躍が進まない原因が長時間労働にあることを国際比較データなどを用いて解説した上で、この問題を解決するためには、長時間労働の是正や男性による家庭責任のシェア、柔軟な働き方の導入などが必要であるとの提案がなされた。パネルディスカッションでは3者による活発な論議が展開された。会場からの質問も交えながら、具体的なヒントも多く得られた。

グループワークについては「アクションラーニングを学ぶためにこのセミナーに応募した」という参加者も複数あり、質問中心に進めるこの手法は、短時間で効率よく課題の洗い出しから対策の提案まで行えることに参加者からも有意義であったとの感想が数多く寄せられ、参加者の直面する疑問や課題に向き合い解決の方向を探ることができた。

参加者からは「パネリスト3名の方々自身がまさにダイバーシティと思えるような盛り上がったディスカッションで大変有意義であった」「講演やパネルディスカッションから多くのキーワードを見つけられた」「女性の活躍促進と男性の長時間労働や男性の家庭責任についての関係性を考えさせられた」「アクションラーニングは社内での研修に採りいれたい」などの意見がみられた。

11 プログラムの成果

(1) 参加者の全体の満足度について

95.1%（非常に満足59.0%、満足36.1%）

(2) 参加者のプログラムの有用度について

100.0%（非常に有用54.1%、有用45.9%）

12 今後の課題及び展望

昨年度の反省から、今回1日目を東京会場としたことについては「東京会場であったため1日目だけでも参加できた」「午前中出勤して午後からセミナーに参加できてよかった」との声もあり、

参加者を募集するうえでは大きな効果があった。1日目プログラム終了後の東京会場での情報交流会についても日帰り参加の方も参加できるとあって好評だった。

専用バスでの移動も時間のロスがなく、参加者から大変好評であった。このような形での開催はテストケースではあったが、開催側にも参加者側にもよいものであったといえる。来年度も同様な形で開催することが望ましい。

参加者の新規開拓については、経済産業省の「ダイバーシティ100選企業」「なでしこ銘柄」、厚生労働省の「ポジティブアクション女性の活躍促進宣言企業」、埼玉県ウーマノミクス課「多様な働き方実践企業」などに広く案内したことにより、参加が少しずつではあるが増えた。独立行政法人への広報も行った結果、5名の参加があったのは、今回特筆できることと考える。独立行政法人でも女性活躍を推進するに当たって取組方や現状などを知りたいというニーズがあるということがわかった。広報先についても今後さらに開拓していきたい。

6月に行われた「ダイバーシティリーダー会議」の参加者で今回も参加された方、同僚や部下に紹介してくださった方もおり、参加者のネットワークが感じられた。今後も参加者が主体的にセミナーのOB,OGとしてネットワークを維持していけるような働きかけをしていくことが課題である。



事例発表1 泉川 玲香 氏



事例発表2 松橋 卓司 氏



講演 パク・スックチャ 氏



パネルディスカッション



情報交流会



グループワーク

II 平成26年度 第2回「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」

- 趣 旨** 一般社団法人埼玉県経営者協会ウーマノミクス推進委員会と連携し、企業における女性の活躍推進を図り、男女共同参画社会の形成に資することを目的に、主として埼玉県経営者協会加盟企業の経営者、役員、管理職、現場で活躍する女性リーダーなどを対象に実施する。
- 主 催** 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 共 催** 一般社団法人埼玉県経営者協会ウーマノミクス推進委員会
- 後 援** 経済産業省関東経済産業局

- 5 会 場 大宮ソニックシティ4階 市民ホール403・404
- 6 期 日 平成27年3月19日(木)
- 7 対 象 企業におけるダイバーシティ(女性の活躍促進)の推進者、管理職及びリーダー
- 8 参 加 者 65名

9 都道府県別参加者

都道府県	人 数								
北海道		埼玉県	34	岐阜県		鳥取県		佐賀県	
青森県		千葉県	1	静岡県		島根県		長崎県	
岩手県		東京都	24	愛知県		岡山県		熊本県	
宮城県		神奈川県	1	三重県		広島県		大分県	
秋田県		山梨県	1	滋賀県		山口県		宮崎県	
山形県		新潟県		京都府		徳島県		鹿児島県	
福島県		長野県		大阪府		香川県		沖縄県	
茨城県		富山県		兵庫県		愛媛県		無回答他	3
栃木県	1	石川県		奈良県		高知県		合 計	65
群馬県		福井県		和歌山県		福岡県			

10 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
3月19日 13:30~13:40	(1) 開会 ・主催者あいさつ	内海 房子(NWEC理事 長)	
13:40~14:40	(2) 基調講演 「企業の成長戦略としての女性 性が活躍できるしくみづくり」 をテーマに、女性の活躍促進の 取組についての講演。	講師： 近藤 宣之(株式会社日 本レーザー代表取締役 社長)	経営破綻状態の企業の存続 という観点からダイバーシテ ィの取組を始めて、多様な人 財の中でも女性の活躍が業績 向上へ大きな力となったこ と、女性のライフスタイルに 応じて成長できる仕組みとし て、同じ仕事を複数で受け持 つダブル・アサインメントや、 一人が多くの仕事を行うマル チタスクの活用、女性が幹部 として活躍できる風土づくり などが紹介された。評価項目 を明確化したことによって透 明性を保ち、社員が納得し、 モチベーションを高める人事 制度など、具体的なヒントが 数多く提示された。社長自ら が率先して社員に声をかけて いく風通しの良い社内風土の 醸成など、「ヒト」を大切にす る経営理念が表された講演で あった。

14:50～16:20	<p>(3) パネルディスカッション 「一歩踏み出す女性をどのように育てるか」をテーマに、先進的な取組をしている企業の事例も交えて、女性の活躍を促進するための課題や、女性活躍を創出していく上でのキーワードとなるものについてディスカッションを行う。</p>	<p>パネリスト： 近藤 宣之(株式会社日本レーザー代表取締役社長) 岩崎 裕美子(株式会社ランクアップ代表取締役社長) 山口 和子(埼玉縣信用金庫南古谷支店長) コーディネーター： 内海 房子(NWEC理事長)</p>	<p>岩崎社長からは、化粧品会社を起業し、女性が仕事と子育てを両立できる会社を目指した経緯とともに、自身が広告代理店での長時間労働を経験し、女性が出産、子育てをしながらも働き続けられるために残業しないで業績を上げる会社にするべく、仕事のアウトソーシングや上司による部下の仕事の割り振りなど工夫し、成果が上がっていることが話された。</p> <p>山口支店長からは、新人時代に体調を崩した先輩の代役として責任ある仕事を任されたことで、仕事のおもしろさを実感し、勉強を始め資格を取り、働くことを真剣に考えるようになったこと、主任には昇級したが、その後10年足踏みし、自身の向上心とポジティブアクションの草創期とが重なって支店長代理に昇級し、今日に至っていることが話された。</p> <p>ディスカッションでは、女性が一歩踏み出すには、「長時間労働の是正」は必要であるとの議論が展開され、中でも岩崎社長の「就業30分前帰宅可制度」については、女性にとって時間の意識を持ち、時間内で効率よく仕事で成果を出す努力をするようになったことなど好事例が紹介された。近藤社長や山口支店長からも、経営者や管理職自らが意識を持ち働きかけ、提案することが大切であるという話が出された。</p> <p>パネリストからは、「女性だからこそできる女性管理職の在り方」や「女性にチャンスを与える」「会社は能力や成果に見合った処遇をする」など数多くのヒントが提示された。</p>
16:20～16:30	(4) 閉会 アンケート記入		

1.1 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

一般社団法人埼玉県経営者協会との共催とすることにより、会場、謝金、広報等での協力が得られるようにした。

講師、パネリストについては、事業課で参加したダイバーシティセミナーの講演やワークライブバランス認定企業・ダイバーシティ推進企業の取組事例を参考に、また埼玉県経営者協会の協力を得ながら選定した。

基調講演で女性活躍をさらに進めていくための仕組みづくりについて、またパネルディスカッションでは事例とともに一歩踏み出してきた女性のロールモデルにも登壇いただき、実感としての女性活躍についてお話しいただき、理事長のコーディネートのもと、意見交換していただくようにした。

1.2 プログラム全体で得られた知見

「女性活躍推進」に取組成果を上げてきた企業のトップと、自身が一歩踏み出す女性として活躍されている女性経営者と管理職の方々に登壇いただいた。

講演では、企業の経営戦略として、「女性活躍」の取組が必要不可欠であったこと、「女性活躍」を進める上での働き方や仕事の充て方などの仕組みや、仕事時間の長さではなく、内容やスキルによる見える化した人事評価制度などの「形」の部分と、風通しの良い社内風土の醸成など「目に見えない雰囲気づくり」の部分の両面の工夫や努力が功を奏しているとの話であった。

パネルディスカッションでは、実際に第一線で活躍している女性に、現在に至るまでの経験やきっかけになったことなどを話していただいた。

女性経営者の方からは、以前いた職場での長時間労働の経験から、限られた時間でも工夫次第で生産性の高い仕事ができることや職場のモチベーションを上げられることなどが話された。

女性管理職の方からは、「仕事がおもしろい」と感じる経験が昇進への動機となり、主体的に仕事を進めてきた結果、登用に繋がるチャンスが与えられてきたこと、女性にも経験を積ませることの重要性なども話された。

「一歩踏み出す女性」を育てるには、まず女性にチャンスを与えることが重要であり、会社は能力や成果に見合った処遇をすることや女性ならではの管理職の在り方の認識を社内で共有することなどが大切であるということが分かった。

参加者からは、「素晴らしいキャリアになるまでの道のりは、私たちにとても身近なことの連続だということが分かり、勇気や希望が持てた」「女性が一歩踏み出せるように、上司が力添えする必要性を感じ、女性自身が自分の力で踏み出すことも大切だと思った」「今後に活かせる考え方やキーワードを学ぶことができた」「実践されている経営者の方、一歩踏み出した方の話で、具体的かつ納得性があった」などの感想が寄せられた。

1.3 プログラムの成果

(1) 参加者の全体の満足度について

93.7% (非常に満足43.7% 満足50.0%)

(2) 参加者のプログラムの有用度について

97.9% (非常に有用61.7% 有用36.2%)

1.4 今後の課題及び展望

本セミナーは「第2回企業セミナー」として埼玉県経営者協会との共催事業であり、大宮会場で行っている。規模としては、10月開催の「第1回企業セミナー」(80名定員)よりも小さいものと捉えているが、セミナーの定員を埼玉県経営者協会の意向で、例年100名としている。集客の状況や会場の大きさから考えて、定員数を70~80名に設定することについて、埼玉県経営者協会に提案したい。

集客については埼玉県経営者協会側でも広報を行ったが、なかなか参加者が集まらず、NVECでも郵送や電子メールで広報を強化した。早めの講師選定、及び幅広い広報を次年度は心がける。

「第1回セミナー」に比べて、中小企業の経営者や女性活躍推進担当者の参加が多いことも踏えた講師の人選を行うようにしたい。



講演 近藤 宣之 氏



パネルディスカッション



近藤 宣之 氏



山口 和子 氏



岩崎 裕美子 氏

6 大学等における男女共同参画推進セミナー

- 1 趣 旨** 男女共同参画社会の実現は、国、地方公共団体、国民すべてに課せられた責務であり、高等教育機関としての大学・短期大学・高等専門学校においても、その一翼を担うべきことが求められている。
- しかし、学内全体への男女共同参画意識の浸透や男女共同参画の推進体制はいまだ十分とはいえない。また、大学の経営戦略の一つに「男女共同参画」を位置づけ、取り組んでいくことが求められている。
- このような状況を踏まえ、本セミナーでは、大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画の推進に向けて、それに関わる教職員を対象として、専門的、実践的な研修を行う。
- 2 主 催** 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 3 後 援** 一般社団法人国立大学協会、一般社団法人公立大学協会
日本私立大学団体連合会、日本私立短期大学協会
独立行政法人国立高等専門学校寄稿
- 4 会 場** NWE C
- 5 期 日** 平成26年12月4日（木）～12月5日（金）1泊2日
- 6 対 象** 大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画の推進に携わる教職員
- 7 参加者** 79名

8 都道府県別参加者数

都道府県	人数								
北海道	3	埼玉県	2	岐阜県		鳥取県	1	佐賀県	
青森県	3	千葉県	2	静岡県	2	島根県		長崎県	2
岩手県	2	東京都	18	愛知県		岡山県	1	熊本県	
宮城県	3	神奈川県	2	三重県	2	広島県	2	大分県	1
秋田県		山梨県	1	滋賀県	1	山口県		宮崎県	
山形県	2	新潟県	1	京都府	2	徳島県	2	鹿児島県	1
福島県		長野県		大阪府	3	香川県	4	沖縄県	
茨城県	2	富山県	3	兵庫県	1	愛媛県		無回答他	
栃木県		石川県	1	奈良県	2	高知県	1	合 計	79
群馬県	2	福井県		和歌山県		福岡県	4		

9 プログラムデザイン

別紙添付

10 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
12月4日 13:15~13:25	(1)開会 ①主催者あいさつ ②プログラムの趣旨説明	内海 房子 (NWEC 理事長) 石崎 裕子 (NWEC 事業課専門職員)	
13:30~15:00	(2) 基調講演「大学の使命と男女共同参画」 研究と教育という大学の使命を踏まえ、学内全体への男女共同参画意識の浸透や推進体制を構築することの必要性など、大学において男女共同参画の推進に取り組むことの意義を理解する。	講師：江原 由美子 (首都大学東京教授・副学長)	日本の経済成長力が鈍化し、人口減少・少子高齢化が進行する状況において、日本の大学教育における男女共同参画度の低さが、人材育成や知の想像など「大学の使命の達成」を阻害する大きな問題となっていることを改めて認識させるものとなった。
15:15~16:30	(3) 講義「大学経営戦略としての男女共同参画の推進」 大学間競争が高まる中で、教職員の意欲・能力こそ競争力の源泉である。ダイバーシティ、特に、女性の活躍促進、ワーク・ライフ・バランスの視点から大学の経営戦略を考えることの意義を理解する。	講師：吉武 博通 (筑波大学教授・大学研究センター長)	ガバナンス改革を研究・教育と経営改革につなげるためには、母集団を広げて男女を問わず広く人材を発掘・育成することが求められていることが示された。大学間競争が今後ますます加速し、教員組織と職員組織の連携・協働が大学運営において求められる中で、理事長・理事、学長・学部長などトップマネジメント人材やこれらを支えるスタッフ人材の発掘・育成には、男女共同参画の視点から広く人材を登用していくことが不可欠であることへの理解を深める内容となった。
16:45~17:15	(4) 情報提供「国立女性教育会館の情報機能の活用」(希望者のみ参加) 大学等において、男女共同参画を推進する上で役に立つNWEC「女性教育情報センター」が収集・提供する関連資料、女性情報ポータルWinetの活用などについて情報提供する。	説明：森 未知 (NWEC 情報課専門職員)	NWEC「女性教育情報センター」が収集・提供する関連資料、女性情報ポータル“Winet”からデータベース検索を使った情報の活用についての情報提供を行った。資料やサイトの存在など、参加者にとって初めて知る内容が多く、今後の活用が期待されるものとなった。
18:30~20:00	(5) 情報交換会 (希望者のみ参加)		自校での課題を解決するヒントを得ることや、参加者同士のネットワークを広げることを目的に情報交換会を行った。他校の取組を知り、共通の苦労や悩みを共有する機会となった。

<p>12月5日 9:00～9:50</p>	<p>(6) 情報提供「大学における男女共同参画の現状」 NWE Cが昨年度から実施している「大学等における男女共同参画に関する調査研究」の一環として作成中の「ガイドブック」について説明する。</p>	<p>説明：渡辺 美穂（NWE C研究国際室研究員） 飯島 絵理（NWE C研究国際室客員研究員）</p>	<p>NWE C研究国際室が行う「大学等における男女共同参画に関する調査研究」の一環として作成中の『ガイドブック』の内容について紹介した。今後の発行に向けて期待をふくらませるものとなった。</p>
<p>10:00～11:30 12:30～14:00</p>	<p>(7) 分科会 大学における男女共同参画推進の主要な課題について、事例報告をもとにディスカッションを行い、実践力を養う。</p> <p>分科会1「男女共同参画推進のための基盤づくり」 大学をはじめとする高等教育機関において、男女共同参画の推進を長期的視野に立って継続していくためには、推進の拠点となる基盤が必要である。分科会1では、国立大学と地方公立大学の取組事例をもとに、大学等における男女共同参画推進のための基盤づくりやその継続及び連携の仕方などについて考える。</p> <p>事例①「東京農工大学における女性未来育成機構の取り組み」</p> <p>事例②「静岡県立大学における男女共同参画推進の取り組み」</p> <p>分科会2「男女ともに育児・介護との両立をめざした環境づくり」 学内全体で、ワーク・ライフ・バランスの取れた労働環境づくりに取り組むためには、女性だけでなく男性も、育児だけでなく介護も、と支援の対象を拡げていく必要がある。分科会2では、国立大学と私立大学の取組事例を基に、ダイバーシティ促進の上でも不可欠な研究や仕事と育児・介護とい</p>	<p>事例①報告者： 星野 明香（東京農工大学女性未来育成機構コーディネータ）</p> <p>事例②報告者： 犬塚 協太（静岡県立大学教授・男女共同参画推進センター長）</p>	<p>各分科会のテーマについて、積極的な取組を行っている大学及び高等専門学校的事例発表を行い、報告者も交えたグループ討議を行った。</p> <p>各分科会とも各校での現状と課題について情報交換するとともに、自校の課題の把握や分析、今後の取組に向けての見通しを立てることに役立つ事例発表、グループ討議となった。</p> <p><分科会1> 事例①では農工大式ポジティブアクション「1プラス1」など東京農工大学の女性研究者支援の取組が報告され自校での取組のヒントとなった。</p> <p>事例②では、単科の小規模大学が多いことなどによる独自の取組への財政的・人的制約条件の大きさなど特有の事情・背景を抱える地方公立大学が、男女共同参画推進の活動を進めていく上での地域社会との連携・協力体制の重要性などを学んだ。</p> <p><分科会2> 事例①では、男女共同参画推進室の「しあわせぶんたん」という地元の特産物にちなんだ愛称や多彩な料理を一枚の大皿で受け入れる高知名物の「皿鉢」をモチーフに、ダイバーシティを紹介するリーフレットの作成などの取組紹介を通して、教職員が当事者として男女共同参画を身近に感じてもらえるような工夫のこらし方の</p>

	<p>ったライフイベントとの両立をめざした環境づくりについて考える。</p> <p>事例①「高知大学男女共同参画推進室の両立支援の取り組み」</p> <p>事例②「東邦大学男女共同参画推進センターの両立支援の取り組み」</p> <p>分科会3「戦略としての女子学生向けキャリア形成支援」 女性の活躍への期待が高まる中で、女子学生向けのキャリア形成を支援する取組は、少子化社会において、高等教育機関の生き残りをかけた戦略のひとつとして、女子大学のみならず、共学の場合も重要性を帯びている。分科会3では、私立女子大学と国立高等専門学校を取組事例をもとに、女子学生向けのキャリア形成支援の在り方について考える。</p> <p>事例①「昭和女子大学の全学共通キャリア教育・キャリア支援の取り組み」</p> <p>事例②「高専女子ブランド発信事業を通じた高専女子学生の育成」</p>	<p>事例①報告者： 廣瀬 淳一（高知大学特任講師・男女共同参画推進室長）</p> <p>事例②報告者： 中野 弘一（東邦大学教授・学長補佐）</p> <p>事例①報告者： 森 ます美（昭和女子大学教授・キャリア支援部長）</p> <p>事例②報告者： 藤田 直幸（奈良工業高等専門学校電気工学科教授・国立高等専門学校機構男女共同参画推進室併任教授）</p>	<p>重要性を学んだ。</p> <p>事例②では、私立大学では経営に資する取組とすることが、取組の継続の上で必須であることを踏まえ、職員受益性の拡大の視点や私立大学経常費補助金算定において男女共同参画の活動が要素として加算評価される制度や男女共同参画の取組の補助金への反映を理事サイドにフィードバックすることの重要性への理解を深めた。</p> <p><分科会3></p> <p>事例①では、卒業後の就職にとどまらず、長い人生を見据えて、職業・就業を中心においた将来にわたるライフコースにおけるキャリア形成を大学が支援する上での学内でのキャリア教育とキャリア支援の連携の必要性を理解した。</p> <p>事例②では、女子学生の増加に伴い、高等専門学校においても女子学生に特化したキャリア教育の必要性に対する認識がますます高まっていることへの認識を深めた。</p>
14:15～14:45	<p>(8) 全体会 各分科会の報告により、参加者の情報共有を行う。</p>	<p>報告者：千装 将志（NWE C事業課専門職員） 中光 理恵（NWE C事業課専門職員） 引間 紀江（NWE C事業課専門職員） コーディネーター：</p>	<p>各分科会での事例発表の内容やグループ討議の様子などについて、全体会で報告し合い、参加者の情報共有を行う目的で実施した。参加者にとっては、自分が参加していない他の分科会の概要を把握すること</p>

		渡辺 美穂（NWE C 研究国際室研究員）	ができ、自身の研修内容の幅を広げる機会となった。
14:45～14:50	(9) アンケート記入 研修をふりかえりながら、参加者それぞれがアンケートの記入を行う。		
14:50～14:55	(10) 閉会		

1.1 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

- ・研究者養成型以外の教育中心の大学や私立大学でも興味・関心をもって参加してもらえるよう、1日目に、吉武博通氏（筑波大学教授・大学研究センター長）による大学における経営戦略の視点から男女共同参画推進の重要性について考える講義を組み込んだ。アンケートにも「上位管理職階の人に聴いてもらいたい」などの意見が寄せられ、好評であった。
- ・大学が研究・教育の場であると同時に、教職員にとっては働く場であることも踏まえたテーマの分科会を設定した（分科会2「男女ともに育児・介護との両立をめざした環境づくり」）。
- ・女子学生向けのキャリア形成支援の取組は、女子大学のみならず共学においても、高等教育機関の生き残りをかけた戦略のひとつであるという視点から分科会を設定した（分科会3「戦略としての女子学生向けキャリア形成支援」）。
- ・分科会の事例の選定は、NWE C研究国際室が実施している「大学等における男女共同参画に関する調査研究」のヒアリング調査先や調査研究の一環で作成中の「ガイドブック」掲載事例からも選定し、調査研究の成果と研修事業の循環を意識した。

1.2 プログラム全体で得られた知見

- ・日本の大学教育における男女共同参画度の低さが、人材育成や知の創造など「大学の使命の達成」を阻害する問題点であることを踏まえ、大学間競争の加速を背景に、教員組織と職員組織の連携・協働の必要性が増す中で、研究者養成はもちろんのこと、トップマネジメント人材やスタッフ人材においてもその発掘・育成には、男女を問わず広く人材を登用するという男女共同参画の視点が不可欠であることを基調講演、講義、分科会などの2日間にわたるプログラムを通して理解することができた。

1.3 プログラムの成果

- (1) 参加者の全体の満足度について
95.4%（非常に満足46.2% 満足49.2%）
- (2) 参加者のプログラムの有用度について
98.5%（非常に有用48.5% 有用50.0%）

1.4 今後の課題及び展望

- ・81名の応募があったが、2名のキャンセルがあったため、実際の参加者は79名と定員に1名足りなかった。プログラムの内容とも関わることであるが、参加者募集の方法・対象等は、検討の必要がある。女性研究者支援に関する他機関・他大学のセミナー等との差別化をはからなければ、定員を満たすことは今後も困難である。例えば、ライフイベントに直面した卒業生支援や社会貢献としての女性の生涯学習支援への大学の貢献、女子高校生に特化した学生募集戦略の工夫など、大学としての「女性」に関する総合的・包括的な戦略づくりへの支援をコンセプトにするなどして、男女共同参画室の担当者にとどまらず、教務や広報担当者をも惹きつけるプログラム内容を考える必要がある。



基調講演「大学の使命と男女共同参画」
(首都大学東京教授・副学長 江原由美子氏)



講義「大学経営戦略としての男女共同参画の推進」
(筑波大学教授・大学研究センター長 吉武博通氏)



分科会 1
「男女共同参画推進のための基盤づくり」



分科会 2
「男女ともに育児・介護との両立をめざした環境づくり」



分科会 3
「戦略としての女子学生向けキャリア形成支援」



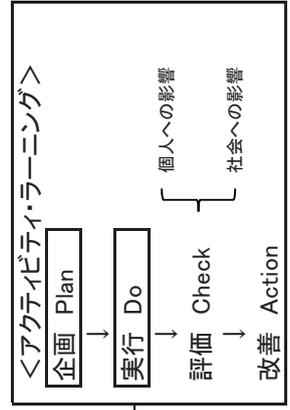
全体会

平成26年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」プログラムデザイン

【プログラムの特徴】

- ① 男女共同参画の視点をもち、実態把握・課題分析を行い、実践力に結びつける。
- ② 参加者同士の関係・連携を向上させる。
- ③ 実践事例を重視する。
- ④ 研修の成果を自学に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ活かす。

<p>対象 大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画推進に関わる教職員 80名 大学等における男女共同参画を推進する上での特徴的な課題・阻害要因を知り、女性の参画を促進させる。</p>	<p>実態・課題把握・課題分析</p>	<p>実践への つながり</p>
<p>目的 男女共同参画推進の視点</p>	<p>男女共同参画推進の視点</p>	<p>課題把握・課題解決に向けた実践力</p>
<p>内容</p>	<p>○基調講演 「大学の使命と男女共同参画」 研究と教育という大学の使命を踏まえ、学内全体への男女共同参画意識の浸透や推進体制を構築することの必要性など、大学において男女共同参画の推進に取り組むことの意義を理解する。</p> <p>○講義「大学経営戦略としての男女共同参画の推進」 大学間競争が高まる中で、教職員の意欲・能力の活躍促進、ワーク・ライフ・バランスの視点から大学の経営戦略を考えることの意義を理解する。</p> <p>○情報提供「国立女性教育会館の情報機能の活用」 (希望者のみ)</p> <p>○全体会</p>	<p>○分科会1 「男女共同参画推進のための基盤づくり」</p> <p>○分科会2 「男女ともに育児・介護との両立をめざした環境づくり」</p> <p>○分科会3 「戦略としての女子学生向けキャリア形成支援」</p>
<p>方法</p>	<p>講義と質疑</p> <p>講義と質疑、報告</p> <p>グループワーク</p> <p>情報交換会</p> <p>アンケート記入</p>	<p>実践への つながり</p>



7 女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）＋（実技コース）

- 1 趣 旨 女性に関する原資料（女性アーカイブ）の具体的な保存技術や整理方法を体系的に学ぶ最初の一步として、実務者を対象に基礎情報を提供する。また、関係者相互に情報交換を行いネットワークづくりを進める。基礎コース修了者向けには実習を取り入れたより実践的なプログラムを提供する。
- 2 特 徴 「基礎コース」の修了者を対象に、実務に必要な基本的な技術を学ぶためのより実践的な「実技コース」を実施した。「基礎コース」では、全国の女性関連施設での女性アーカイブ構築や連携状況に着目し、事例紹介を取り入れた。「実技コース」は、紙資料修復に関する実技実習のほか、資料展示の手法について学ぶプログラムを、実際の展示室を活用したワークショップ形式で行った。
- 3 主 催 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 4 会 場 NWE C
- 5 期 日 平成26年12月10日（水）～12月12日（金）
「基礎コース」：平成26年12月10日（水）～12月11日（木）1泊2日
「実技コース」：平成26年12月11日（木）～12月12日（金）1泊2日
- 6 対 象 女性関連施設職員、図書館の実務担当者、地域女性史編纂関係者
基礎コース：30名 ただし、以下の条件に該当する者を対象外とする。
・平成21-22年度「女性情報アーキビスト入門講座」または平成23-25年度「女性情報アーキビスト養成研修(入門)」を受講済
実技コース：10名 ただし、いずれかの条件を満たす者を対象とする。
・基礎コースと同時受講が可能
・平成21-22年度「女性情報アーキビスト入門講座」または平成23-25年度「女性情報アーキビスト養成研修(入門)」を受講済
・過去に実技コースを受講したことがない
- 7 参 加 者 「基礎コース」：27名、「実技コース」：10名

8 都道府県別参加者数（内訳：基礎コース/実技コース）

都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道		埼玉県	4/2	岐阜県		鳥取県		佐賀県	
青森県		千葉県		静岡県		島根県		長崎県	-/1
岩手県		東京都	10/3	愛知県	1/-	岡山県	1/-	熊本県	
宮城県		神奈川県	3/1	三重県		広島県		大分県	
秋田県		山梨県		滋賀県		山口県		宮崎県	
山形県		新潟県		京都府	1/-	徳島県		鹿児島県	1/-
福島県		長野県		大阪府		香川県		沖縄県	
茨城県	2/2	富山県		兵庫県		愛媛県		無回答他	1/-
栃木県		石川県	1/1	奈良県		高知県		合 計	27/10
群馬県	1/-	福井県		和歌山県		福岡県	1/-		

9 プログラムの構成・得られた成果

<基礎コース>

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
12月10日 12:45~12:55	(1)開会 挨拶	NWEC理事長 内海房子	
12:55~13:00	(2)オリエンテーション		
13:00~14:00	(3)女性アーカイブ概論 女性に関わる原資料及び組織の役割とその可能性について学ぶ。	立教大学共生社会研究センター学術調査員 平野泉	女性アーカイブズの意義や役割など、基礎的な事項について情報を提供した。
14:10~15:20	(4)アーカイブと著作権 著作権の基礎知識や、デジタルアーカイブ構築時に役立つポイントについて学ぶ。	のぞみ総合法律事務所 弁護士 竹内千春	著作権に関わる基礎的な知識とともに、最近の動向や将来の見通し等の解説によって、業務にあたって留意すべき点を具体的に確認できた。
15:40~17:00	(5)アーカイブの実践 アーカイブ機関における実践事例について学ぶ。 1)レファレンスの実例 ～村岡花子母校の史料室として 2)資料公開の例 ～展示・冊子刊行・データベース	1) 東洋英和女学院史料室 酒井ふみよ 2) 聖路加国際大学学術情報センター大学史編纂・資料室 新沼久美	講師の所属組織におけるアーカイブ展示や保存の事業を詳細な事例とともに紹介することで、参加者自身が担当するアーカイブをどのように活用していくかを考える機会となった。紹介されたそれぞれの事業も、周知によって発展の可能性が広がった。
17:10~17:50	(6) アーカイブの広報	エル・ライブラリー (大阪産業労働資料館) 館長 谷合佳代子	組織の存続には積極的な広報が欠かせないことを講師自らの豊富な体験談とともに紹介することで、参加者各自のモチベーションアップにつながった。
18:05~18:35	(7) 女性教育情報センター、女性アーカイブセンター見学(希望者のみ)		アーカイブ資料の保存・提供の現場を見て、職場で活かせる点や今後のアーカイブ運営に役に立つことを参加者各自の視点で学んだ。
19:30~20:30	(8) 情報交換会(希望者のみ) 参加者相互の情報交換やネットワークづくりの場を提供する。		講師やNWEC職員もまじえて情報交換を行い、幅広く交流する機会となった。
12月11日 8:45~9:45	(9)アーカイブの制作 実践事例から、アーカイブ作成の必要性や制作のプロセスを学ぶ。	(株)NTTデータ第三公共システム事業部 大場厚志	デジタルアーカイブ作成の最新過程を、博物館や美術館等の協力を視野に入れて紹介することで、参加者の所属機関等における資料の活用方法を、広がりをもって具体的に考える契機となった。

9:55～11:05	(10)資料の保存・管理方法（フィルム・映像編） フィルム・映像の保存について、基礎的な知識と具体的な方法を学ぶ。	東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員 岡田秀則	フィルムという素材の特性や、デジタル化保存の将来的な問題点を取り上げた講義によって、アーカイブの長期的保存に絶対的な正解がないこと、持続的な取組が必要であることを学んだ。
11:15～12:25	(10)資料の保存・管理方法（紙資料編） 紙資料の保存について、基礎的な知識と具体的な方法を学ぶ。	日本図書館協会資料保存委員会委員長 眞野節雄	保存・管理にあたって必要な用具や修復に必要な資料の事例について、実物に触れながら詳細な知識を得ることができた。個別の質問や解説の要望にもこたえ、参加者が抱える問題を解消する手助けとなった。
12:25～12:30	(11)閉会		

<実技コース>

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
12月11日 14:00～14:15	(1)開会 オリエンテーション		
14:15～17:00	(2)アーカイブ展示の手法 資料展示のポイントや展示スペースデザインなどについて、ワークショップや事例紹介を通じて学ぶ。	(株)乃村工藝社CC事業本部クリエイティブ局 日本展示学会理事 亀山裕市	前半の講義で基礎的なポイントを学び、後半はNWE Cでの今後の展示企画を素材とした実践的なワークショップを展開することで、より深い理解につなげた。
12月12日 9:00～12:00 13:00～15:00	(3)紙資料の修復関連実習 実技を通して紙資料の保存・修復方法の基礎を学ぶ。	日本図書館協会資料保存委員会委員長・委員 眞野節雄・佐々木紫乃	修復の方法は多種多様にとたるため、すべてを実践することは難しいが、何ができるのかを認識することができた。実習にあたっては、参加者全員が実技を行い、用意されたすべての課題を完成させた。
15:00～15:05	(4)閉会		

10 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

毎年参加者から希望の多い「資料保存方法」の講義を実施した。前回とは専門分野・傾向の異なる講師を迎え、それぞれ最新のトピックスを取り入れて過去の講義との差別化を図った。日程全体の流れは、理論的・概念的な内容から徐々に具体的な内容へと移り、知識や経験の少ない初心者が理解しやすいように配慮した。「実技コース」の内容も過去のアンケート結果を反映させ、昨年度に好評だった「資料の展示」及び「資料の修復」で構成した。参加者の意向や担当業務を踏まえて、より個人の実務に即した内容となるよう講師と打ち合わせのうえ調整した。また、参加者同士の交流を支援するための情報交換会を設けた。

11 プログラム全体で得られた知見

参加者アンケートでは、「基礎コース」「実技コース」ともに全体の満足度・有用度が98%以上とな

り、研修内容は高く評価された。質疑応答も活発に行われ、女性アーカイブ担当者が現場で生かせる基礎的な知識を得、疑問を解決するための機会を提供できた。また、「基礎コース」では過去の研修参加者を講師に招き、アーカイブ実践の報告を行った。参加者が研修で得たことを活用してアーカイブを構築し、それを研修においてフィードバックするというつながりを持つことができた。

1.2 プログラムの成果

- (1) 参加者の全体の満足度について (アンケート回答者25名)
- | | | | | | |
|---------|--------|--------|-------|----|--------|
| 「基礎コース」 | 100.0% | (非常に満足 | 76.0% | 満足 | 24.0%) |
| 「実技コース」 | 100.0% | (非常に満足 | 77.8% | 満足 | 22.2%) |
- (2) 参加者のプログラムの有用度について (アンケート回答者9名)
- | | | | | | |
|---------|--------|--------|-------|----|--------|
| 「基礎コース」 | 98.7% | (非常に有用 | 75.8% | 有用 | 22.9%) |
| 「実技コース」 | 100.0% | (非常に有用 | 72.2% | 有用 | 27.8%) |

1.3 今後の課題及び展望

「基礎コース」+「実技コース」として継続し、全国の女性アーカイブ実務者が学ぶ機会を担保する。「基礎コース」では、さらなる実例の紹介を求める声が複数の参加者から寄せられたため、概論の講座枠を保持しつつ、新しいテーマを取り入れる可能性も探る。「実技コース」には参加者から定員増加の希望が寄せられたが、講師が現場で直接指導可能な人数には限りがあるため、過去3回の経験を踏まえた上で、構成の見直しや参加人数の再検討も視野に入れる。

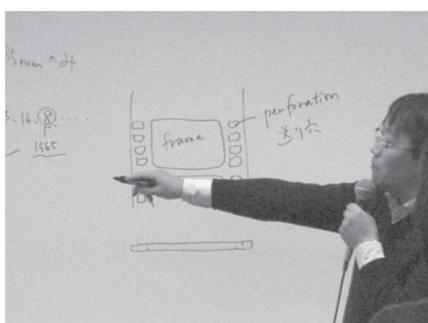
今後は、全国の女性アーカイブの構築支援や連携を目指し、広報をより拡張して本事業の周知に努める。



「アーカイブと著作権」



「女性教育情報センター、女性アーカイブセンター見学」



「資料の保存・管理方法 (フィルム・映像編)」



「アーカイブ展示の手法」



「紙資料の修復関連実習」

8 女性関連施設相談員研修

- 1 趣 旨 女性関連施設の相談員を対象に、女性のエンパワーメント支援と女性に対する暴力や貧困などの喫緊の課題解決を目指して、相談員への理解の深化や必要な知識・技能習得、関係機関との連携促進を図る。複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談員の育成と業務の質の向上に向けた専門的・実践的研修とする。
- 2 主 催 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 3 会 場 NWE C
- 4 期 日 平成27年2月4日（水）～ 2月6日（金） 2泊3日
- 5 対 象 公私立の女性会館・女性センター等の女性関連施設において、女性の悩みに関する相談業務に携わっている相談員
- 6 参加者 81名

7 都道府県別参加者数

都道府県	人 数								
北海道		埼玉県	4	岐阜県		鳥取県	1	佐賀県	1
青森県		千葉県	2	静岡県	5	島根県	1	長崎県	1
岩手県	1	東京都	3	愛知県	7	岡山県	2	熊本県	
宮城県	1	神奈川県	1	三重県		広島県	1	大分県	5
秋田県		山梨県	1	滋賀県		山口県	1	宮崎県	4
山形県		新潟県	4	京都府		徳島県	1	鹿児島県	3
福島県	5	長野県	3	大阪府	3	香川県	1	沖縄県	
茨城県	2	富山県		兵庫県	1	愛媛県	2	無回答他	
栃木県	5	石川県	1	奈良県		高知県	1	合 計	81
群馬県	2	福井県	2	和歌山県		福岡県	3		

8 プログラムデザイン

別紙添付

9 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
2月4日 13:30 ～13:45	(1) 開会 ①主催者あいさつ ②プログラム説明	①内海 房子（NWE C理事長） ②引間 紀江（NWE C事業課専門職員）	
13:45 ～14:45	(2) グループ討議 参加者同士の自己紹介と研修に対するニーズや課題などについて、グループワークと討議で整理し、共有する。	進行： 引間 紀江（NWE C事業課専門職員）	参加者自身が抱えている日頃の相談業務での悩みや疑問点を小グループで共有し、課題を共有することができた。

15:00 ～17:00	(3) 講義「女性関連施設における相談業務の意義と役割」 女性関連施設における相談業務の意義と役割について、女性が抱える問題解決と女性のエンパワーメントの視点から学ぶ。	講師： 戒能 民江（お茶の水女子大学名誉教授）	「複合的な生活困難」特に障がい者、若年層、外国籍など、制度の狭間にある女性たちの背景にある社会経済的要因について学ぶとともに、「切れ目のない支援」「男女共同参画の視点の明確化」などの今後の支援の方向性が示された。
	オプションプログラム（希望者のみ）情報交換会		
2月5日 9:00～9:40	(4) 情報提供「相談事業に役立つ国立女性教育会館の情報機能」 女性情報ポータルWinet（ウィネット）の活用方法の説明と女性教育情報センターの見学により、相談事業に役立つ情報の活用について情報提供する。	NWE C情報課	参加者は3グループに分かれ、女性教育情報センター、女性アーカイブセンター等を見学した。Winetの活用方法では実際の画面操作を見ながら説明を受けることで、業務に役立つ情報収集の方法のヒントを得た。
10:00 ～12:00	(5) 講義「二次受傷の予防と対策」 二次受傷がもたらす要因や症状等について正しく理解し、予防と対策、回復の方法を学ぶ。	講師： 木村 弓子（武蔵野大学心理臨床センター主任カウンセラー）	援助者自身の傷つきである二次受傷の症状の現れ方、影響及び要因、周囲のサポートを得るなどの対処法を学んだ。
13:30 ～14:15	(6) 情報提供「ストーカークの概要と被害防止のポイント」 ストーカー事案の概要と被害防止のポイントについて情報を得る。	講師： 及川 直美（埼玉県警察本部生活安全部子ども女性安全対策課課長補佐）	ストーカー事案の検挙及び認知件数、警察の対応における基本姿勢、保護対策の具体的な内容の解説や事例の報告を受け、被害防止に向けた具体的な行動と支援のポイントを学んだ。
14:30 ～17:00	(7) 分科会1 「当事者の課題別ケース検討」 課題を抱える当事者に対して実際にどのように支援をしたらよいか、課題別コースに分かれて、講義とワークショップで学ぶ。 A：人間関係に関する相談者への支援 身近な人間関係に関する相談から見えてくる背景や課題から、人間関係を円滑に行えるようにするための支援について考える。 B：配偶者等からの暴力被害者への支援 配偶者等からの暴力被害について、その心理的背景や構造を踏まえ、自立支援に向けた実際の対応の留意点について学ぶ。	講師： 海渡 捷子（フェミニストセラピィ“なかま”代表） 講師： 松本 和子（NPO法人女性ネットSaya-Saya 代表理事）	A 相談の多くは夫婦や親子、仕事関係など人間関係に集約されることから、様々な課題を抱える事例を想定し、課題を見きわめどう支援するか、小グループで検討を行った。 B 暴力の種類と構造、被害者の心的プロセス、子どもへの影響、行政と民間の連携について理解を深め、事例を用いたケース検討を通じて二次加害を防ぐ対応のポイントを学んだ。

	<p>C：若年層へのデートDV防止啓発</p> <p>デートDVに関する相談や防止のための啓発活動について理解を深めるとともに、若者世代に対してどうアプローチをしたらよいかを探る。</p>	<p>講師： 西山さつき（NPO法人レジリエンス副代表理事）</p>	<p>C デートDVはDV防止法が適用されず、被害者の発達段階にも重大な影響を与えるなどの問題点が指摘された。また大学・行政と共同開発のデートDV防止啓発のためのスマートフォン用アプリの紹介・情報提供もあった。</p>
19:00 ～21:00	<p>オプションプログラム（希望者のみ）ドラムサークル体験</p> <p>アフリカやブラジルなど、世界の太鼓や打楽器を即興的に叩きながら、楽しい打楽器アンサンブルを体験する。</p>	<p>講師： 清水 和美（ドラムサークルぐんま代表） 鳥川 仁美（Otonowa 代表）</p>	<p>お互いに開放的な雰囲気の中、参加者は積極的に演奏に参加し、音楽を用いたグループアプローチの技法とその効果について体験的に学んだ。</p>
2月6日 9:00 ～11:00	<p>（8）分科会2「新たなつながり方への対応」</p> <p>個人と社会のつながり方から生まれる現代的な課題に対応するため、講義とワークを通してテーマに対する理解を深め、相談業務に役立つヒントを探る。</p> <p>A：ステップファミリーへの支援</p> <p>ステップファミリー（子連れ再婚家族）における親子の課題把握や、実際の支援に役立つ情報を得る。</p> <p>B：災害とジェンダー</p> <p>災害時における男女の被災状況の違いや女性が直面しがちな困難、特に安全や暴力防止の課題を学ぶ。</p> <p>C：若年女性への支援</p> <p>生きづらさを抱える若年女性への支援の現場から見えてくる、貧困や孤独などの社会的な課題とのつながりを探る。</p>	<p>講師： 緒倉 珠巳（SAJ（stepfamily association of JAPAN）代表</p> <p>講師： 池田 恵子（静岡大学教育学部教授）</p> <p>講師： 山口 恵子（東京学芸大学教育学部准教授）</p>	<p>A 家族関係の多様性、関係性などの基礎理解、当事者支援としてのサポートグループに関する情報などを得た。グループワークにより子どもの心的状況を体験的に理解した。</p> <p>B 性別・立場別の被害の違いを理解し、避難所における暴力など状況別の課題と必要な安全対策を小グループで検討した。</p> <p>C 若年女性の貧困の状況を示す統計データや社会的課題に関する講義を基に、今後の課題及び必要な対応について、小グループで共有し整理した。</p>
11:20 ～12:20	<p>（9）全体会</p> <p>現代的な課題を解決に導く相談業務のあり方、相談者のエンパワメントにつながる支援について意見交換と共有を行い、これからの相談業務の意義と役割を考える。</p>	<p>報告者： 分科会2「新たなつながり方への対応」 講師進行： 引間 紀江（NWEC 事業課専門職員）</p>	<p>分科会2の報告から他の分科会の情報を得て、参加者全体で、相談業務における社会資源の活用と相談者自身のエンパワメントについての課題意識を共有することができた。</p>
12:20 ～12:30	<p>閉会・アンケート記入</p>		

10 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

- ・男女共同参画の視点を持ち、女性関連施設等における相談業務における実態把握・課題分析を行い、実践に役立つ手法を知り、実践力に結びつける。
- ・他部署・他機関との連携の重要性と女性の自立支援方策を考える。
- ・女性関連施設、配偶者暴力相談支援センター、民間団体等、様々な立場の相談員同士の情報交換、ネットワークづくりを支援する。
- ・配偶者等からの暴力、女性の貧困や経済的自立など、喫緊の課題に関する知識・理解の深化を図り、そこから派生する課題の解決について学ぶ。
- ・相談員自身のメンタルヘルスの向上に役立つプログラムを取り入れる。
- ・事例に基づいた参加型学習の充実により、具体的な場面での実践力（相談技能）の向上をめざす。
- ・例年、先着順で申込みを受け付けているが、応募者数が定員を大きく上回り、申込期限終了を待たずに締め切る状況であった。今回は初回参加者を優先するため、申込開始時期を2段階にした。

11 プログラム全体で得られた知見

- ・地域での男女共同参画推進と女性のエンパワーメント支援を目指し、複雑・多様化する女性の悩みに対応可能な相談業務の質の向上を図ることができた。また今後の新たな相談事業の展開と相談者に対するエンパワーメントに向けての社会資源活用の重要性を共有することができた。
- ・全国各地からの参加により、幅広い地域間での情報共有やネットワークづくりのきっかけを提供できた。
- ・個人の問題とされる悩みであっても、地域や社会の課題とつながっており、また社会全体の問題がそれぞれ個人の生活や人間関係に影響を与えることを意識することが、支援者の視点に必要な点との共通認識を得た。

12 プログラムの成果

- (1) 参加者の全体の満足度について
96.2%（非常に満足50.6% 満足45.6%）
- (2) 参加者のプログラムの有用度について
98.7%（非常に有用67.1% 有用31.6%）

13 今後の課題及び展望

- ・本研修の対象である相談実務担当者は非常勤職であることが多いため、2月の実施では、その研修成果が十分に活用されないまま年度末で退職となることも少なくないと考えられる。年度当初の早い時期に実施するなど、開催時期の検討が必要である。
- ・各都道府県や女性センター、民間団体でも支援者育成のプログラムや講座を開催しているが、女性関連施設における相談業務には、ネット暴力や女性の貧困、男性相談など、一般的な心理相談やキャリア相談だけでは抱え切れない複合的な範囲・対象に対応することもある。今後は相談実務担当者のスキルアップにとどまらず、管理職向け研修などにおいても、組織体制や関係法の理解など相談業務上の課題を取り上げることも必要であると考えられる。



講義「女性関連施設における相談業務の意義と役割」



情報提供「相談事業に役立つ国立女性教育会館の情報機能」



オプションプログラム「ドラムサークル体験」



分科会2「新たなつながりへの対応」
B「災害とジェンダー」



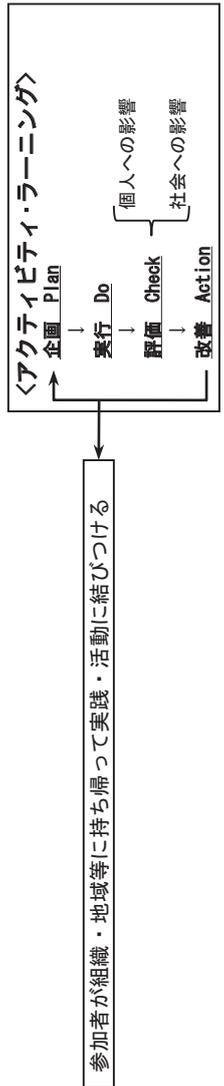
全体会

平成26年度「女性関連施設相談員研修」プログラムデザイン

【プログラムの特徴】

- ① 男女共同参画の視点を持ち、女性関連施設等における相談業務における実態把握、課題分析を行い、実践に役立つ手法を知り、実践力に結びつける。
- ② 講義、ワークショップ、全体会を通じて、他部署・他機関との連携の重要性と女性の自立支援方を考える。
- ③ 女性関連施設、配偶者暴力相談支援センター、民間団体等の相談員の情報交換、ネットワークづくりを支援する。
- ④ 配偶者からの暴力、女性の貧困や経済的自立など、喫緊の課題に関する知識・理解の深化を図り、そこから派生する課題の解決について学ぶ。
- ⑤ 事例に基づいた参加型学習を充実させることにより、具体的な場面での実践力(相談技能)の向上を図る。

対象	公私立の女性会館・女性センター等の女性関連施設において、女性の悩みに関する相談業務に携わっている相談員								
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で男女共同参画を推進するために、女性のエンパワーメント支援を目指す女性の悩みに対応可能な相談業務の質の向上を図る。 ・配偶者等からの暴力、女性の貧困や経済的自立など喫緊の課題に関する様々な相談への対応を目指し必要な知識の取得と技術の向上を図る。 ・相談からうかがえる、地域女性の実情・課題や解決の手立て等について相談担当者相互の情報交換と関係づくりを支援する。 								
目標	<h3>実態・課題の把握、分析</h3>								
内容	グループ討議 ○研修に対するニーズや課題について、整理と共有を行う	講義 「女性関連施設における相談業務の意義と役割」 ○女性関連施設における相談業務の意義と役割を、女性が抱える問題解決と女性のエンパワーメントの観点から学ぶ	情報提供 「相談事業に役立つ国立女性教育会館の情報機能」 ○女性情報ポータル、説明及び女性教育情報センター等の見学など、相談事業に役立つ情報の活用	情報提供 「ストーリーカードの概要と被害防止のポイント」 ○ストーリーカードの概要と被害防止のポイントについて情報を得る	情報交換会 「二次受傷の予防と対策」 ○二次受傷のもらされる要因や症状について理解し、予防と対策、回復の方法を学ぶ。 オプション ドラムサークル 体験	分科会1 「当事者の課題別ケース検討」 A: 人間関係に関する相談者への支援 B: 配偶者等からの暴力被害者への支援 C: 若年層への支援 ○課題を抱える当事者に対して実際にどのような支援をしていったらよいのか学ぶ	分科会2 「新しいつながり方への対応」 A: ステップアップファミリー B: 災害とジェンダー C: 若年女性への支援 ○個人と社会のつながり方から生まれる現代的な課題に対応する理解を深め、相談業務に役立つヒントを探る	全体会 ○これからの相談業務の意義と役割を考える	
方法	討議	講義	見学・説明	情報提供	講義・ワークショップ	講義・ワークショップ	講義・ワークショップ	講義・ワークショップ	まとめ



9 女子大学生キャリア形成セミナー

1 趣 旨 女性を取り巻く状況は、かつてよりはるかに改善されてきたが、男女平等は未だに実現されていない。働く女性及び担当者レベルでの女性リーダーは増えてきたが、組織における意思決定に関わる女性の割合は極めて低いままである。しかし、男女共同参画社会を実現するためには、女性が職業活動に参加するだけでなく、様々な組織において管理的地位に就き、その意思決定に関わるなど、組織活動へ参画することが必要である。

そこで、自らのキャリアを模索する女子大学生を対象に、

①仕事をもち、自らの人生の選択権をもつことが豊かな人生設計に重要であること
(自主自立)

②女性の人生設計に関わる様々な出来事をあらかじめ知っておくこと
(ライフ・プランニング)

③キャリアの構築が単に個人の自己実現にとどまらず、よりよい社会づくりにつながるという視点を持つこと
(社会を変える・支える志)

の3つを学ぶ機会を提供することで、将来、社会や組織を支える女性リーダーを育成し、男女共同参画の推進を図るものとする。

2 主 催 独立行政法人国立女性教育会館 (NWE C)

3 共 催 リーダーシップ111

※リーダーシップ111 (ワンワンワン) は、各分野を代表する女性たちが、よりよい社会の実現を目指して、助け合い、学び合い、情報交換をするネットワークとして、1994年に設立された、グローバル社会に向けて提言を発信し、自らも実践することをモットーとしている団体。

4 会 場 NWE C

5 期 日 平成27年2月21日 (土) ~ 2月22日 (日) 1泊2日

6 対 象 女子大学生

7 参 加 者 19名

8 都道府県参加者数

都道府県	人 数								
北海道		埼玉県	1	岐阜県		鳥取県		佐賀県	
青森県		千葉県	1	静岡県		島根県		長崎県	
岩手県		東京都	9	愛知県		岡山県		熊本県	
宮城県		神奈川県	3	三重県		広島県		大分県	
秋田県		山梨県	3	滋賀県		山口県		宮崎県	
山形県		新潟県		京都府		徳島県		鹿児島県	
福島県		長野県		大阪府		香川県		沖縄県	
茨城県	1	富山県		兵庫県		愛媛県		無回答他	
栃木県	1	石川県		奈良県		高知県		合 計	19
群馬県		福井県		和歌山県		福岡県			

9 プログラムデザイン

別紙添付

10 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
2月21日 13:45～13:55	(1) 開会行事 ①挨拶 ②趣旨説明	内海 房子(NWEC理事長) 千装 将志(NWEC事業課専門職員)	
14:00～14:45	(2) 講義 「働く女性を取り巻く環境～国際データ比較を通して～」 統計データを用いた国際比較を通じて、女性の活躍と男女共同参画の推進を解説する。	中野 洋恵(NWEC研究国際室長)	様々な意識調査や諸外国との比較データをもとに、我が国における男女共同参画の現状や女性が働く上で直面する課題等について、諸外国との比較を通して考える講義を行った。参加者にとって、社会に出てから直面する男女共同参画に関する我が国の現状について、データを通じて具体的に知る機会となった。
15:00～17:00	(3) パネルディスカッション 「先輩の声を聞く」 十分に人生経験を積んだパネリストの話から、企業等で働く女性の現状や課題、女性の人生設計に関わる様々な出来事について知ることにより、キャリアの構築が社会の変革につながる視点をもつ機会とする。	●パネリスト 平野 こそえ(EMGマーケティング合同会社人事総務統括部総務部アドバイザー) 横手 仁美(スマートインサイト株式会社グローバルアドミニストレーショングループゼネラルマネージャー) 島 直子(NWEC研究国際室研究員) ●コーディネーター 猪俣由美子(エンパワーマネジメント研究所代表兼人材育成コンサルタント)	多彩な経験をもつ3名のパネリストが登壇し、社会人となってから今日までの歩み、働く上での20歳代の過ごし方、またキャリアを考える上で大切な視点などについて、アドバイスを交えつつ語るパネルディスカッションを行った。パネリストやコーディネーターの話から、参加者は具体的な「働く女性」の姿を見ることができた。

17:15～18:15	<p>(4) グループワーク① パネルディスカッションの感想や自己紹介も含めたグループワークを行い、参加者同士の交流を図る。</p>	引間 紀江(NWEC事業課専門職員)	自己紹介を通じた仲間づくり、パネルディスカッションの感想を共有して自分自身の今の気持ち、参加者同士の共通点や課題等を知る機会とするグループワークを行った。話し合いでは、参加者同士がすぐに打ち解け、和やかな雰囲気の中にも発言には自分の将来に対する意識の高さがうかがえた。
19:30～21:00	<p>(5) パネリスト等との交流会 参加者がパネリスト等と個人的に会話することで、女性のキャリア形成に関する理解をさらに深めるとともに、参加者同士の情報交換を通じて、自信のネットワークを広げる機会とする。</p>		パネルディスカッションの質疑応答の時間では聞けなかったことなど、参加者がパネリスト等と個人的に会話することで女性のキャリア形成に関する理解をさらに深めるとともに、参加者同士の情報交換を通じて、お互いのネットワークを広げる機会とする交流会を行った。各テーブルでは、パネリストをはじめとする先輩たちに熱心に質問したり、夜遅くまでお互いに意見交換する参加者の姿が見られた。
2月22日 9:00～ 9:45	<p>(6) 情報提供 「女性情報ポータルWinetの紹介と女性教育情報センター見学」 女性教育情報センターの見学等を通じて、女性のキャリア形成に関する資料や情報の探し方を学ぶ。</p>	森 未知(NWEC情報課専門職員)	男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館である女性教育情報センターの見学と、女性情報ポータルWinetを使った情報検索の方法について情報提供を行った。参加者は12万冊を超える蔵書や膨大なデータベースから簡単に情報が取り出せるしぐみに驚くとともに、レポートや卒業論文に利用したいとの声も見られた。
10:00～12:00	<p>(7) グループワーク② 前日のプログラムを踏まえ、今後のキャリアについて自分自身の思いや考えを整理・共有し、意見交換することで自らの視野を広げる。</p>	引間 紀江(NWEC事業課専門職員)	「ワールド・カフェ」の手法を用いて「あなたが社会の中で働く上で、大事にしたいことは何ですか？」をテーマにグループワークを行った。活発に意見交換が行われる中、お互いの考えを共有するとともに、新たな気づきの見られる時間となった。

13:00～15:00	(8) グループワーク③ 自分自身のキャリアデザインを行い、参加者同士のキャリアデザインを共有するとともに、その実現に向けて翌日から具体的に行動できる方策について検討する。	引間 紀江(NWEC事業課専門職員)	グループワークでは、進みたい進路や好きなこと、社会の中でどう働きたいかなどについて記入するキャリアシートの作成を行った。その後、シートに基づく話し合いやパネリスト等の助言から、明日から始めたい具体的な努力目標について、「読みかけの本を読む」「4月に受ける試験の申し込みをする」など、参加者一人一人から宣言された。
15:00～15:20	(9) 閉会行事 ①修了証授与 ②挨拶	内海 房子(NWEC理事長) 櫻田今日子(NWEC事業課長)	
16:00～17:00	(10) 懇親会 (希望者のみ参加) 研修を締めくくるとともに、今後も参加者同士がお互いに横のつながりをもって、将来を実現していけるようにする。		

1.1 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

- ・前回参加者から企画委員を募り、プログラムの内容、参加者募集の方法などについて提案を受けた。
- ・参加者募集の範囲を前回から拡大した。広報先も大学の就職・キャリア支援課だけでなく、附属図書館などに拡大した。
- ・これまでNWECが実施した調査研究の成果やプログラム開発の実績を活用し、「どうしたら就職できるか」といったいわゆる就活セミナーとは違った「仕事を持ってから先の自分」という視点でプログラムを構成した。
- ・前回好評だったパネルディスカッション「先輩の声を聞く」の時間を増やし、パネリストと参加者が直接話をする時間も十分に確保した。
- ・グループワークの時間を十分確保し、キャリアに対するお互いの意見交換が充実するようにした。
- ・交流会や懇親会など、パネリスト等と参加者または参加者同士など、インフォーマルな関係を築ける時間を設定した。

1.2 プログラム全体で得られた知見

- ・プログラム全体を通して、参加者の自分の将来に対する高い意識がところどころに見られた。
- ・参加者のプログラムに対する満足度は全員が「非常に満足した」と評価している。
- ・グループワーク等で同世代の考えを聞くことにより、新たな自分の発見につながった。
- ・参加人数は少ないが、少人数ゆえに濃密な話し合いとなり、参加者同士の交流が深まった。
- ・参加者同士だけの意見交換ではなく、パネリスト等の意見が加わることで、参加者の視野を広げることにつながった。

1.3 プログラムの成果

- (1) 参加者の全体の満足度について
100.0% (非常に満足100.0%)

14 今後の課題及び展望

- ・応募者は前回を上回ったが、募集の広報に関する費用対効果などでは課題が残る。
- ・グループワークや交流会など、参加者同士が直接コミュニケーションをとる場面をさらに充実させる。
- ・女性教育情報センターの見学だけでなく、蔵書等を自由に閲覧する時間を確保する。
- ・参加経験者が今後の事業展開に参画できるようなしくみを構築する。
- ・パネリストの人選、リーダーシップ111の協力について、今後も連携をとっていく。

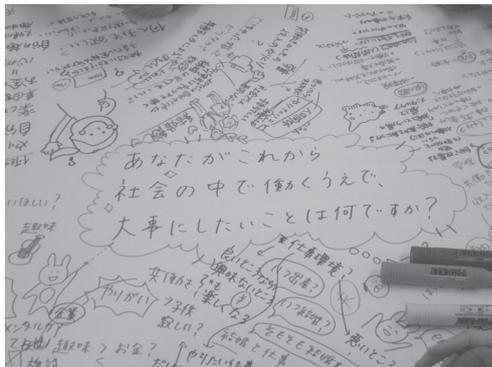
(写真とキャプション)



中野研究国際室長の講義



3名のパネリストの皆さん
(右から平野氏、横手氏、島研究員)



グループワーク・自分の意見を模造紙に書く



グループワーク・先輩からの助言



内海理事長から修了証の授与

平成26年度「女子大学生キャリア形成セミナー」プログラムデザイン(12月17日現在)

【プログラムの特徴】

- ① 企業等の組織で働いている女性リーダーから直に体験談を聞き、自己実現や女性が働くことによる社会の変革の可能性や課題を知る。
- ② 男女共同参画の視点やキャリアについて知り、女性のキャリア形成の意義や活躍の可能性について知る。
- ③ 自分自身のライフデザイン・キャリアデザインを考え、翌日から具体的に行動できる方策を検討する。

<p>対 象 女子大学生 30名</p>				
<p>目 的</p>	<p>① 仕事をもち、自らの人生の選択権をもつことが豊かな人生設計に重要であることを知る。(自主自立)</p> <p>② 女性の人生設計に関わる出来事をあらかじめ知る。(ライフ・プランニング)</p> <p>③ キャリアの構築が単に個人の自己実現にとどまらず、社会の変革につながるという視点をもつ。(社会を変える・支える志)</p>			
<p>目 標</p>	<p>男女共同参画推進の視点</p>	<p>実態・課題の把握と分析</p>	<p>課題解決のための分析・課題解決に向けた実践力</p>	
<p>内 容 と 方 法</p>	<p>○ 男女共同参画の視点をもったキャリア形成について理解する</p> <p>○ 女性がキャリアを形成する意義と可能性を知る</p> <p>・講義</p> <p>・パネルディスカッション</p>	<p>○ 仕事をもち、自らの人生の選択権をもつことが豊かな人生設計に重要であることを知る</p> <p>○ 女性の人生設計に関わる出来事をあらかじめ知る</p> <p>○ キャリアの構築が社会の変革につながるという視点をもつ</p> <p>・講義</p> <p>・パネルディスカッション</p>	<p>○ 参加者同士のネットワークづくりや情報交換を行う</p> <p>・パネルディスカッション</p> <p>・交流会</p> <p>・グループワーク①</p> <p>・懇親会(希望者)</p>	<p>○ 企業等で働いている女性の現状を知るとともに課題を把握・分析する</p> <p>・パネルディスカッション</p> <p>・交流会</p> <p>・グループワーク②</p>
	<p>○ 男女共同参画についての基礎知識を身に付ける</p> <p>・女性教育情報センター見学</p>		<p>○ 自身のキャリア形成を考える上での課題を整理・共有する</p> <p>○ 自身のライフプランニング・キャリアデザインを行う</p> <p>○ 参加者同士のキャリアプランニングを共有する</p> <p>○ 翌日から具体的に行動できる方策を検討する</p> <p>・グループワーク③</p>	

II 調査研究事業

- 1 0 大学等における男女共同参画に関する調査研究
- 1 1 男女共同参画統計に関する調査研究
- 1 2 女性関連施設に関する調査研究
- 1 3 若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究

10 大学等における男女共同参画に関する調査研究

1 研究目的

大学等の研究機関における女性研究者支援を促進するため、課題を明らかにすることを目的とした調査研究を実施するとともに、支援マニュアルを作成する。2年計画の2年次は、国公私立大学の男女共同参画推進機関へ追加的ヒアリング調査を実施し、男女共同参画を推進する大学に役立つガイドブックを作成する。

2 研究課題

- (1) 大学等の研究機関における女性研究者支援並びに男女共同参画推進のための取組の内容・現状・課題・成果を分析し、ガイドブック構成を検討する。
- (2) ガイドブックの構成にあたって、設置主体（国公私立）・大学規模・専門分野（総合大学/単科大学、医療・看護系、教員養成系など）・取組段階等の別を考慮した効果的な記述について検討する。
- (3) (1)(2)を進めるにあたり、必要に応じて大学のヒアリング調査を追加的に行う。

3 研究計画

- (1) 1年次に実施したヒアリング調査結果をもとに作成した「とりまとめ資料」を踏まえ、ガイドブックの構成や盛り込む内容、各項目で取り上げる事例及び取り上げ方等を検討委員会にて検討する。
- (2) ガイドブック作成にあたり、必要なデータ等の情報収集や、追加ヒアリング調査を行う。
- (3) 取組を記載する大学へ内容を照会し、必要に応じて加筆修正を行う。なお、各大学との連絡調整は、座長と相談の上、国立女性教育会館職員が行う。
- (4) 検討委員会にて最終原稿の確認、調整を行い、ガイドブックを作成する。

4 研究体制

外部有識者と館内メンバーによる研究協力者会議を組織し、調査研究を実施する。

<研究協力委員>

菊川 律子	放送大学特任教授・福岡学習センター所長/九州大学前理事・男女共同参画推進室長
倉田祥一朗	東北大学大学院薬学研究科教授
巽 真理子	大阪府立大学女性研究者支援センター・コーディネーター
谷 俊子	東海大学ワーク・ライフ・バランス推進室特任助教
野依 智子	福岡女子大学教授・国立女性教育会館研究国際室客員研究員
村松 泰子	公益財団法人日本女性学習財団理事長、東京学芸大学名誉教授・前学長

<国立女性教育会館>

石崎 裕子	事業課専門職員
千装 将志	事業課専門職員
中野 洋恵	研究国際室長
飯島 絵理	研究国際室客員研究員
渡辺 美穂	研究国際室研究員

5 研究期間 平成26年4月～平成27年3月

6 年度実績概要

- (1) 調査研究経過

- ①検討委員会を開催し、1年次に実施したヒアリング調査結果をもとに作成した「とりまとめ資料」を踏まえ、ガイドブックの構成や盛り込む内容、各項目で取り上げる事例及び取り上げ方を検討した。
- ②ガイドブック作成にあたり、追加ヒアリング調査を実施し、必要なデータ等の情報収集を進めた。
- ③基本編と実践編に分けたガイドブックの構成を検討委員会において決定し、執筆分担に応じて原稿を作成。検討委員以外に文部科学省、学術会議等の関係部署・関係者に原稿を依頼。
- ④取組を記載する大学へ内容を照会し、必要に応じて加筆修正する。
- ⑤検討委員会にて最終原稿の確認、調整を行い、ガイドブック原稿をまとめ、市販図書として刊行。

(2) 得られた知見

- ①大学における男女共同を進めるための取組として、○女性研究者を増やすための支援(採用制度、昇進・評価、制度、次世代育成支援(大学院生・大学生対象、中高生対象))、○ワーク・ライフ・バランス支援と環境整備(勤務体制、育児・介護の支援・拡充、情報提供・ネットワーク、男性への支援(育児・介護・研究等)、意識啓発)に関する取組事例の具体的内容や工夫・課題等を明らかにした。
- ②推進体制として有効である、大学内の体制・組織作り、大学間のネットワークを活用した事例の具体的プロセスも明らかにした。

(3) 調査研究の活用

国立大学協会教育・研究委員会男女共同参画小委員会、会館主催事業「大学等における男女共同参画推進セミナー」等において、調査研究の中間報告を行った。

7 今後の課題・展望

調査研究の成果としてまとめたガイドブックの活用普及を図るため、主催事業等で積極的に広報を行う。調査研究としては、いったん区切りがつくが大学の取組は急速に進んでおり、今後の情報や資料収集等をどのように行っていくかが課題である。会館として、女性研究者支援等で助成を受けた大学の男女共同参画・女性研究者支援に係る情報収集(刊行資料等)や、「大学等における男女共同参画推進セミナー」の研修企画にガイドブック及びその作成で得られた知見を役立てていく必要がある。

1 1 男女共同参画統計に関する調査研究

1 研究目的

地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供のために、5年計画で男女共同参画統計に関する調査研究を実施している。

本年度は『男女共同参画統計データブック2015』を作成するとともに、ミニ統計集「日本の女性と男性」（2015年）を作成する。また「男女共同参画ニュースレター」を配信する。

2 研究課題

- (1) 『男女共同参画統計データブック2015』の作成
- (2) 「統計リーフレット」の作成
- (3) 「男女共同参画統計ニュースレター」の作成

3 研究体制

<執筆者>

天野 晴子	日本女子大学教授
伊藤 純	昭和女子大学准教授
伊藤 陽一	法政大学名誉教授
粕谷美砂子	昭和女子大学准教授
久保 桂子	千葉大学教育学部教授
斎藤 悦子	お茶の水女子大学准教授
杉橋やよい	金沢大学准教授
林 玲子	国立社会保障・人口問題研究所部長
藤原 千紗	法政大学准教授
水野谷武志	北海学園大学教授
宮園 久栄	東洋学園大学教授

<国立女性教育会館>

中野 洋恵	研究国際室長
飯島 絵理	研究国際室客員研究員
渡辺 美穂	研究国際室研究員
森 未知	情報課専門職員

4 年度実績概要

- (1) 『男女共同参画統計データブック2015』の作成
研究員、客員研究員が分担執筆した。
- (2) 「統計リーフレット」の作成
『男女共同参画統計データブック2015』で収集した最新データをもとにミニ統計集「日本の女性と男性」のデータを更新して統計リーフレット（A4判三つ折り、日本語版・英語版）を作成した。
- (3) 「男女共同参画統計ニュースレター」の作成
男女共同参画に関する国内外の動き、自治体の取組、データ解説などを発信する「男女共同参画統計ニュースレター」を年3回作成し配信。
会館講師、委員等への新規配信先を増やし、年度目標の1,800件を達成した。
- (4) 「大学等における男女共同参画に関する調査研究」において、統計データを活用した「データが語る大学の男女共同参画」を作成し、実践ガイドブック『大学における男女共同参画の推進』に掲載した。

(5) NWE C利用者を対象に、男女共同参画の理解を進めるための男女共同参画統計パネルを作成し、館内6か所に展示した。

5 実績を裏付けるデータ

女性関連施設、大学研究所・学会、研究者等

「男女共同参画統計ニュースレター」第17号 1,801件

6 今後の課題

毎年出される統計データも数多くあることから、3年ごとのデータブックの作成では最新のデータ提供に対応することが難しい。そこで新しいデータを迅速に更新できるホームページ上のデータ提供を検討することが必要である。

1 2 女性関連施設に関する調査研究

1 研究目的

女性関連施設の機能の充実・強化を図るため、指定管理、人材育成等新たな課題の実態把握と分析をテーマに5年計画で行う調査研究の4年次として、女性関連施設の女性関連施設の情報事業に関する実態調査を実施し、報告書を作成する。

2 研究課題

女性関連施設の現況を把握する。

3 研究計画

「女性関連施設データベース」の更新・新規登録調査を行い、Webで発信する。

4 研究体制

中野 洋恵 研究国際室長
引間 紀江 事業課専門職員
森 未知 情報課専門職員

5 研究期間

平成26年4月～平成27年3月

6 年度実績概要

(1) 実態調査の概要

「女性関連施設データベース」の更新・新規登録調査を行い、女性／男女共同参画センター、働く婦人の家の取り組む事業や組織形態を把握し、データベースに掲載した。

・対象施設：全国の女性／男女共同参画センター390施設に配布、回答数293施設（回答率75.1%）。働く婦人の家151施設に配布、回答数95施設（回答率62.9%）。

・データベース掲載項目

施設概要：運営形態、職員数、施設形態、指定管理者制度導入の有無、指定管理者名称、指定管理期間、開館時間、所有施設等。

実施事業：年度、事業分野、事業のねらい、具体的なプログラム・講師名・スケジュール等。

(2) 調査研究の活用

①参考資料の作成

平成25年度に実施した「女性関連施設の情報事業に関する調査」をさらに分析し、『NWE C 実践研究』第5号に「女性／男女共同参画センターにおける情報事業の活性化に向けて」として掲載し、全国の女性関連施設等に配布するとともにNWE Cのホームページに掲載し、成果の普及に努めた。

また、同調査を元に、委員が日本女性学習財団刊行の月刊『We learn』に「女性関連施設における情報相談」（2014年8月号、9月号）を執筆し、成果の普及に努めた。

②研修事業への反映

実践研究の内容を元に、全国女性会館協議会と日本女性学習財団共催の研修事業「情報事業担当者支援講座」において講義「女性／男女共同参画センターにおける情報事業の現況－NWE C 全国調査より」を行った。調査研究の成果及び参考資料は、平成27年度にNWE Cの主催事業や外部事業への講師派遣等において活用し、さらに積極的に成果普及を行う。

③データベースの活用

事業データは、他機関の研修事業における講師や研修プログラムの参考とされている。さらに広報し成果の普及を行う。

7 今後の課題・展望

ナショナルセンターとして、引き続き、地域の男女共同参画拠点である女性関連施設についての調査研究を実施する。調査対象については見直しを行う。

1 3 若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究

1 研究目的

生涯を見据えた早期からのキャリア形成支援を、男女共同参画の視点に立つて行うための方策を探ることを目的とした調査研究を実施する。2年計画の1年次は、若者を対象とした質問紙調査について検討する。

2 研究課題

- (1) 若年男女のキャリア形成に関する意識及び実態に関する先行研究を整理し、分析する。
- (2) (1)を踏まえて、質問紙調査のテーマ及び調査方法、調査項目について検討する。

3 研究計画

- (1) 質問紙調査のテーマ及び調査方法、調査項目について検討する。
- (2) 関連組織・機関等に、本調査研究の説明及び協力依頼を行う。
- (3) プリテストを行い、調査票を精査する。
- (4) 若年男女のキャリア形成に関する意識について理解を深めるため、若者を対象とするヒアリング調査を実施する。

4 研究体制

外部有識者と館内メンバーによる検討委員会を組織し、質問紙調査の実施方法について検討する。

<外部有識者>

安齋 徹	群馬県立女子大学准教授
小川 尚子	一般社団法人日本経済団体連合会政治社会本部主幹
大槻 奈巳	聖心女子大学教授
高見 具広	労働政策研究・研修機構研究員
永井 暁子	日本女子大学准教授

<国立女性教育会館>

島 直子	研究国際室研究員
中野 洋恵	研究国際室長
渡辺 美穂	研究国際室研究員

5 研究期間 平成26年4月～平成27年3月

6 年度実績概要

(1) 調査研究経過

①調査テーマの検討

関連領域の先行研究及び先行調査を整理し、分析した結果、平成27年度に「大学もしくは大学院を卒業後、民間企業の正規職についた男女（新卒者）を5年間追跡する調査」の「第1回調査」を実施することとなった。

②プリテスト

作成した調査票をもとに、Web アンケート調査（大学もしくは大学院を卒業後、民間企業の正規職につく入社1年目の男女99名対象）及びヒアリング調査（Web アンケート調査の回答者から、4名を選定）を行い、調査項目を精査した。

③就職先が決定した大学4年生を対象とするヒアリング調査

若年男女のキャリア形成に関する意識について理解を深めるため、就職先が決定した大学4年生を対象とするグループインタビューを、3大学（計14名）で実施した。

(2) 得られた知見

① プリテスト

既に入社1年目からキャリアをめぐる意識や実態に男女差があることが明らかにされた。来年度以降に実施する予定である追跡調査によって、それらの男女差が拡大もしくは縮小するのか、その要因は何であるかを検証することが重要であるといえる。

② 就職先が決定した大学4年生を対象とするヒアリング調査

近年の就職活動のあり方、就職先を決定する際に重視すること、今後の就業についての見通しや希望（やってみたい仕事の内容、管理職志向、結婚・出産と仕事の両立など）について理解を深めた。

(3) 調査研究の活用

検討委員会において、プリテスト及び就職先が決定した大学4年生を対象とするヒアリング調査から得た知見を踏まえて、調査テーマ及び調査票を精査した。

7 今後の課題・展望

最終年である次年度は、質問紙調査を実施し、報告書を作成する。研究成果については、NWE Cホームページ上に公開するとともに、会館リポジトリを通じて、研究成果を発信する予定である。NWE Cが有するネットワークを通じて、全国の企業・大学に研究成果をフィードバックし、NWE Cが実施する大学や企業を対象とする各種研修プログラムやキャリア教育プログラムの企画・実施にも研究成果を生かす。

Ⅲ 情報事業

- 1 4 情報資料の収集・整理・提供（大学・企業関係資料の充実）
- 1 5 女性情報ポータル及びデータベースの整備充実
- 1 6 図書のパッケージ貸出
- 1 7 女性アーカイブ機能の充実と全国の女性アーカイブとのネットワークの強化

14 情報資料の収集・整理・提供（大学・企業関係資料の充実）

1 趣旨

男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、広域的、専門的な資料・情報を収集し、多様な手段で広く一般に提供することにより、男女共同参画社会の推進を図る。

2 年度実績概要

男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、地域レベルでは収集困難な広域的、専門的な資料・情報の収集を図った。収集した資料を個人向け及び団体向けに館外貸出したほか、レファレンス・サービス、文献複写サービス、情報研修プログラムの実施等により広く利用に供し、男女共同参画のための情報提供を行った。

3 成果

【収集資料】

平成26年度は、特に中央省庁、企業、大学等の女性活躍やダイバーシティ推進に資する資料の収集を継続して行い受け入れた。また大学の刊行する男女共同参画に関するニューズレター等も全国を網羅するよう努めた。これらは、女性教育情報センターに受け入れ、広く一般の利用に供している。

収集資料統計(平成27年3月末現在)

項目		和		洋		計	
		年度受入	累計	年度受入	累計	年度受入	累計
図書	図書	1,950 除籍△837	77,758	407 除籍△ 490	24,293	2,357 除籍△ 1,327	103,164
	地方行政資料	245	26,351	0	8	245	26,359
	計(冊数)	1,358	105,222	△83	24,301	1,275	129,523
逐次 刊行物	雑誌	34 中止 5	3,271	1 中止 8	735 (62か国)	35	4,006
	新聞	0	74	0	1	0	75
その他	新聞切り抜き	22,657	387,471	-	-	22,657	387,471
	AV資料※	29	226	0	4	29	230
	研修貸出用資料※	0	17	0	0	0	17

※毎年見直しを実施

【利用状況】

データベースやリポジトリの充実により、直接的なレファレンスや文献複写サービスは利用が減少傾向にあるが、パッケージ貸出等で毎年1万冊以上の利用がされている（平成26年度末の図書累計冊数約13万冊中）。

利用状況統計：平成25年度・平成26年度（平成27年3月31日現在）

	平成25年度	平成26年度
資料等利用者数	8,051	9,384
貸出資料総数（冊）	11,109	10,579
図書資料	10,120	9,111
地方行政資料	5	14
雑誌類	457	794
新聞記事	77	120
研修貸出（冊数）	150	200
その他	300	340
レファレンスサービス件数	470	443
うち 情報検索利用件数	129	142
文献複写サービス（件数）	829	764
情報研修プログラム（件数）	3	5
情報研修プログラム（人数）	28	47
相互貸借貸出件数	310	294
うち パッケージ貸出件数	75	77

【学習支援】

図書資料の展示を年に4回行った。主催事業と連動した展示である「女性と仕事の現在」や「女性と映画」等を実施すると同時に、資料リストを女性情報ポータル“Winet”上で公開し、男女共同参画の推進のための学習・教育を支援した。

さらに、埼玉大学との連携授業「男女共同参画社会を考える」や、埼玉県私立短期大学協会との連携事業「平成26年度女子大学生のためのキャリア形成講座」を実施し、その中で、統計を用いた講義、女性教育情報センターを利用した情報検索の実習等を担当したことにより、レポート作成のための資料情報の収集選択スキルアップの支援を行った。

テーマ展示実施状況一覧

期間	テーマ・目的	冊数	会場
4～6月	家庭科の男女必修から20年	92	本館1階 ロビー
7～9月	女性と仕事の現在	79	
10～12月	女性と映画	84	
H27年1～3月	女子と就活	72	

4 今後の課題・展望

企業の女性活躍やダイバーシティ担当部署が発行する資料の収集は、内部資料等が多く困難なため、ダイバーシティ推進に資する資料全般を重点的に収集することとし、中央省庁・高等教育機関・研究機関・地方自治体等、収集の対象を広げ、目配りをしたい。

15 女性情報ポータル及びデータベースの整備充実

1 趣旨

「女性情報ポータル“Winet”（Women’s information netowrok、ウィネット）」は、女性の現状と課題を伝え、女性の地位向上と男女共同参画社会の形成を目指した情報の総合窓口である。

次の3要素で構成され、日々、データやコンテンツを継続的に整備充実することにより、政策担当者、研究・学習者、団体・グループ関係者、メディア関係者等ユーザのニーズに、迅速・的確に応えるアクセス手段を提供している。

- ①女性情報ナビゲーション（リンク集。インターネット上の有用な資源への道案内）
- ②NWE C作成のデータベース
- ③女性情報C A S S（NWE C作成のデータベース及び他の関連機関のデータベースの横断検索）

2 年度実績概要

（1）方針

女性情報ポータル“Winet”の組織的なデータ更新、充実を図るとともに、利便性の高いポータルサイトを目指す。今年度もトピックス・ピックアップコンテンツの随時更新を行い、情報更新の一層の見える化、情報発信力の拡充を図った。

○データベース化件数：637,770件（36,066件増）

○アクセス件数：361,721件（5,585件減、平成25年度は81,832件増）

（2）データの更新・充実

第3期中期計画期間中の目標値である、アクセス件数30万件、データベース化件数60万件は平成25年度にすでに達成しているが、平成26年度もアクセス件数は年度目標の30万件を上回った。

①「女性情報ナビゲーション」 リンク1,119件（追加71件、修正41件、削除17件）

トップ画面をリニューアルし、分野「最新情報」に、関係府省現時点の事業や調査研究へのリンクを追加した。

②「文献情報データベース」 総件数567,409件（26,567増）

新規に受け入れた図書、雑誌、地方行政資料、和雑誌記事、新聞記事等のデータを登録した。

③「国立女性教育会館リポジトリ」

これまでは、埼玉県内の大学等の地域共同リポジトリ「SUCRA（さくら）」にNWE C作成資料や「日本女性のミニコミ」を掲載し、発信してきたが、国立情報学研究所のJAIRO Cloud を利用し、NWE C独自のリポジトリを公開した。総件数6,687件。

④『女性情報レファレンス事例集』累計280事例（16事例増）

⑤「女性関連施設データベース」のデータ登録・更新を、Web システムを活用して、全国の各施設職員が直接行った。登録数 施設概要614件（内、Web 登録の施設は179館）、実施事業（情報・相談以外）32,395件（うち、平成26年度開催の事業は305件）、情報事業369件、相談事業316件。

⑥「女性と男性に関する統計データベース」は更新された統計について、最新の数値を反映した。また「男女共同参画統計ニュースレター」（男女共同参画の推進に向けた統計の活用に関する調査研究により作成）のバックナンバーと英語目次をホームページに掲載した。

3 今後の課題

女性情報ポータル“Winet”のコンテンツの一つ「女性情報ナビゲーション」は平成18年4月に公開して以来、リンク先の追加、修正、削除（サイトがなくなった場合）は行ってきたが、全般的な見直しは行っていない状態であった。平成26年度はトップページのリニューアルを行った。次年度はサブカテゴリ、リンク先の見直しを行い、最新の情報が幅広く入手できるよう内容の充実を図り、わかりやすく整理して提供する。

16 図書のパッケージ貸出

1 趣旨

男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、基本的かつ全国的な資料・情報を計画的に収集・整理し、各施設における男女共同参画を推進するため、各施設の活動に沿ったテーマごとにパッケージ化した図書の館外への貸出を実施する。

2 年度実績概要

平成22年6月よりサービスを開始した図書のパッケージ貸出サービスは、大学、女性関連施設、公共図書館等の機関を対象に、NWE C女性教育情報センターの蔵書から「男女共同参画」や「女性のライフプラン」「家族問題」など、男女共同参画社会の形成を目指した女性・家族・家庭に関する様々なテーマに合致する図書を、30冊から100冊程度のパッケージにまとめ、3か月から1年程度、申込機関に貸し出すサービスである。平成25年度から、より若年層への男女共同参画の知識・情報の普及を目指して、新たに高校図書館を対象として貸出を開始した。

平成26年度までの累計利用機関数は66機関であり、第3期中期目標期間数値目標（20機関以上）を達成した。平成26年度は34機関の利用があり、77回、7,339冊と、貸出機関、貸出回数は前年度（31機関、75回、7,989冊）より増加した。特に、平成26年度は高等専門学校図書館への貸出を系統的に開始し、大学生や社会人のみならず、より若年層への男女共同参画のための情報や知識の提供を実現した。平成26年度に貸出を実施した高等専門学校図書館は以下のとおり。

- ・群馬工業高等専門学校（平成26年10月～平成27年3月）50冊
- ・長岡工業高等専門学校（平成26年10月～平成27年3月）50冊

また、山口県山陽小野田市では、市内の大学図書館、高校図書館、公共図書館を巡回展示し貸出しする地域連携パッケージを実施し、計7機関に対して図書の貸出を実施することにより、地域に対して集中的・網羅的に知識の提供を実現した。

さらに、川越市立川越高等学校と連携し、生徒によるNWE C図書選書ツアー・プログラムを実施した。生徒9名と職員1名が女性教育情報センターに来館し、情報課専門職員による資料検索のレクチャーを行った後、興味のあるテーマの図書を検索した。その後、図書のタイトルを見ながら書棚を巡ることで、文化祭で展示したい図書候補9冊を選書し、パッケージ図書として貸出した。図書には、生徒が推薦コメントを作成し、川越市立川越高等学校の文化祭で展示した。

3 今後の課題・展望

図書パッケージ貸出業務の定型化、効率化と、今後の利用機関の拡大へ対応するため、利用機関と連携して業務のルーチン化を一層進める。

館種別利用機関数推移（平成27年3月31日現在）

館種	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
大学図書館	8	20	18	23	20
大学男女共同参画	1	1	1	1	1
女性センター	2	4	3	3	2
公立図書館	—	—	1	—	1
企業	—	1	1	—	—
高校図書館	—	—	—	3	6
高専図書館	—	—	—	1	3
その他	—	1	—	—	1
合計	11	27	24	31	34

新規利用機関数及び継続利用機関数推移（平成27年3月31日現在）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
利用機関(継続)	0	10	18	18	15
利用機関(新規)	11	17	6	13	19
利用機関(年間合計)	11	27	24	31	34
利用機関数(累計)	11	28	34	47	66

17 女性アーカイブ機能の充実と全国の女性アーカイブとのネットワークの強化

1 趣旨

女性に関する過去の歴史的事実及び現在の状況を検証し、現代の問題へのアプローチを可能にするため、歴史的価値・研究資料的価値を有する女性関係史・資料を収集・整理・保存し、閲覧・展示・データベース等を通じて提供・公開する。会館のもつ全国の女性センターとのネットワークを生かし、他機関と連携して、東日本大震災に関する史・資料のアーカイブ化を進める。企画展示を他機関と連携して実施する。

2 年度実績概要

(1) 資料の収集・デジタル化(年度目標1,000点以上)

新規受入 1,081点

資料選定委員会の助言に基づいて、資料の新規受入を行い、「女性デジタルアーカイブシステム(<http://w-archive.nwec.jp/>)」を通じて、目録データと一部の画像データをインターネット上に公開した。

(2) 展示室利用(平成26年度までの累積目標3万8,000件以上)

累計 40,744件 (うち平成26年度 8,044件)

所蔵展示(4~7月、12~3月、入場者数 4,460人)及び企画展示「映画と歩む~チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ」(8~12月、入場者数 3,482人)を実施した。

所蔵展示前期(4~7月)では、中学校・高等学校で家庭科が男女必修になってから20年を経過したことから、「全国婦人新聞社取材写真コレクション」と「和田典子資料」より、関係する資料を展示した。また、併せて「九重年支子資料」も展示した。後期(12~3月)では、平成22(2010)年に神奈川県在住の中村喜美子氏(元・横浜生協組合員)から寄贈された56年分の家計簿とともに、女性教育情報センター・女性アーカイブセンターの所蔵資料から各年代に関連した資料を展示した。

企画展示は、さまざまな分野においてチャレンジした女性たちのあゆみから日本の男女共同参画社会を考えるシリーズの第7回目として開催した。映画製作分野のパイオニア5氏(アリス・ギイ、坂根田鶴子、川喜多かしこ、田中絹代、高野悦子)、現代に活躍する4氏(関口祐加、戸田奈津子、羽田澄子、松井久子)を取り上げ、絵コンテ、台本、原稿、写真などを通して紹介した。また、次の連動企画を実施した。

○映画上映会+監督トーク <無料>

第1回 平成26年 8月29日(金) 18:30~21:00 松井久子監督トーク&「レオニー(海外版)」上映会
会場:研修棟講堂

第2回 平成26年12月13日(金) 13:30~14:20 「毎日がアルツハイマー2」上映会+関口祐加監督トーク
会場:研修棟大会議室

(3) 企画展示における他機関との連携

7機関の企業・団体等と連携し、各団体及び個人6名から資料提供等の協力を得た。

(4) 「NWEC災害復興支援女性アーカイブ(<http://w-archive.nwec.jp/saigai/>)」の連携

女性の視点からの災害復興支援活動記録を収集・保存し公開する「NWEC 災害復興支援女性アーカイブ」において、NPO 法人フォトボイス・プロジェクトほか2機関のデータを新たに公開した。それ以外にも複数の女性関連施設がデータ登録作業中である。フォトボイス・プロジェクトとはイベントでの連携も行き、平成27年3月16日の第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム「フォトボイスとアーカイブ」を共催し、発表ならびにワークショップを行った。

(5) 展示用パネル・資料の貸出

展示用に作成したパネル及び資料について、佐倉市男女平等参画推進センターより利用の申し込みがあり、貸出を行った。

3 今後の課題・展望

引き続き、会館の持つネットワークを生かして、「NWEC 災害復興支援女性アーカイブ」の参加機関を増やし、公開する資料を充実させていく。「女性デジタルアーカイブシステム」は、他機関のシステム等との連携により、検索の利便性を高めると同時にアクセス数の増加を図る。資料収集にあたっては、寄贈の申し入れへの対応にとどまらず、コレクションの構築及び充実に向けて自発的に取り組む。



女性デジタルアーカイブシステムトップページ



企画展示「映画と歩む」展示室



第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム「フォトボイスとアーカイブ」(フォトボイス・プロジェクトとの共催)



映画上映会+監督トーク第2回:「毎日がアルツハイマー2」上映会+関口祐加監督トーク

IV 国際連携事業

- 18 アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー
- 19 NWEC 国際シンポジウム
- 20 課題別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」

18 アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー

- 1 趣 旨 「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」は、開発途上国において男女共同参画の政策策定・政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者、NGOのリーダーを対象に、女性の能力開発を目的とする集団研修である。平成26年度のリーダーセミナーでは、「ICTが拓く女性のエンパワーメント」をテーマとして設定し研修を行う。
- 2 特 徴 本研修では、日本国内の関連機関の視察や専門家による講義に加え、研修生同士がテーマに関する好事例を学び合うことを目指したカリキュラム構成としている。
- 3 主 催 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 4 会 場 NWE C 他
- 5 期 日 平成26年9月29日（月）～10月3日（金）
（受入期間 9月28日（日）～10月4日（土））
- 6 対 象 行政担当者・NGOの指導者
- 7 参加者 9名
（カンボジア、インド、ベトナム、フィリピン（各2名）、タイ（1名））

8 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
9月28日(日)	日本到着		—
9月29日(月) 9:00～17:00	開講挨拶	内海 房子 NWE C理事長	—
11:00～12:00	プログラムオリエンテーション &アイスブレイク 研修のねらい、目的、スケジュール説明	越智 方美 NWE C研究国際室 専門職員	—
14:00～15:00	NWE C概要説明 国立女性教育会館について	中野 洋恵 NWE C研究国際室室長 ・主任研究員	女性教育のナショナルセンターとしてのNWE Cの歴史、機能と役割について学んだ。
15:15～16:00	講義 女性情報をつくる	青木 玲子 日本女性監視機構 事務局長	男女共同参画の視点にたった情報発信
16:15～16:45	視察 女性教育情報センターと女性アーカイブセンター	森 未知 NWE C情報課専門職員	「女性教育情報センター」と「女性アーカイブセンター」の見学
9月30日(火) 9:00～17:00	カントリーレポートの発表 研修生による事例の発表と討議	ファシリテーター： 越智 方美 NWE C研究国際室 専門職員	研修生が、アジア太平洋5か国におけるジェンダー平等政策とICTを活用した女性の社会参画を促進する取組について好事例を共有した。

10月1日(水) 10:00～12:00	講義と意見交換 安全・安心につながるメディア 活用とは	七島 亜耶 人身取引被害者サポート センター ライトハウス	サイバー空間での女性に対する暴力の防止について、人身取引の専門家との意見交換を行った。
14:00～16:00	視察と講義 ジェンダーの視点から見たICT	村松 泰子 日本女性学習財団 理事長 黒澤 あずさ 学習事業課課長	日本女性学習財団の視察と多様なメディアが女性のエンパワーメントに与える影響等についての講義を受講し議論を行った。
16:00～17:00	研修の振り返り	研修生・会館職員	研修前半の振り返り
10月2日(木) 10:00～12:00	講義 メディアとジェンダー	谷岡 理香 東海大学文学部 広報メディア学科 教授	ジャーナリズムにおける男女共同参画推進に係る課題に関する講義を受講した。
12:00～12:30	視察 東京ウィメンズプラザ	東京ウィメンズプラザ 事業推進係長	東京ウィメンズプラザの取組について学んだ。
14:00～15:00	視察と講義 埼玉県立川越女子高等学校の視察	西野 博 埼玉県立川越女子高等学校 教頭	川越女子高等学校における理系進路指導の取組について学んだ。
10月3日(金) 10:00～12:00	講義 ICTとジェンダー：企業における事例	小林 洋子 NTT コミュニケーションズ 常勤監査役	ICTを活用した女性の在宅就業支援を通じた多様な働き方について意見交換を行った。
14:00～15:00	評価会	研修生・会館職員	研修内容についての評価
15:00～15:30	閉講式	内海 房子 NWE C理事長	修了書の授与
10月4日(土)	帰国		

9 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

今年度は「ICTが拓く女性のエンパワーメント」をテーマとし、研修を実施した。研修内容は、座学とディスカッション、視察などを組み合わせ、参加型研修となるよう工夫した。講師は企業、NGO、女性関連施設、研究者、学校関係者に依頼し、限られた日程でテーマについて多角的に検討できるよう配慮した。

10 プログラム全体で得られた知見

カントリーレポートの報告や研修期間中の意見交換を通じて、情報通信技術へのアクセスの男女間格差やSNSを使用した女性に対する新たな形態の暴力など、各国が共通の問題に直面していることが明らかになった。また、日本国内関係機関の視察からは、クラウド技術を活用した在宅就労機会の提供や教育現場における理工系進路信託支援の実践など、ICTを女性の社会参画につなげるための具体的な取組を提示することができた。

11 プログラムの成果

- (1) 参加者の全体の満足度 100.0% (非常に満足88.9%、満足11.1%)
(2) 参加者のプログラムの有用度 100.0% (非常に有用55.6%、有用44.4%)

12 今後の課題及び展望

研修生からは「講師との意見交換の時間がほしかった」「日本の男女共同参画政策についての講義を受講したかった」との意見があった。これらの意見を勘案し、来年度はより充実した内容となるようプログラムの構成を検討する。



カントリーレポートの報告



川越女子高等学校の視察

19 NWE C国際シンポジウム

- 1 趣 旨** 本事業の目的は、女性の人権、女性の能力開発、人材育成等地球規模の課題をテーマに海外専門家を招へいし、アジア太平洋地域の課題分析を行い、海外の研究者や行政関係者、女性団体等指導者との交流を深めるとともにネットワークづくりを進めることである。平成26年度は、「ダイバーシティ推進と女性のリーダーシップ」をテーマとして実施する。
- 2 特 徴** 海外の研究機関や国際機関、企業でリーダーとして活躍している専門家/実践家を招へいし、基調講演やポスター展示、パネルディスカッションを通じて、アジア・太平洋諸国における男女平等政策の現状を学び、喫緊の課題について多様な視点から議論を行うことに、本事業の特徴がある。
- 3 主 催** 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 4 会 場** 霞が関ナレッジスクエア
- 5 期 日** 平成26年11月21日（金）13：30～17：00
- 6 対 象** 男女共同参画、女性教育、家庭教育等の行政担当者、女性関連施設職員、女性団体等のリーダー、研究者、国際交流・開発援助に関わる者、企業関係者等
- 7 参加者** 56名

8 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
13:00～13:15	主催者挨拶	内海 房子 NWE C理事長	
13:15～15:10	基調講演 ジェンダー平等に向かって：ニュージーランド人権委員会の取組み	ジュディ・マクレガー オークランド工科大学社会科学／公共政策学部長 ニュージーランド人権委員会雇用機会均等局前コミッショナー	男女間の賃金格差や高齢者介護に従事する女性たちの労働条件に関する聞き取り調査から明らかになったケア労働者を取り巻く現状など同委員会の取組について講演を行った。
15:25～17:25	パネルディスカッション ダイバーシティ推進と女性のリーダーシップ	ファシリテーター： 菅野 琴 NWE C客員研究員 パネリスト： ジュディ・マクレガー 浅倉むつ子 早稲田大学大学院教授 熊谷圭知 お茶の水女子大学教授	男女平等の視点からワークライフバランスを実現し、男女間の賃金格差を是正するための政策課題や、日本社会の構造変化がもたらす男性性の変容について問題提起を行った。
17:25～17:30	閉会		—

9 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

基調講演やパネルディスカッションのレジメを日英両言語で製本した資料集を事前に作成し、シンポジウム会場で配付、参加者の利便性に配慮した。また基調講演の動画は日本語字幕をつけ、会館のホー

ムページ上で公表しシンポジウムの成果還元に留意した。

10 プログラム全体で得られた知見

社会で男女共同参画を推進するためには、人権や多様性（ダイバーシティ）の視点に基づきジェンダーや人種間の格差を縮小していくことの重要性が、基調講演者、パネリストとシンポジウム参加者の間で共有された。

11 プログラムの成果

- (1) 参加者の全体の満足度 88%（非常に満足57%）
- (2) 参加者のプログラムの有用度 86%（非常に有用57%）

12 今後の課題及び展望

参加者からは「企業における女性リーダーの具体的な事例を聞きたかった」との意見も寄せられた。次年度以降は、テーマや対象とする層に応じて、講演者並びに会場等を選定することにより、事業内容の一層の充実を図る。



基調講演



パネルディスカッション

20 課題別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」

- 1 趣 旨 国際協力機構（JICA）がアジア太平洋地域において実施する「人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト」の一環として、プロジェクトのカウンターパート及び近隣地域の人身取引対策に携わる関係者を対象としたワークショップ型研修を実施する。3年計画の第3年次。
- 人身取引撲滅と被害者保護は一国のみで対応できる課題ではなく、国境を越えた広域的課題として対応するためにも、アジア地域におけるネットワーク形成が重要である。参加者が日本を含め、互いの国の人身取引対策に関する取組について相互理解を深め、特に予防、被害者の保護と自立支援に携わる関係機関の役割や協力体制等について把握し、参加者間で人身取引対策に取り組む機関の機能強化や連携、国を越えたネットワークの強化に資する方策を検討することを目的として行われる。
- 2 特 徴 会館がこれまで行ってきた人身取引の調査研究の知見や女性に対する暴力に関わる女性関連施設や団体等とのネットワークを生かして実施する研修である。タイの国別研修として平成22年度から3年間実施し、平成24年度からはアジア地域6か国を対象を拡大して実施している。
- ①海外参加者を対象とした研修、②日本を含めた参加国関係者の情報交換とネットワーク、③日本の関係諸機関・団体が海外の取組について知る機会となっている。
- 3 主 催 独立行政法人国際協力機構（JICA）
- 4 共 催 独立行政法人国立女性教育会館（NVEC）
- 5 会 場 NVEC、JICA、内閣府、自治体関係機関、婦人相談所、女性関連施設、民間団体等
- 6 期 日 平成26年10月20日(月)～10月31日(金)
- 7 対 象 ミャンマー、ベトナム、ラオス、カンボジア、フィリピンの人身取引対策に携わっている者（中央・地方政府機関行政、シェルター、司法・法執行・入管関係者、ソーシャルワーカー及びNGO関係者）。年齢30～55歳で研修に必要な十分な英語能力を持ち、研修後最低2年間は人身取引対策の分野での勤務が継続する者
- 8 参加者 5か国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、フィリピン、ベトナム）から、中央政府で人身取引対策の政策決定に関わる次官級から各省の担当官や地方行政関係者まで幅広いレベルが参加。所属・担当も内務・警察や法務、検察、労働、医療担当者、ソーシャルワーカー、ホットライン担当、など人身取引問題対策に携わる多分野の関係者が参加
- 9 協力機関 内閣官房、外務省、厚生労働省、警察庁、法務省、東京都、埼玉県、静岡県、浜松市、静岡県国際交流協会、浜松国際交流協会、国際移住機関（IOM）、人身売買禁止ネットワーク（JNATIP）、一般社団法人社会包摂センターほか
- 10 プログラムデザイン 別紙添付

1.1 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
10月20日 14:20-14:50	人身取引問題とアジア：JICAの取組（導入）	田中由美子 JICA専門家	メコン地域におけるJICAプロジェクト説明
16:00-17:00	日本の人身取引問題とアジア（導入）	渡辺 美穂 NWE C研究国際室研究員	日本の人身取引対策・主な活動主体の概要説明。ビデオ視聴
10月21日 10:00-11:30	日本政府の人身取引対策：内閣官房	高塚 洋志 内閣官房参事官 参事官補佐 鈴木 雄介 内閣官房副長官補(外政担当)付参事官補佐	日本の人身取引問題の現状と政府の対策の枠組み、人身取引対策行動計画2004の成果と課題、行動計画2009の概要
11:30-12:00	日本の人身取引対策：外務省	直江 泰輝 外務省	日本の人身取引対策における外務省の活動、途上国支援における人身取引対策の概要、人身取引被害者保護の取組
13:30-14:45	日本の人身取引対策：法務省	濱田 裕嗣 法務省刑事局公安課局付 (後席:田島加奈美 秘書課国際室係員)	人身取引対策行動計画における法務省刑事局の役割、人身売買罪等、人身取引加害者に対して適用される法律や刑罰についての説明、人身取引関係事例の説明・傾向
15:00-16:15	日本の人身取引対策：警視庁	島尻 哲也 警察庁生活安全局保安課警視庁警視	人身取引対策行動計画における警察の取組、人身取引事犯の検挙状況、保護の概況、匿名通報ダイヤル制度、人身取引捜査事例とその課題について
16:30-17:45	日本の人身取引対策：厚生労働省	小林 昌彦 厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課母子家庭等自立支援室女性保護専門官	人身取引被害者の保護について、被害者保護の流れ、被害者の取扱方法、保護実績について
10月22日 10:15-12:00	日本の人身取引対策：法務省入国管理局	浅井 祥子 東京入国管理局総務課渉外調整官	東京入国管理局の業務と体制、不法入国者の摘発と収容から帰国までの流れ
14:00-15:30	日本の人身取引対策（自治体）：女性相談所の被害者保護	竹内 景子 東京都女性相談センター所長	東京都女性相談センターの役割と業務概況、外国人を含むDV被害者及び人身取引被害者の保護の流れ、支援方法、保護実績等について
17:00-18:00	日本の人身取引対策（国際機関）：国際移住機関による被害者保護・帰国支援	森田カリーナ 国際移住機関(IOM)チーフ・ケースワーカー	国際移住機関の概要。日本におけるIOMの人身取引に関わる被害者帰国支援活動について
10月23日 9:30-15:00	民間シェルターの取組（社会福祉法人一粒会）	花崎みさを 社会福祉法人一粒会理事長・総括施設長 砥上正樹 同「野の花の家」施設長 小林晶子 同「FAH こすもす」センター長 フランク・オカンポス 同「ファミリーセンター・ヴィオラ」外国人ソーシャルワーカー 鳥海典子 同「FAH こすもす」センター主任・母子指導員	社会福祉法人一粒会の母子支援の取組、日本の母子支援施設と児童養護施設の概要、外国人母子に対する支援内容、支援を必要とする外国人女性の近年の傾向
10月24日 9:30-10:00	国立女性教育会館の役割と機能	島田 悦子 NWE C総務課専門官	国立女性教育会館の女性教育・男女共同参画の促進を目的

			とした研修、情報、調査研究、交流の機能について
10:00-10:30	日本における男女共同参画の現状と課題	越智 方美 NWE C研究国際室専門職員	日本の男女共同参画施策と実態、近年の取組
11:00-17:00	グループディスカッション：各国の取組と国際連携	新倉 久乃 女性の家サーラー理事 武田ヴィーリンTNJタイネットワークINジャパン代表 フランク・オカンポス ソーシャルワーカー 百生詩央子 JICA専門家 渡辺 美穂 NWE C研究員	5か国における人身取引問題の現状と対策の概要 日本の当事者団体の取組、カントリーレポート (SWOT) アイスブレイク (マスク)、ロールプレイ
10月25日 9:15-9:45	日本文化体験	茶道グループ	お茶室見学、喫茶、施設見学
10:00-11:00	振り返り	渡辺 美穂 NWE C研究国際室研究員	第1週目の講義を振り返り、不明点等についての意見交換及び10月30日の成果発表会の説明
14:30-17:10	民間の取組：全国的電話相談支援	遠藤 智子 一般社団法人社会的包摂サポートセンター事務局長 和久井みちる 同全国コーディネーター 原 ミナ汰 同全国相談員	全国規模のホットラインシステム及び電話相談の相談内容・相談者・相談件数や傾向、電話相談以降の支援の流れ、支援体制、課題等について
10月27日 15:30-17:00	日本の在住外国人支援 (自治体)	太田 俊樹 浜松市外国人学習支援センター所長	市内在住外国人の学習ニーズ、自治体による支援体制と支援内容
10月28日 9:00-11:00	日本の在住外国人支援 (自治体)	松岡真理恵 公益財団法人浜松国際交流協会 (HICE) 主任・多文化共生コーディネーター キクヤマ・リサ 浜松国際交流協会 (HICE) 多文化共生コーディネーター	浜松市の在住外国人支援の概要、医療・労働・女性相談・等の支援ニーズ、支援体制や課題について
15:00-17:00	日本の在住外国人支援 (自治体・民間)	金城アイコ NPO法人アラッセ代表理事 大澤 富枝 NPO法人アラッセ事務局長	浜松市に在住する日系人児童を対象とした民間団体の学習支援活動の見学、支援ニーズと支援内容、課題について
10月29日 9:15-9:45	日本の女性相談 (自治体)：静岡県の概要	田中 清子 静岡県暮らし・環境部県民生活局男女共同参画課	静岡県的女性に対する暴力の根絶に向けた取組
9:45-10:30	静岡県男女共同参画センターアザレア	三輪 明彦 静岡県暮らし・環境部県民生活局男女共同参画課	男女共同参画センターの見学、役割と機能の説明
10:30-11:15	日本の在住外国人支援 (自治体)：女性相談研修	横山由佳子 特定非営利活動法人 Safety First 静岡代表	DV相談等の活動について説明
11:15-12:00	日本の在住外国人支援 (自治体)：女性相談研修	加山 勤子 公益財団法人静岡県国際交流協会総務課長	県内に在住する外国人の状況と抱える課題、国際交流協会による支援内容と体制や課題
13:20-14:30	日本の人身取引 (自治体)：女性に対する暴力	吉田 容子 弁護士・立命館大学教授	女性に対する暴力に関わる法律、在住外国人の抱える課題について
14:30-16:00	日本の在住外国人支援	研修員、講師	在住外国人支援について意見交換、成果発表に向けた課題整理

10月30日 13:00-17:15	各国の取組の発表と意見交換会	関係省庁（外務省、警察庁、法務省刑事局公安課、東京入国管理局、厚生労働省） フィリピン大使館、カンボジア大使館、ラオス大使館 国際移住機関(IOM)駐日代表 (一財)社会的包摂センター事務局長 (社福)一粒会 FAH こすもすセンター主任 東京都女性相談センター事業係長 TNJ タイネットワーク IN ジャパン代表 女性の家サーラー理事 移住労働者と連帯する全国ネットワーク事務局長 JICA関係者 司会進行：渡辺美穂NWE C研究国際室研究員	5か国の研修参加者による各国の取組及び研修の成果について発表 研修受入れ機関・団体からのコメント 政府関係者、駐日大使館関係者、有識者を交えた意見交換
10月31日 10:00-11:30	評価会と終了式		

1.2 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

(1) 研修内容

(研修の目的)

本研修の目的は、①日本政府の人身取引対策及び被害者保護支援策について理解すること、②日本・参加国における人身取引予防・被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセス及び関連機関の関係を把握し、グッドプラクティスや課題について共有すること、③日本における在住外国人支援団体の取組について学ぶこと、④アジア地域における人身取引対策のネットワーク強化に向けて各国の状況やアプローチを理解し、改善策やネットワーク連携・強化に資する方策を検討し、成果発表を行うことである。これに沿って、これまで行われてきた人身取引に関する国別及び地域別研修の課題や留意事項を踏まえて、カリキュラムを企画・構成した。この研修には、講義のほか、見学、カントリーレポート発表、アイスブレイクゲーム、ロールプレイ及び討議などのグループワークを組み入れた。

(カリキュラム)

研修カリキュラムでは、日本を含めた参加国の人身取引問題の現状と解決に向けた取組及びその課題、問題に取り組む様々な機関とその役割・活動の現状を、研修生が総合的に把握できるように配慮して、講師や訪問先を選定し、プログラムを開発した。関係機関との連携の構築、女性に対する暴力と人身取引対策のつながりの理解、受入国における人身取引対策の課題、移住女性の実態について理解・共有できるように配慮した。具体的には、日本政府の「人身取引対策行動計画 2009」に基づいた関係機関の取組、婦人保護に携わる自治体、社会福祉法人、民間それぞれの活動内容、在住外国人支援を行う自治体・民間の取組、移住女性とその子どもたちの実態と課題などに関する講義や見学を組み入れ、中央と地方自治体それぞれの政策及び実務レベルの話並びに日本人や外国人当事者による民間団体の活動についての話を組み入れた。

(プログラムの特徴)

人身取引問題の解決に関わる関係諸機関・団体等の担当者を講師に迎え、講義や見学、意見交換を中心に双方向型の研修として実施した。研修内容の組み立てにあたり、人身取引担当者が被害当事者の視点に立ち、社会制度や文化が異なる国の実情や対応についてそれぞれが理解して取り組む必要があることを前提に、講義や見学を通じて、自国の取組に生かせることは何かについて考えてもらうことをねらいとしている。

特徴としては、第一に、日本政府の人身取引対策について、政府の施策、被害の発見から保護や救済、

加害者の摘発の流れに沿った取組の説明を行った。講義を中心とした質疑応答を最初に行い、視察や見学、意見交換も組み入れた。第二に、参加各国相互の共有や発表を行う機会を研修半ば及び全体研修最終日の成果発表と意見交換会に設けた。第三に、保護施設の見学と意見交換を多く組み込み、研修員が目で理解し体験できるように配慮した。第四に、参加各国間の連携・協力・相違についての理解の促進及び自国の制度等について振り返ることを目的に、アイスブレイクやロールプレイなどを取り入れたワークショップを実施した。第五に、国、自治体、社会福祉法人、民間などさまざまな立場の関係機関・団体の役割や活動から構成されている日本の取組について理解を図った。第六に、人身取引被害の広義の防止や支援基盤にもつながる日本における在住外国人支援に関わる関係機関・団体の取組について取り上げた。第七に、成果発表と意見交換として、研修最終日に日本の関係機関・団体関係者、駐日大使館関係者、有識者等を招き、研修員による発表等を通じて日本を含めた関係各国・者間の相互理解や意見交換を図った。

1.3 プログラム全体で得られた知見

参加者は次官級から現場レベルまで担当分野や職位にかなり幅があり、関心や興味もそれぞれ異なっていたが、各国で立案中の人身取引対策行動計画に日本の行動計画や施策を生かしたいという意見や、婦人相談所等で精緻な統計を取って実態把握や原因の把握に努めていること、当事者の立場にたったシェルターの職員の仕事に対する姿勢など、自国で取り入れたいという声が多く聞かれた。また、日本の男女共同参画や女性に対する暴力の取組についての講義は、日本について理解する上で、また母国での職務に生かす上で、大変役に立ったという感想が寄せられた。会館の研修事業等についての関心も高かった。人身取引の様子は日本と陸続きのアジア諸国ではかなり異なるが、本研修で得られた知識が各国の研修参加者にとって役立つことが確認できた。

なお、日本側の講師や情報提供者にとっても各国の取組や担当官との意見交換が、それぞれの業務や活動に役立つというフィードバックも得られている。日本を含めた参加国関係者すべてにとって男女共同参画の視点に立った人身取引の問題について考え、意見交換をする機会の意義が大きいことが確認できた。

1.4 プログラムの成果

全体研修参加者の全体の満足度 有用度 91.7% (とても有用 33.3%、有用 58.3%)

(参加者の声、一部抜粋)

研修で学んだこと・有意義だったこと

- ・政府機関と民間機関の両方から情報を得ることができ、研修は大変有益であった。特に緊急の支援体制、公共と民間のシェルターの整備状況、充実したカウンセリング体制、ホットラインの運営に関する情報が役立った。更にボランティアの果たす役割の大きさ、外国人支援において子どもへの教育体制が充実していること、オンラインによる先進的な捜査システムに感銘を受けた。
- ・他の国々の担当者との話し合いも非常に有意義だった。
- ・日本の外国人支援制度は素晴らしいと感じた。
- ・自国の入管職員が日本の入管から学べる点が多くあると感じた。
- ・多くの知識を得た。日本では市民団体や民間団体が防止のみではなく、幅広く人身取引対策に関わっていることを知った。
- ・日本の制度、政策、被害者保護対策に加え、他国の経験を学ぶことができ、有意義な研修であった。被害者帰国システムや電話カウンセリング等、日本や参加国と自国との制度を比較し、違いも理解できた。特にシェルターでの保護についての情報が有益であり、自国のシェルター運営の改善の必要性を感じた。
- ・人身取引は需要と供給の原理で成り立っているため、需要側の防止策を学ぶことも重要である。成果発表会では日本の政策立案者との意見交換ができ、有意義であった。
- ・日本の外国人支援制度が充実していることを理解した。
- ・ホットラインやシェルター運営が素晴らしいと思った。
- ・研修ではNGOや警察庁からのインプットが有益であった。

研修の成果をどのようにいかしたいか

- ・帰国後は、関係省庁や警察と研修で学んだ経験を共有し、連携を強化したい。

- ・講義や施設見学で学んだ知識を帰国後は上司に報告し、職場内で共有したい。(全員)
- ・帰国後は報告書を提出し、自国の状況に合わせて何が導入できるかを考えたい。関係省庁との連携を強め、人身取引問題や社会問題を解決したい。
- ・帰国後はこれまで行ってきた意識向上セミナーや権利擁護セミナーをさらに充実させたい。入管と相談の下、出国前オリエンテーションのプログラムを試験的に地域から開始し、その後、国レベルに広めることを検討したい。

15 今後の課題及び展望

複数か国が参加する集団研修では、共通語である英語力の水準が一定程度以上あることが不可欠である。国によって人身取引を巡る状況が大きく異なり、法執行や保護など担当分野が異なる研修生一人ひとりの研修ニーズが異なる。異なる背景の参加者の研修効果を高め、活発な意見交換を図るために、意見交換のあり方や視察先の選定、幅広い人身取引関係問題で何をテーマに取り上げるかなど、研修の企画・運営を引き続き工夫していく必要がある。



10月20日 理事長挨拶後の記念撮影



10月29日 静岡県男女共同参画課による男女共同参画センターの説明



10月30日
省庁、大使館、有識者等が参加した成果発表会

本研修の目標(3年間)
本年は第3年次



全体:ミャンマー(5)、ベトナム(3)、フィリピン(2)、ラオス(2)、カンボジア(2)

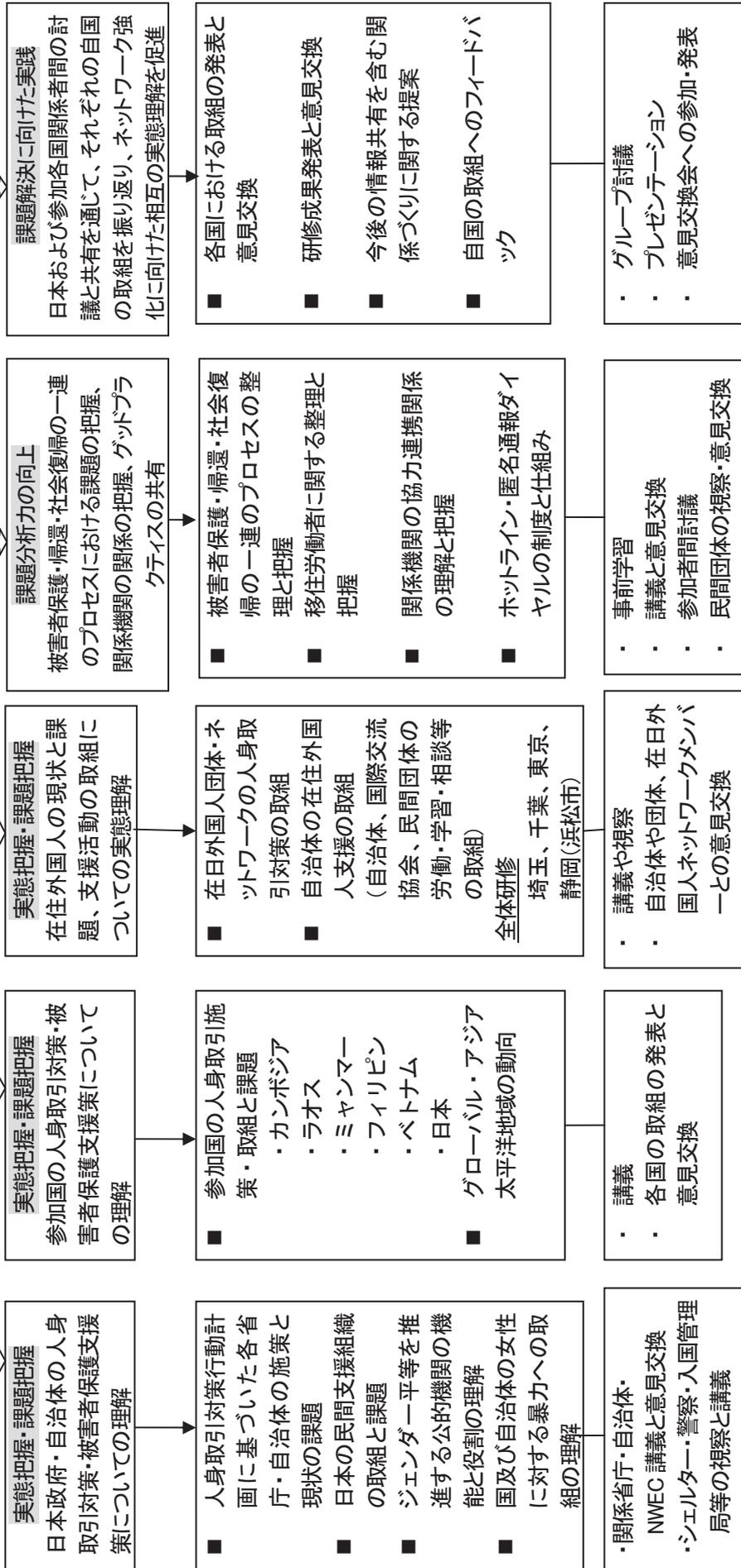
技術研修期間:2014年10月20日—10月31日(全体)

2014年度研修員

- (1) 日本政府の人身取引対策および日本の人身取引被害者保護支援策について理解する。
- (2) 日本・参加国における人身取引予防・被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセスおよび関連機関の関係を把握し、グッドプラクティスを学び、課題について検討する。
- (3) 日本における在住外国人支援団体の取組について学ぶ。
- (4) アジア地域における人身取引対策のネットワーク強化に向けて各国の状況やアプローチを理解し、改善策やネットワーク連携・強化に資する方策を検討し、成果発表を行う。

2014年度研修目的

2014年度研修目標



2014年度研修項目

研修方法

V 教育・学習支援事業

- 2 1 大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進
- 2 2 学習オーガナイザー養成研修

2 1 大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進

- 1 趣 旨 大学等におけるキャリア教育の充実に資するよう、大学等とNWE Cの協力のもと、NWE Cが所有する「社会活動キャリア形成事例」や女性アーカイブセンター資料等を活用した学生を対象とするキャリア教育を実施する。

NWE Cは社会教育施設として、これまで主として成人を対象とした研修を行ってきたが、固定的性別役割分担意識の是正や、単に就職をどうするかだけでなく、一人の女性としてどう生き、自分の能力を發揮しながら社会に参画していくかを自覚的に考えていくキャリアについての視点を身につけることの重要性から、より若年層へアプローチするため大学生を対象とした事業を平成22年度より開始している。

26年度は、引き続き、①埼玉大学、②埼玉県私立短期大学協会と連携した2事業を実施した。

- 2 特 徴 ①大学や民間団体とNWE Cが共同して開発するプログラムであること。
②大学における単位取得講座であること。
③NWE Cがこれまでに実施してきた研修・調査研究・情報事業において蓄積された知見や情報を活用して 開発されたプログラムであること。
④若年層に対するキャリア教育の普及を目指し、プログラム開発につなげること。

3 事業内容

(1) 埼玉大学との連携事業（5年目）

①授業名 男女共同参画社会を考える

②会 場 埼玉大学

③時 期 前期：平成26年4月11日（金）～7月25日（金）、全15回、（うち5/9、5/16の2回をNWE Cが担当、6/21NWE Cに来館して調べ学習）

後期：平成26年10月3日（金）～平成27年1月9日（金）、全15回、（うち10/24、10/31の2回をNWE Cが担当、11/29はNWE Cに来館して調べ学習）

④履修者 埼玉大学の学生 前期11名（全学部、1～4年）、後期21名（全学部、1～4年）

⑤授業の目的

性別を問わずにさまざまな人々が対等に協力できる男女共同参画社会をつくることが求められているにもかかわらず、ジェンダー格差が非常に大きく残されている部分が多々あり、国連女性差別撤廃委員会などからもその是正に対する勧告を受けている。また私たち個人もすでに「男らしさ」「女らしさ」を内面化している。

本授業では、男女共同参画社会をつくるにあたって、現在どのような課題があり、そのことに私たちがどのようにかわり、社会を変えていくことができるのかということ、調べ学習（文献、聞き取り、訪問観察等）及びグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して学ぶ。

本授業は埼玉大学男女共同参画室と国立女性教育会館（NWE C）との連携プログラムであり、会館の女性アーカイブセンター資料等の情報、調査研究の資料及び人的資源、その他の機関の資源をも活用しながら進める。

⑥プログラム内容（前後期共通）

1	ガイダンスおよび導入アクティビティ
2	講義：ジェンダーとは何か（ジェンダー概念の歴史、ジェンダーと男女共同参画社会）
3	講義：発達とジェンダー（ライフステージとジェンダー問題）
4	「男女共同参画社会の実現を目指して」： NWE C理事長 内海 房子
5	「専門情報を使う 男女共同参画統計を学ぶ」： NWE C情報課専門職員 森 未知
6	『男女共同参画白書』を読む（1）

7	『男女共同参画白書』を読む(2)
8	テーマ選定とグループ分け、調査計画立案
9	調査計画プレゼンテーション及びディスカッション
10	NWECにおける調べ学習
11	グループディスカッション
12	グループディスカッション(発表準備)
13	プレゼンテーション、ディスカッション(1)
14	プレゼンテーション、ディスカッション(2)
15	まとめ・報告書づくり

⑦NWECが担当した2回分の主な内容

- ・「男女共同参画社会の実現を目指して」：埼玉大学に内海理事長が出向いて講義。
- ・「専門情報を使う 男女共同参画統計を学ぶ」：埼玉大学に森専門職員が出向いて、コンピュータ室で学生が一人一台のパソコンを使用し、女性情報ポータル“Winet”の「文献情報データベース」「女性と男性に関する統計データベース」の検索、データの利用方法を実習した。

⑧事業実施により得られた成果・知見

- ・今年度から担当教員が専任となり、ディスカッション形式の少人数での学習に変わった。また前後期2回行い、NWECでの調べ学習も入り、連携が深まった。
- ・講義「男女共同参画社会の実現を目指して」において、固定的性別役割分担意識についてのアンケート及びチェックシート記入の演習を行ったところ、内面化した意識への気づきを促すことができた。

⑨課題

- ・授業に関連した図書をまとめて、図書パッケージサービスとして埼玉大学に貸出しているが、利用希望が多いため4年までとしており、来年度以降はなくなる。受講生への文献検索方法や、大学図書館への取り寄せサービス、文献複写サービスといった利用方法等の一層の学習が必要となる。

(2) 埼玉県私立短期大学協会との連携事業(5年目)

- ①授業名 短期大学生のためのキャリア形成講座
- ②主催 独立行政法人国立女性教育会館(NWEC)
- ③共催 埼玉県私立短期大学協会
- ④会場 NWEC
- ⑤期日 平成26年9月16日(月)～18日(水)2泊3日
- ⑥参加者 埼玉県私立短期大学協会加盟3大学(国際学院埼玉短期大学、埼玉純真短期大学、埼玉女子短期大学)から39名

⑦プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
9月16日 13:00～13:15	開会	大野 博之 (埼玉県私立短期大学協会会長) 内海 房子 (NWEC理事長)	
13:20～14:00	(1)プログラムオリエンテーション (事前アンケートの実施)	講師：引間 紀江 (NWEC事業課 専門職員)	研修生活上の諸注意とともに、事前アンケートをとり、参加学生のキャリア意識を把握した。

10:00～10:30	(2) 講義「もっと素敵にワーキングライフ」	講師： 内海 房子 (NWE C理事長)	民間企業に入社し、男女雇用機会均等法成立の時代を経て、どうキャリアを築いてきたのか、自分自身の足跡と時代背景を分析しながら、これからのキャリアを考え社会に出ようとする学生にメッセージを送った。
15:20～16:20	(3) これからのキャリアを考えてみよう	講師： 大野 博之 (埼玉県私立短期大学協会会長) 近喰 晴子 (秋草学園短期大学学長)	日頃直接話することのない学長から「キャリアを考えることの大切さ」について体系的な話を聞いたことで、大学の授業として当講座が位置づけられている意味を学生自身が把握することができた。
16:35～17:15	(4) 情報収集の手段を学ぶ(女性教育情報センター・女性アーカイブセンター)	講師： NWE C情報課専門職員	班にわかれて、各センター及び展示室を見学した。また、今後のキャリアを考える上で力となる情報収集の手段を身につけた。
19:00～20:30	(5) 自己紹介・レクリエーション「友達を作ろう」	講師： 安倍 大輔 (埼玉純真短期大学専任講師)	様々なレクリエーション活動をとおして、参加者同士のアイスブレイクやコミュニケーションづくりのきっかけとなった。初めて会った参加者同士も協力しながら活動に参加することができた。
9月17日 9:00～10:00	(6) 講義・ディスカッション「女性のキャリアを考える」	講師： 中野 洋恵 (NWE C研究国際室長)	職業キャリアと社会活動キャリアのバランスなどライフイベントの多い女性の一生を通じたキャリアプランを考えることを提案、学生は今後の自分自身の在り方と照らしつつ新たな概念について興味深く学んでいた。
10:15～14:30	(7) グループワーク「女性のキャリアパスの事例分析」 グループ発表「キャリアの事例分析」	コーディネーター： 引間 紀江 (NWE C事業課専門職員)	結婚や出産などの女性のライフイベントを経ながらも職業も持ち続け、地域活動にも積極的に関わった女性の人生をグループごとに分析。自分のこれらのキャリアと重ねながら、非常に活発な議論が交わされた。最後の発表では、各班とも工夫をこらしてまとめた成果を報告した。
14:40～15:40	(8) 講義・グループワーク「男女共同参画統計から女性のキャリアを考える」	講師：森 未知 (NWE C情報課専門職員)	仕事に対する男女の意識やライフコースの希望、組織の意思決定ポジションに就く女性の割合などについて、データをもとに解説した。

15:50～17:20	(9) 卒業生からのアドバイス (キャリア講座)	<p>ゲストスピーカー 家政： 野原 健吾 (国際学院埼玉短期大学助教)</p> <p>ビジネス： 金子 美和 (埼玉女子短期大学キャリアサポートセンター)</p> <p>保育：木下 舞子 (秋草学園女子短期大学人事課)</p>	<p>大学で学んだことや、卒業後のキャリアとその節目と転機を紹介しながら、後輩へのメッセージを語ったゲストの講演より、学生たちは人生における困難と、それを乗り越えることの素晴らしさ、働くことの楽しみなどを、感じ取ることができた。和やかな雰囲気の中、ゲストへの質問や感想、具体的な悩みなども活発に出され、関心の高さがうかがえた。</p>
19:00～20:30	(10) 講義「社会人(ビジネス)マナーの基本」	<p>講師：細田 咲江 (埼玉女子短期大学准教授)</p>	<p>言葉遣い、立ち居振る舞い、身だしなみなど、社会人として身につけるべきマナーについて、実践的に学んだ。</p>
9月18日 9:00～10:00	(11) 講義「キャリアに学ぶ」	<p>講師： 塩原 明世 (国際学院埼玉短期大学准教授)</p> <p>藤田 利久 (埼玉県短期大学協会副会長)</p>	<p>自己のキャリアを意識しつつ学生生活を送ることの意義、その際に注意すべきポイントについて学生の身近な例を挙げながら解説した。</p>
10:10～12:00	<p>(12) 討議・まとめ「自分自身のキャリアを考える」(事後アンケートの実施)</p> <p>(13) 各先生からの言葉、修了証の授与、学生の一言感想、閉講挨拶</p>	<p>コーディネーター：引間 紀江 (NWE C事業課専門職員)</p> <p>藤田 利久 (埼玉県短期大学協会副会長)</p>	<p>3日間の様子をスライドで振り返った後、この講座で学んだこと・気づいたことなどの感想をまとめた。その後、2日目のグループワークの班ごとに感想を共有した。事後アンケート記入後の修了証の授与では、まず各校代表に渡され、ひと言感想を述べた。その後、一人一人に修了証が手渡された。</p>

⑧事業実施により得られた知見

- ・当事業は5年目の実施となる。NWE C内における各課室横断的なチーム編成により、それぞれの課室の知見やノウハウを十分に発揮し、プログラムを効率的・効果的に実施することができた。
- ・学生たちがこれまで、キャリアについて漠然とした不安を抱えながらも考える機会がなかったことがわかった。また、キャリアについて学ぶ機会を持ち、自分自身のこれからのキャリアについて具体的に考えることで、人生に対し前向きに取り組んでいく姿勢をもつことができるようである。
- ・共催した協会側の取組の姿勢から、大学においてキャリア教育の重要性の認識が大きくなっていることが感じられた。

⑨成果

- ・アンケートでは、プログラムの事前・事後において考え方、ものの見方にどのような変化があったのか、比較できるようにした。あまり変化が見られない項目もあったが、「男性も積極的に家事・育児に

関わるべきだ」「社会の問題は自分たちの力で変えられる」「ボランティア活動に興味がある」という、男性の家事・育児や社会活動への参画に関する3項目の質問に対して「そう思う」と回答したものは、それぞれ24名から35名へ、7名から16名へ、24名から34名へと、9～10名ほど増加している。これは講座での学びを通して、様々な社会活動や家庭における家事・育児などへの参画に対して積極的な気づきを得た結果と言える。

- ・「討議・まとめ」として自由記述では、以下のような感想を得た。

「2日目のグループワークの事例分析では、コミュニケーションの大切さ、情報をまとめる力について、身を持って体験できた」

「この講座を通して、自分自身としっかりと向き合い、本当の自分を見つけていきたい、と考えることができた」

「これまでキャリアについて漠然としていたが、様々な話を聞いて、チャレンジすることが大切だということが分かった。新しい出会いと学びがあったのでとても充実していた」

「これからの人生において支えてもらう人や助言者の存在を大切にしなければと感じた」

「キャリア講演での『仕事は自分で作るもの』という言葉に、今まで仕事は人から与えられたことをやるものだと思っていたので、とてもびっくりした。自分から積極的に見つけていきたい」



自己紹介・レクリエーション



情報収集の手段を学ぶ



グループ発表「キャリアの事例分析」



修了証授与

平成26年度「短期大学生のためのキャリア支援講座」プログラムデザイン

【プログラムの特徴】

- ①生涯を見直し、キャリアを考える
- ②キャリアを時間軸、空間軸で考える
- ③これからの自分のキャリア形成と現在必要な準備を考える
- ④グループワークや実習をとって共通基礎力を身につける

テーマ：
「キャリアを考える
～これからの人生を意義あるものとするために～」

対象	埼玉県私立短期大学協会所属の短期大学生			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画型社会における生涯(ライフキャリア)形成の考え方を学び、人間と人間の関わり合いとその方法の基礎を学ぶ ・他大学の学生と交流することなどにより、多様性(ダイバーシティ)をお互いに認め、他の文化や人などを尊重する態度を養う 			
目的	A. 基点・基軸の作成	B. 実態の把握・理解	C. 課題解決・実践力の形成	D. 共通基礎力の形成
目標	キャリアの基礎的理解を深める	キャリアパス上の課題を個と社会の関係から整理する	ロールモデルの事例から自分のキャリア形成を考える	社会人に必要な基礎力を身につける
内容	プログラム オリエンテーション 2 「もっと素敵にワーキングライフ」 3 「これからのキャリアを考えてみよう」 11 「キャリアに学ぶ」	6 「女性のキャリアパスを考えるー複合キャリアとは」 8 「男女共同参画統計から女性のキャリアを考える」	7 「キャリアパスの事例分析」 9 「卒業生からのアドバイス」	4 「情報収集の手段を学ぶ」 5 「自己紹介・レクリエーション」 10 「社会人(ビジネスマナーの基本)」
方法	講義			ワークショップ

埼玉県私立短期大学協会・国立女性教育会館連携プログラム

「短期大学生のためのキャリア形成講座」日程表

2014年9月16日（火）～9月18日（木）

期日	時間	コマ数	実施場所	授 業 内 容	担 当 者 (敬称略)
9月16日 (火)	13:00		101研修室	開会挨拶	大野会長 (埼短協) 内海理事長 (NWEC)
	13:15 14:00	1	101研修室	プログラムオリエンテーション (事前アンケート)	引間専門職員 (NWEC事業課)
	14:10 15:10	2	101研修室	講義「もっと素敵にワーキングライフ」	内海理事長 (NWEC)
	15:20 16:20	3	101研修室	これからのキャリアを考えてみよう	大野会長 (埼短協)
	16:35 17:15	4	本館	情報収集の手段を学ぶ (女性教育情報センター・女性アーカイブセンター)	NWEC情報課
	18:00		レストラン	夕 食	自由に館内散策
	19:00 20:30	5	101研修室	自己紹介・レクリエーション 友達を作ろう	安倍講師 (埼玉純真短大)
9月17日 (水)	7:30 8:30		レストラン	朝 食	
	9:00 10:00	6	101研修室	講義・ディスカッション 「女性のキャリアを考える」	中野室長 (NWEC研究国際室)
	10:15 14:30	7	101研修室	グループワーク 「女性のキャリアパスの事例分析」 (グループごとに適宜昼食) グループ発表	引間専門職員 (NWEC事業課) アシスト: 埼短協教員 NWEC職員
	14:40 15:40	8	101研修室	講義・グループワーク 「男女共同参画統計から女性のキャリアを考える」	森専門職員 (NWEC情報課)
	15:50 17:20	9	101研修室	卒業生からのアドバイス (キャリア講座)	家政: 野原講師(国際学院埼玉短期大学) ビジネス: 金子講師(埼玉女子短期大学) 保育: 木下講師(秋草学園短期大学)
	18:00 19:00		レストラン	夕 食	自由に館内散策
	19:00 20:30	10	101研修室	「社会人 (ビジネス) マナー」の基本	細田先生 (埼玉女子短大)
	7:30 8:30		レストラン	朝 食	
	9:00 10:00	11	101研修室	講義「キャリアに学ぶ」	埼短協教員
10:10 11:10	12	101研修室	討議・まとめ「自分自身のキャリアを考える」 まとめ、振り返り (事後アンケート)	引間専門職員 (NWEC) コメント: 埼短協教員、NWEC	
11:20 12:00	13	101研修室	各先生からの言葉、学生の一言感想 修了証の授与 閉講の挨拶	藤田副会長 (埼短協)	

2 2 学習オーガナイザー養成研修

1 趣 旨 男女共同参画社会を推進するためには、学習者に対し効果的な研修を企画・実施する必要があるが、男女共同参画の視点に立った研修プログラムの企画・運営について十分な力量をもった人材は限られており、その養成が課題となっている。

NWECでは、これまでに実施した多くの研修や調査研究の成果を活用し、「男女共同参画の視点をもったキャリア開発」をテーマとした体系化された学習プログラムを企画・実施する「学習オーガナイザー」を養成する研修を開催した。

男女共同参画をテーマとした学習プログラムの企画実績を持つ者を主たる対象として、男女共同参画の基本理念や取組の意義、社会状況や現代的課題について整理するとともに、学習方法や評価の視点など事業実施上のノウハウについての学びの機会を提供することで、経験者の知見・技能のブラッシュアップを図り、このような人材養成をもって男女共同参画の推進を図る。

2 目 的 (1) 男女共同参画意識の醸成、キャリア開発についての基礎的理解、背景としての実態・課題の把握を通じ、課題解決に結びつくプログラムの企画・実践力を形成する。
(2) 「男女共同参画」と「キャリア開発」の二つの視点をもった学習プログラムを企画・実施できる人材の育成を通じ、男女共同参画社会の形成を推進する。

3 主 催 独立行政法人国立女性教育会館 (NWEC)

4 会 場 NWEC

5 期 日 平成27年1月14日(水)～1月16日(金) 2泊3日

6 対 象 研修・学習事業、女性のキャリア開発、女性の活躍推進に係る事業等の経験を有するとともに、エンパワーメントを図りたい方(経験年数おおむね3年以上)

7 参 加 者 34名

8 都道府県別参加者数

都道府県	人 数								
北海道	2	埼玉県	3	岐阜県		鳥取県		佐賀県	1
青森県	1	千葉県	3	静岡県	2	島根県		長崎県	
岩手県	1	東京都	3	愛知県		岡山県		熊本県	1
宮城県		神奈川県	2	三重県		広島県	1	大分県	
秋田県		山梨県		滋賀県		山口県		宮崎県	
山形県		新潟県		京都府		徳島県		鹿児島県	1
福島県		長野県		大阪府	1	香川県	1	沖縄県	
茨城県		富山県	1	兵庫県		愛媛県	1	無回答他	
栃木県	2	石川県	2	奈良県		高知県		合 計	34
群馬県		福井県	1	和歌山県	1	福岡県	3		

9 プログラムデザイン

別紙添付

10 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
1月14日 13:00～13:15	(1) 開会 ①主催者あいさつ ②オリエンテーション	内海 房子 (NWE C 理事長) 石崎 裕子 (NWE C 事業課専門職員)	
13:15～14:45	(2) 講義「男女共同参画の基礎的理解を深めるために」 男女共同参画の歴史的経緯や、個としての女性と社会との関係などを踏まえつつ男女共同参画の今日的な理解について講義を行う。	講師：神田 道子 (東洋大学名誉教授・NWE C客員研究員)	女性と社会との関係からみた「男女共同参画」の歴史社会的位置を踏まえた上で、社会的共通基盤としての「男女共同参画社会基本法」の位置づけや男女共同参画推進の実践における学習・教育の戦略的重要性と課題などについて認識することができた。
15:00～16:30	(3) 講義「キャリア開発の基礎的理解を深めるために」 キャリア開発の基礎的理解及びその現代的意味についての理解を深めるための講義を行う。キャリアの持つ個人的側面と社会的側面について学習する。また、併せて、国立女性教育会館が考える男女共同参画の視点をもったキャリア開発学習オーガナイザーの意義と役割について学ぶ。	講師：亀田 温子 (十文字学園女子大学人間生活学部教授)	個人の能力発揮にとどまらない、社会変革につながる自分の生き方をつくる「キャリア開発」の重要性について論じ、併せて「キャリア開発」をテーマとした学習プログラムの企画運営の核となる学習オーガナイザーの意義と役割について理解を深めることができた。
19:00～20:30	(4) ワークショップ1「アイスブレイク」 午後の講義内容を踏まえ、キャリア開発に関連づけた自己紹介ワークやアイスブレイクを体験する。	講師：引間 紀江 (NWE C事業課専門職員)	ワークショップ形式での自己紹介を行い、翌日からのグループワークを円滑に進めるための関係性が構築された。
1月15日 9:00～9:50	(5) 講義「統計から考える男女共同参画の現状」 意識調査、国際比較調査などの豊富な統計データについての解説を交えながら、我が国の男女共同参画の現状を読み解く。	講師：渡辺 美穂 (NWE C研究国際室研究員)	男女共同参画統計の定義やその意義について理解し、性別役割分担などに関する意識調査や国際比較調査などの統計データを通して、我が国の男女共同参画の現状を把握することができた。
10:00～11:00	(6) 講義「学びあいの支援方法について」 学習方法の理論的基礎について学ぶ。	講師：佐々木 英和 (宇都宮大学地域連携教育研究センター准教授)	一人一人の多様な学習者が「学びあい」を進める上で、最も基盤に置くべきポイントとは、「聞きあい」であることを踏まえ、「聞く一聴く一訊く」を自覚化することによる相互学習の可能性を、実際にペアワークを通して、体験的に学ぶことができた。

11:10~14:20	(7) ワークショップ2「キャリア開発の視点に立った事例分析」 女性のキャリア開発を進める要因は何か、また、キャリアを開発した人に共通する視点・項目について、事例に基づき具体的に把握する。途中で昼食休憩(60分)をはさむ。	講師:西山 恵美子(NWEC客員研究員)	グループワークを通して、『社会参画と女性のキャリア形成事例集』(NWEC編、2013年)に掲載されているNPO・団体代表として社会活動を行っている女性の事例を用いて、その経歴の分析作業を行い、キャリア開発をしていく上での課題への理解を深めることができた。
14:30~15:00	(8) 講義「ブレない企画を作成するための基本」 NWECが開発したプログラムデザインの考え方について解説する。	講師:中野 洋恵(NWEC研究国際室長)	今回の「学習オーガナイザー養成研修」に沿って、「男女共同参画推進意識の涵養、方向性・ビジョン」「実態・問題・課題把握、分析」「実践力=課題解決」の三要素からなるNWECが開発したプログラムデザインの考え方を学ぶことができた。
15:00~15:30	(9) 情報提供「事業実施における準備・運営実践のポイント」 学習オーガナイザーとして、実際に企画を作る際に考慮しなければならないポイントについて学ぶ。	講師:石崎 裕子(NWEC事業課専門職員)	事業を実施していく上での事前の準備(講師依頼、広報など)や当日の業務分担など運営上のポイントについて参考となる情報を得ることができた。
15:45~17:15	(10) ワークショップ3「企画のり・デザイン」 ここまでの講義やワークショップで学んだ内容を踏まえ、参加者が持ってきた事例(企画)を検証する。さらに、課題を立て、課題別グループでプログラムデザイン作成の作業を行う。	講師:松下 光恵(NPO法人男女共同参画フォーラムしずおか代表理事)	達成目標の設定の仕方やターゲットの絞り込み方、日時の設定や予算のたて方など企画をたてる上でのポイントについて理解を深めることによって、各自持参したこれまでに実施した事業の企画書やチラシの良い点や改善点を改めて認識することができた。
19:00~20:00	(11) 情報交流会 全国からの参加者同士のネットワークづくりを図り、交流を深める。		事業企画担当者として抱える課題を解決するヒントを得たり、参加者同士のネットワークを広げるための関係性を深めることができた。事業を企画していく上での共通の苦労や悩みを共通する機会となった。
1月16日 9:00~10:00	(12) 講義「事業評価力を身につける」 事業評価やアウトプット、アウトカムについて学ぶ。	講師:櫻田 今日子(NWEC事業課長)	PDCAサイクルや評価基準(定量的評価・定性的評価)、アウトプットとアウトカムの考え方などについての基礎的理解を学ぶことができた。
10:10~12:30	(13) ワークショップ4「まとめと成果の共有」	コメンテーター: 神田 道子(東洋大学)	3日間にわたるこれまでの講義やワークショップでの学

	これまでの学習を踏まえ、学習オーガナイザーの役割を再認識する。その上で、実施するセミナーの企画案をグループ毎に作成する。最後に、グループ毎に発表を行い、出来上がったプログラムを検証する。	名誉教授・NWE C 客員研究員) 西山 恵美子 (NWE C 客員研究員)	びを踏まえ、実施するセミナーの企画案をグループごとに作成した。コメンテーターからのアドバイスによって、企画をたてる上で、キャリアを開発するプログラムとしてはっきりと筋を通すことの重要性についての認識を深めた。
12:30~12:45	(14) 閉会		

1.1 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

- ・今回初めての実施であったが、企画委員会方式でプログラム内容について検討を積み重ねてきた。これにより、講義形式とワークショップ形式のプログラムをバランスよく組み合わせ、男女共同参画意識の醸成、キャリア開発についての基礎的理解、その背景としての実態・課題の把握、さらに課題解決に結びつくプログラムとした。
- ・調査研究や開発した研修プログラムや「プログラムデザイン」などNWE Cがこれまで蓄積してきた知見を活用して企画を組んだ。
- ・学習オーガナイザーが企画する具体的な学習プログラムのテーマとして「男女共同参画の視点をもったキャリア開発」を選んだのはあらゆる年代層へのアプローチが可能と考えたからである。
- ・アンケートには、少し講義内容が難しかったという意見も寄せられたが、講義・ワークショップを含め研修全体に対して好評であった。
- ・参加者についても、定員 30 名を超える 34 名の参加があった。地域バランスについても埼玉・千葉・全国各地にわたった。参加者の多くが男女共同参画センター等で事業の企画に携わっており、おおむね当初想定した対象から参加者を集めることができた。
- ・全日程参加者に対しては、修了証を出すことにより、参加者の動機・意識づけを高める工夫をした。

1.2 プログラム全体で得られた知見

- ・女性と社会の関係からみた「男女共同参画」の歴史社会的位置や「男女共同参画社会基本法」が男女共同参画を推進する上での社会的共通基盤であることをふまえた上で、個人の能力発揮にとどまらない、社会変革につながる自分の生き方をつくる「キャリア開発」の重要性を改めて認識し、学習プログラムの企画・実施には、「男女共同参画」と「キャリア開発」の二つの視点が必要であることを、講義、ワークショップなど3日間にわたるプログラムを通して理解することができた。

1.3 プログラムの成果

- (1) 参加者の全体の満足度について
100.0% (非常に満足 84.4%、満足 15.6%)
- (2) 参加者のプログラムの有用度について
100.0% (非常に有用 84.4%、有用 15.6%)

1.4 今後の課題及び展望

- ・3日間を通したプログラム全体については、限りある日程に対してプログラムを盛り込みすぎた感もある。今後はプログラムをより精査し、同時にプログラムからプログラムへの流れについてもさらに意識したい。
- ・男女共同参画センター等で事業の企画・運営に携わっている参加者の主な関心は、「キャリア開発」の視点を学ぶことよりも、事業を企画運営する上での実践的な方法を学ぶことへの期待が大きかった。来年度以降は、「キャリア開発」の視点がどのようなものであるか、モデルプログラムを提示することなどによって、参加者によりはっきりと伝わるように工夫をしたい。
- ・研修参加者が、現場に戻って、実際に事業企画を立てる際には、プログラム内容などについて、N

WEC側も相談にのるなど協力関係を築いていきたい。

- ・NWE Cが8月に実施している「男女共同参画推進フォーラム」で、この研修に関する会館提供ワークショップを実施し、参加者が研修後に、企画したプログラムについての発表の場としたい。



講義「男女共同参画の基礎的理解を深めるために」
神田道子 東洋大学名誉教授



講義「キャリア開発の基礎的理解を深めるために」
亀田温子 十文字学園女子大学教授



講義「学びあいの支援方法について」
佐々木英和 宇都宮大学准教授



ワークショップ2
「キャリア開発の視点に立った事例分析」
西山恵美子 NWE C 客員研究員



ワークショップ2
「キャリア開発の視点に立った事例分析」



ワークショップ3
「企画のリ・デザイン」
松下光恵 NPO法人男女共同参画フォーラム
しずおか代表理事

「学習オーガナイザー養成研修～男女共同参画の視点をもったキャリア開発プログラムのために～」プログラムデザイン

【講座の趣旨】

効果的な学習成果に結びつく学習機会の提供のためには、全体として体系化された学習プログラムが必要である。男女共同参画社会を目指した人材育成においても、学習プログラムを企画し、実施する力量が必要とされている。こうした人材を養成するための学習機会が求められている。

そこで、社会参画キャリア開発を切り口として、男女共同参画の視点に立った学習プログラムを組み、「学習オーガナイザー」を養成する研修を実施する。男女共同参画をテーマとした研修に携わった実践者を持つ者を主たる対象として、男女共同参画の基本理念や取り組みの意義、社会状況や現代的課題について改めて整理するとともに、事業実施上のノウハウについても学ぶことができる研修とする。

【対象】 男女共同参画に関する研修企画・実施について実務経験おおよそ3年以上を有する者など。(定員 30名)

【目的】 男女共同参画の視点に立ち、効果的な研修を企画・運営する人材を養成する。

「学習オーガナイザー」としての必要な力量を形成する。

男女共同参画意識の醸成、キャリアについての基礎的理解、キャリア開発についての実態・課題把握、課題把握、課題解決のための企画力・実践力を形成する。

【学習の基本的課題】

男女共同参画意識の涵養、基点・基軸の形成

- 【目標】
- 基礎的理解をする
 - ①男女共同参画とは何か
 - ②歴としての女性と社会の関係
 - ③男女共同参画への歴史と変化
 - ④ジェンダー統計による実態把握

- 【講座内容】
- 講義
 - ・男女共同参画とは何か
 - ・歴史的経緯を踏まえて(今、自分はどこにいるか)
 - ・個としての女性と社会との関係
 - ・女性の歴史的立場・参画への動き
 - ・学習オーガナイザーの意義と役割

○グループワーク

- ・キャリアを絡めた自己紹介

社会参画キャリア開発の基礎的理解

- キャリアの実態と課題の把握・分析
- 政策の理解と実態把握
- プログラムの実態

- 講義
 - ・社会参画キャリア開発の基礎的理解
 - ・ライフキャリア、ライフパスとの関係
 - ・社会参画キャリアの多様性

○グループワーク

- ・女性のキャリア開発を進める要因は何か。事例研究より社会参画キャリアを形成した人に共通する視点・項目を探っていく

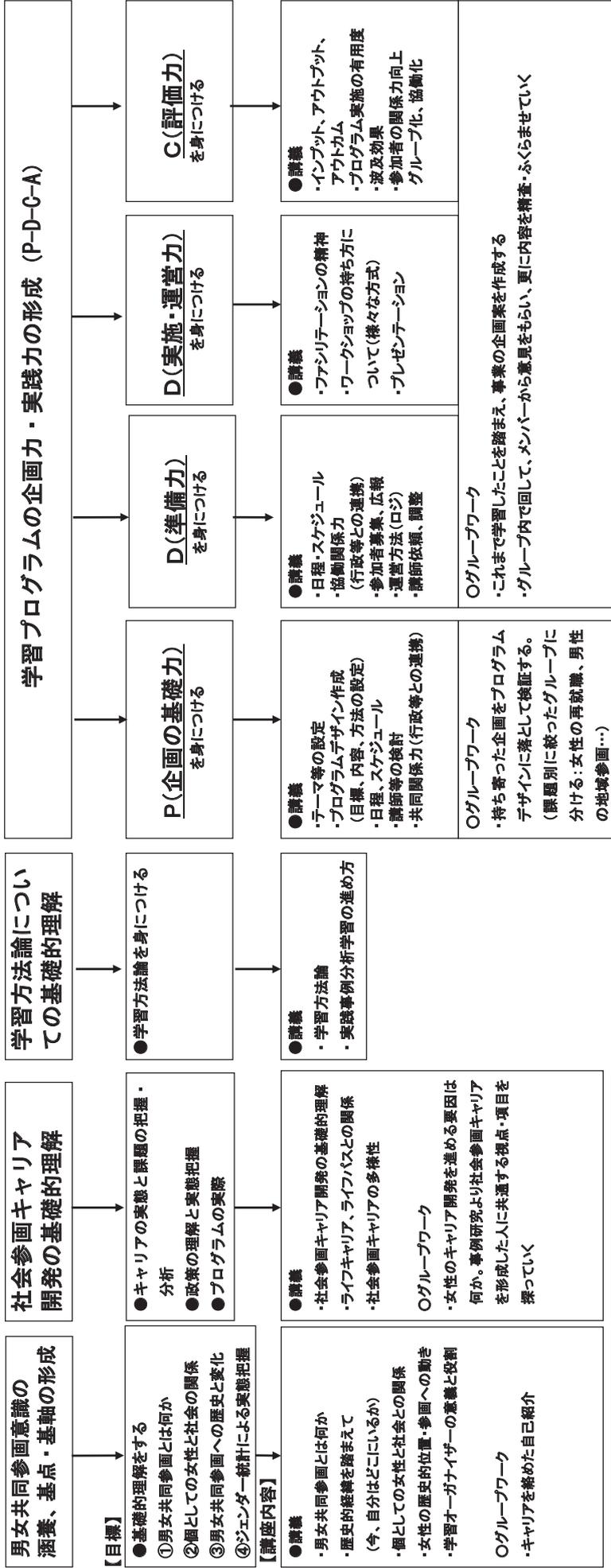
学習方法論についての基礎的理解

●学習方法論を身につける

- 講義
 - ・学習方法論
 - ・実践事例分析学習の進め方

【プログラムの特徴】

- ①男女共同参画の基本理念について学習(復習)することができる。
- ②キャリア開発の基礎的理解を得ることができる。
- ③学習方法論の基礎的理解とその活用について学ぶことができる。
- ④学習プログラムの作成能力を身につけることができる。
- ⑤学習プログラムの実施能力を身につけることができる。
- ⑥評価の視点を身につけることができる。
- ⑦研修のアウトカムを高める方法を考える。
- ⑧参加費は無料。



※講義：積み上げられてきた知識の提示と理解

※ワークショップ：主体的な学習。連携協働関係の形成

※ジェンダー統計を活用した学習：自分の位置を時間的・空間的なつながりの中で把握

※実践事例分析の学習：日常経験からの相互学習。事例の重視

VI ボランティアの受入れ・支援

23 NWEC ボランティアの活動支援

2 3 NWE Cボランティアの活動支援

1 趣 旨

(1) 概要

国立女性教育会館では昭和52年の設立以来、利用者及びボランティア自身の多様な生涯学習を促進するとともに、利用者への質の高いサービスの提供と他機関・団体等との連携協力のための活動としてボランティアを受け入れている。平成27年3月現在の登録者数は56名（女性48名 男性8名）である。

国立女性教育会館におけるボランティア活動は、国内外からの会館利用者に対し、効果的な事業運営への協力、利用者の立場に立った支援、国立女性教育会館事業の広報、生涯学習活動の推進等に大きな役割を果たしている。

(2) 活動の方針

「国立女性教育会館ボランティア」とは、利用者及びボランティア自身の多様な生涯学習を促進するとともに、利用者への質の高いサービスの提供と他機関・団体等との連携協力のための活動を行う者を言い、下記の方針によりボランティアを受け入れている。

- ① 利用者の多様なニーズに対応し、事業運営の活性化を図ることを目的として、責任あるパートナーとしてボランティアを受け入れる。
- ② 利用者への質の高いサービスをめざすため、会館資源を活用した自主的な活動を行えるよう支援する。
- ③ 会館におけるボランティア活動の成果を地域・社会へ普及・還元できるよう支援する。

2 事業の実施概要

(1) ボランティアの活動内容

ボランティアに協力を依頼する活動は、ボランティアからの申し出及び利用者からの要望をもとに、会館が決定している。

なお平成26年4月1日から平成27年3月31日までの延べ活動数は、総計762回であった。活動区分別内訳は、以下のとおりである。

- ①主催事業・国際交流（主催事業の受付など）（計198回）
- ②受入（利用者への施設見学案内、地域との連携など）（計94回）
- ③情報（女性教育情報センターでの新聞・パンフレットの整理・ファイルなど）（計104回）
- ④環境整備（施設の修繕、本館ロビーの雑飾り・七夕飾りなど）（計161回）
- ⑤自主活動（計205回）

(2) ボランティア連絡会議

平成26年度は、以下のとおり3回（6月、9月、3月）の連絡会議を開催した。各回とも、新規登録者には、事前に「国立女性教育会館のボランティア活動」についての説明を行った。

各回とも、ボランティア自身の男女共同参画やボランティアの本質への理解、地域活動への広がりを進めるために、情報提供、会館ボランティアによる時間を設定した。

【第1回】日時：平成26年6月24日（火）14：00～16：00

参加者：29名 新規登録者0名

主な内容

- ・新任職員の紹介
- ・各課室より平成26年度に協力を求める事業について説明
- ・情報提供

「会館ボランティアの活動について」

講師：櫻田 今日子 NWE C事業課長

- ・会館ボランティアによる時間

「平成26年度男女共同参画推進フォーラムでのボランティアの活動について」

進行：高橋 由紀 NWE C事業課客員研究員

【第2回】日時：平成26年9月9日（火）14：00～16：00

参加者：19名 新規登録者0名

主な内容

- ・新任職員の紹介
- ・情報提供
「男女共同参画社会の実現に向けて～平成25年度内閣府パンフレットについて～」
講師：千装 将志 NWE C事業課専門職員
- ・会館ボランティアによる時間
「平成26年度男女共同参画推進フォーラムでの活動実施報告と反省」
進行：高橋 由紀 NWE C事業課客員研究員

【第3回】日時：平成27年3月12日（木）14：00～16：00

参加者：30名 新規登録者1名

主な内容

- ・新年度のボランティア登録について
- ・情報提供
「NWE Cの事業展開について」
講師：櫻田 今日子 NWE C事業課長
- ・会館ボランティアによる時間
「今年度の活動の振り返り」
進行：高橋 由紀 NWE C事業課客員研究員

(3) ボランティア活動研究会

①趣旨

国立女性教育会館で実施されるボランティア活動の事例発表や情報交換を通して、ボランティア活動の状況や課題を理解するとともに、活動の充実に向けた具体的方策や内容を協議し、国立女性教育会館ボランティア活動の充実・発展、並びにボランティアの資質の向上と連携の促進を図る。

②日 時：平成26年12月19日（金）14：00～16：30

③参加者：29名 新規登録者3名

④内 容：講演会

演題：「被災地からの伝言～巨大津波体験を語る～」

講師：庄司 アイ 氏（やまもと民話の会代表）

(4) 主にボランティア主体の利用・サービスの充実に向けた取組

①平成26年度「男女共同参画推進フォーラム」

・実施日：平成26年8月29日（金）～31日（日）

・実施内容

ア さんかくの広場

・情報交換、出会い、憩いの場として実技研修棟にて飲み物の提供を行った。また「NWE Cの思い出のしおり」「3・11の証言（小冊子）」を配付した。飲み物の売り上げによる収益は東日本大震災の被災地への寄附金とした。

イ 野の花を飾る

・本館、講堂、さんかくの広場会場など、館内各会場に花を飾り、研修参加者へのNWE Cからのおもてなしの心を表現した。

ウ 交流会の進行

・2日目夜に実施された交流会にて司会進行や運営補助として関わった。

エ スエック・マルシェ

・東日本大震災復興支援をテーマに研修棟1階ラウンジで活動した。売り上げは、運搬経費を除いて被災地への寄附金とした。

オ モーニング・アクティビティ

- ・ 2日目、3日目の朝に散歩を兼ねて会館の設立、目的、事業などについてガイドするとともに、ストレッチ体操を行った。

カ 身近なもので体力チェック

- ・ 2日目の午前、音楽室にて手作りの道具等を使い、体力測定を実施した。

キ NWE C・比企紹介プログラム

- ・ 会館敷地内の落葉広葉樹、万葉の植物の落ち葉の押し葉を使った作品づくり、万葉植物の観察を行った。また、地元比企の紹介として、小川町の和紙についての説明、仙覚あめの試食、ときがわ町の秋海棠（シュウカイドウ）の切り花、苗木の配付を行った。

②平成26年度「嵐山さくらまつり 夢さくら 国立女性教育会館展望ツアー」

- ・ 実施日：平成26年4月5日（土）、6日（日）（各日10時、13時、15時の計6回）

・ 実施内容

「嵐山さくらまつり」（主催：嵐山さくらまつり実行委員会・嵐山町商工会）への協力事業として実施した。会館ボランティアが、都幾川沿いに2キロメートルにわたって植えられた252本の桜並木の眺望を宿泊棟の屋上から案内した。2日間の参加者は201名であった。

6日（日）には、響書院にてお茶会も開催され、約80名の参加者が一服を楽しんだ。



NWE Cフォーラム・さんかくの広場



NWE Cフォーラム・野の花を飾る



NWE Cフォーラム・押し葉を使った作品づくり



嵐山さくらまつり・さくら展望ツアー

(5) 社会教育功労者表彰受賞

NWECボランティア 正木光子さんが、文部科学省が所管する独立行政法人における社会教育活動に功労のあった者を表彰する、平成26年度社会教育功労者表彰を受賞された。

NWECボランティアとして、利用者への会館施設案内や主催事業の運営に関する支援など、様々な活動を続けてこられたことに対し、長年の活動が評価されたもの。



<参考資料>

独立行政法人国立女性教育会館の
業務運営に関する計画（平成 26 年度）

独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画（平成26年度）

平成26年3月31日
文部科学大臣へ届け出

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三号）第三十一条の規程により、独立行政法人国立女性教育会館中期計画（平成23年3月31日文部科学省大臣認可）に基づき、平成26年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上

(1) 基幹的指導者に対する研修等の実施

①企業を成長に導く女性活躍促進セミナー

- ・企業における人材活用の推進者、管理職、チームリーダー等を対象に、企業内の男女共同参画及び女性の活躍を促進するための実践的なセミナーを実施する。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

②女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修

- ・全国の女性関連施設の管理職、男女共同参画行政責任者、女性団体のリーダー等を対象に、地域の男女共同参画を積極的に推進するリーダーとして必要な専門的知識、マネジメント能力、ネットワークの活用等を内容とする高度で専門的、実践的な研修を実施する。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。
- ・研修事後に実施するフォローアップ調査の回収率を高めるとともに、研修成果の活用について、回答者の80%以上からプラス評価を得る。
- ・参加者の地域的なバランスを促進するため、計画的な取組を行う。

③大学等における男女共同参画推進セミナー

- ・大学、短期大学、高等専門学校における意思決定組織に所属する教職員、男女共同参画推進部局の責任者等を対象に、男女共同参画意識の学内への浸透方法、女性研究者支援、女性リーダーの養成方策、男女共同参画社会の実現に向けた女子学生キャリア形成支援を内容とする高度で専門的、実践的な研修を実施する。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

④男女共同参画推進フォーラム

- ・行政・企業・大学・NPO等の組織における男女共同参画推進担当者、女性団体、女性／男女共同参画センター職員、その他男女共同参画に関心のある者を対象に、男女共同参画のための意識変革、女性活躍促進、女性のキャリア形成支援、ワーク・ライフ・バランス等の課題解決に資するための研修を実施するとともに、分野横断的に、連携・協働を推進するためのネットワーク形成を図る。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

(2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム、研修資料の作成

①大学等における男女共同参画に関する調査研究

- ・大学等の研究機関における女性研究者支援を促進するため、課題を明らかにすることを目的とした調査研究を実施するとともに、ガイドブックを作成する。
- ・2年計画で行う調査研究の2年次として、1年次に実施した国公立大学の男女共同参画推進機関へのヒアリング調査をもとにガイドブックを作成する。

②女性関連施設に関する調査研究

- ・女性関連施設の機能の充実・強化を図るため、人材育成、災害復興時における男女共同参画の視点等、新たな課題の実態把握と分析をテーマに5年計画で行う調査研究の4年次として、全国の女性関連施設が取り組む事業や組織形態に関する実態調査を実施し、報告書を作成する。
- ・作成した資料を用いた研修について、事後に実施するフォローアップ調査の充実を図り、研修の成果を的確に把握することにより、研修内容を見直す。

2. 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラムの開発・普及

(1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施

①若手男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究

- ・生涯を見据えた早期からのキャリア形成支援を、男女共同参画の視点に立って行うための方策を探ることを目的とした調査研究を実施する。
- ・2年計画で行う調査研究の1年次として、若者を対象とした調査の方法について検討する。

②女子大生キャリア形成セミナー

- ・大学等におけるキャリア教育の充実に資するよう、学生を対象としたキャリア教育プログラムを開発し、大学等と連携して実施する。

(2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修

①女性関連施設相談員研修

- ・女性のエンパワーメント支援を目指し、複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談業務の質の向上を図るため、女性に対する暴力や女性の貧困など、喫緊の課題解決に必要な知識・技能習得のための、専門的・実践的な研修を行う。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からのプラス評価を得る。

②行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修

- ・社会が抱える様々な喫緊の課題を解決するために、行政や関係機関等が実施する研修について、これまで会館が実施してきた研修の経験や女性教育、男女共同参画等に関する専門的知識を活かし、連携して実施する。
- ・平成26年度は、科学技術振興機構の委託を受け、女子中高生に理系進路選択の魅力を伝えることを目的として「女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～」を実施する。研修実施にあたり、参加者の85%以上からのプラス評価を得

る。

③教育・学習プログラム実施に関する支援

- ・研修プログラムの内容や調査研究の成果を、ホームページなどを通じて広く公開し、男女共同参画に関する事業を実施する関係機関等の参考に資する。
 - ・男女共同参画をテーマとした研修等を実施する女性センターへの支援として、講師幹旋などのサービスを一部地域を対象に試行的に実施する。
- また、男女共同参画人材情報データベースの掲載情報を充実させる。

3. 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等

(1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供

①男女共同参画統計に関する調査研究

- ・平成23年度に作成した『男女共同参画統計データブック2012』のデータを更新するとともに新たな課題に対応するデータを収集し、『男女共同参画統計データブック2015』を作成する。
- ・統計調査の成果等を提供する「男女共同参画統計ニュースレター」の配信先を1,800件まで拡充する。

②調査研究成果の普及

- ・基幹的指導者の資質・能力の向上及び喫緊の課題をテーマとして実施した調査研究の成果について、ホームページやリポジトリ等を通じて普及する。

(2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供

①情報資料の収集・整理・提供（大学・企業関係資料の充実）

- ・男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書について、地域レベルでは収拾困難な広域的、専門的な資料を収集するとともに、レファレンスサービス、文献複写サービス、図書資料の展示などによる情報提供を行う。
- ・引き続き大学の男女共同参画推進部署が発行する資料の収集に力を入れるとともに、企業の男女共同参画推進部署が発行する資料の収集を開始する。
- ・研修受講者への学習支援を強化するため、研修テーマに沿った資料リストを女性情報ポータル（W i n e t）に掲載するなど情報提供を充実させる。

②女性情報ポータル及びデータベースの整備充実

- ・女性ポータルのアクセスについて、年間30万件以上を達成する。

③図書のパッケージ貸出

- ・各施設における男女共同参画事業を支援するため、テーマ毎にパッケージ化した図書の貸出を引き続き実施するとともに、新たに高等専門学校への貸出を開始する。

(3) 女性アーカイブ機能の充実

①女性アーカイブ機能の充実

- ・歴史的価値、研究資料的価値を有する女性関連史・資料を1千点以上収集・整理し、女性アーカイブシステム及び女性デジタルアーカイブシステム、展示を通じて利用に供するとともに、インターネットを通じて広く一般に公開する。
- ・災害復興支援に各地の女性センターが果たした実績（活動記録）を女性アーカイブとして残し、公開する事業「災害復興支援女性アーカイブの構築」を、女性センター等と連携・協力して引き続き行う。
- ・展示室への入室について、累計3万8千人以上を達成する。
- ・女性アーカイブの企画展を他機関と連携して実施する。

②女性情報アーキビスト養成研修

- ・女性アーカイブの保存技術や整理方法を体系的に学ぶ最初の一步として、実務者30名以上を対象に基礎情報を提供する「女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）」を実施する。
- また、実務者同士の情報交換の場を提供することでネットワークづくりを推進する。
- ・基礎コースの修了生10名を対象に、女性アーカイブの保存や整理に必要とされる基本的実技を学ぶ「女性情報アーキビスト養成研修（実技コース）」を実施する。

4. 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進

(1) 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施

- ・女性関連施設、女性団体、民間団体、企業、大学等と男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する情報交換を行うとともに、7以上の機関等と協働で事業を実施し、連携効果による多様な企画や講師の活用を図る。
- ・全国の関係機関・団体からの依頼に基づき、職員や客員講師を派遣する。

(2) 交流機会の提供による会館を中心としたネットワークの構築

①男女共同参画推進フォーラム【再掲】

- ・行政・企業・大学・NPO等の組織における男女共同参画推進担当者、女性団体、女性／男女共同参画センター職員、その他男女共同参画に関心のある者を対象に、男女共同参画のための意識変革、女性活躍促進、女性のキャリア形成支援、ワーク・ライフ・バランス等の課題解決に資するための研修を実施するとともに、分野横断的に、連携・協働を推進するためのネットワーク形成を図る。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

5. 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進

(1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力、連携に資する研修の実施

①アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー

- ・開発途上国等において男女共同参画の政策策定ならびに政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者及びNGOのリーダーを対象に、女性の能力開発に係る喫緊の課題をテーマとした参加型の実践的なセミナーを行う。
- ・研修実施にあたり、参加者の90%以上からプラス評価を得る。
- ・研修修了生等による出身国での成果の活用についての調査を行い、同調査の結果等を

踏まえ、研修の効果的な実施の観点から、研修内容等の見直しを行う。

②国際協力機構との連携による研修

国際協力機構が実施する開発途上国の行政職員等を対象とした研修について、男女共同参画、女性教育に関する専門的な観点から連携して実施する。

③NWE C国際シンポジウム

・女性の人權やエンパワーメントに係る地球規模の課題をテーマに海外の専門家を招へいするNWE C国際シンポジウムを開催し、地球規模の課題分析を行い、海外の研究者や行政関係者・女性団体等指導者との交流を深めるとともに、意見交換を行う。

・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

(2) 国際的なネットワークの構築

・研修修了生等に対し、研修終了後の定期的なメール送信や議論の呼びかけを通じネットワーク構築を図る。

・研修成果について、「男女共同参画推進フォーラム」におけるパネル展示や英文報告書の会館ホームページへの掲載等の方法により国内外に普及する。

6. 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進

(1) 利用者への学習支援

・施設を利用する団体・グループ・個人が企画・実施する研修等のプログラムについての学習相談を受け、研修プログラム作成を支援する。

・会館が有する専門性を活かして男女共同参画や女性教育に関する学習機会を提供する。

・インターネットで提供する学習教材について、試験的に提供を開始する。

(2) 利用の拡大

利用拡大戦略（年度）を作成し、企業・大学向けのサンプルプランの作成・提案を行うなど大学・企業等からの利用を促進する。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 適切な法人運営体制の充実

(1) ガバナンス・内部統制の充実

・原則として毎週、係長以上が参加する運営会議を開催し、理事長のリーダーシップのもと、会館が担う役割やリスク等の課題について職員全員が情報を共有する。

・職員の業務遂行に関する資質・能力の向上を目的とした研修を実施する。

・リスク低減に向けた規程等についての見直しを行い、職員全員に周知徹底する。

・会館の業務の有効性・効率性、法令の遵守、財務会計の透明性等の観点から職員全員を対象としたモニタリングを実施するとともに、結果については役職員に周知し、必要に応じて組織運営の改善に反映させる。

2 人件費・管理運営の適正化

(1) 人件費・管理運営の適正化

・政府における総人件費削減の取組を踏まえた見直しを行う。

- ・関係機関・団体との連携による経費等の削減に努める。
- ・関係機関・団体との人事交流や客員研究員等外部人材の活用など、多様な人材を確保することにより、組織を活性化する。

(2) 保有資産の見直し

- ・保有資産について、運営会議等において見直しの検討を行い、外部評価委員会等において検証する。

3 業務運営の改善

(1) 業務運営の改善

- ・効果的・効率的な業務運営を行う観点から、事務・事業の見直し、検証を定期的に運営会議で行い、業務運営に反映させる。
- ・施設の管理運営については、PFI化を含む外部委託する等、事務事業の効率化を検討するとともに、必要に応じて組織の再編等を行う。

(2) 人材育成、多様な人材の活用

- ・職員の資質・業務遂行能力の向上に資するため研修を実施する。
- ・外部人材の活用による組織の活性化について、引き続き検討を行う。

4 業務運営の点検・評価

(1) 自己点検・評価等による業務の改善

- ・自己点検・評価委員会による評価を実施する。その際、各事業間の有機的連携を重視した自己点検・評価を行う。
- ・自己点検と連動した外部評価を実施する。
- ・評価結果をホームページで公表する。

III 予算・収支計画及び資金計画

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な運営を行う。また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算により運営する。

- 1 予算（人件費の見積もりを含む。）
別紙1のとおり
- 2 収支計画
別紙2のとおり
- 3 資金計画
別紙3のとおり

IV 財務内容の改善に関する事項

(1) 契約の点検・見直し

- ・引き続き、入札可能な契約案件については一般競争入札を実施する。
- ・一者応札となった契約については、公告期間、入札参加条件、仕様書の見直し等の改善を行い、可能な限り一者応札の削減を図るとともに、契約監視委員会等による定期

的な契約点検を実施する。

(2) 外部資金の導入

科学研究費補助金等の申請や国・民間企業等からの受託事業等の積極的な受入れを行い、外部資金を確保する。

(3) 自己収入の拡大

- ・宿泊室利用率の向上等により、自己収入の拡大を図る。
- ・会館の活動について、広報実施計画（年度）を策定し、会館の利用促進を図る。

V 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は1億4千万円。短期借入金が想定されるのは、運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合である。

VI 余剰金の使途

会館の決算において、余剰金が生じたときは、研修事業、情報事業、調査研究事業及び交流事業の充実に充てる。

VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項

(1) 情報セキュリティ体制の充実

セキュリティポリシーに関する職員研修を実施する。

(以上)

平成26年度予算

(単位:百万円)

区 別	金 額
収入	
運営費交付金	522
施設整備費補助金	—
入場料等収入	126
受託収入	5
計	653
支出	
業務経費	363
うち研修関係経費	255
うち調査・研究関係経費	26
うち情報関係経費	82
施設整備費	—
受託経費	5
一般管理費	285
計	653

[人件費の見積り]

平成26年度は189百万円を支出する。

但し、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、退職者給与及び国際機関派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

平成26年度収支計画

(単位:百万円)

区 別	金 額
費用の部	
經常費用	653
業務費	368
一般管理費	278
減価償却費	7
財務費用	
臨時損失	
収益の部	
運営費交付金収益	515
入場料等収入	126
受託収入	5
施設費収益	—
寄附金収益	
資産見返運営費交付金戻入	7
資産見返物品受贈額戻入	
純利益	
目的積立金取崩額	
総利益	

[注記]

当該法人における退職手当については、独立行政法人国立女性教育会館役員退職手当規程及び独立行政法人国立女性教育会館職員退職手当規程に基づいて支給することとし、毎事業年度に想定される全額を運営費交付金に加算する。

平成26年度資金計画

(単位:百万円)

区 別	金 額
資金支出	
業務活動による支出	650
投資活動による支出	3
次期中期目標の期間への繰越金	-
資金収入	
業務活動による収入	
運営費交付金による収入	522
入場料等収入	126
受託収入	5
投資活動による収入	
施設費による収入	-
前期中期目標の期間よりの繰越金	-

平成26年度 国立女性教育会館（ヌエック）
主催事業等実施報告書

— 平成 27 年 11 月 —

○編集・発行

独立行政法人 国立女性教育会館

〒355 - 0292 埼玉県比企郡嵐山大字菅谷 728 番地

TEL : 0493-62-6719 FAX : 0493-62-6722

e-mail webmaster@nwec.jp <http://www.nwec.jp/>

○製本・印刷 株式会社創志企画



古紙配合率100%再生紙を使用しています

平成 26 年度 国立女性教育会館

主催事業等実施報告書



NWEC